

町田市障がい者青年学級

実践報告集



2017年度 第43号

はじめに

2017 年度町田市障がい者青年学級事業について、「実践報告集第 43 号」を刊行いたしました。この報告集は、障がい者青年学級(以下「青年学級」)の活動の様子を綴り、分析して課題を明らかにし、さらに今後の活動の展望を語ることを目的に編集したものです。編集にあたっては、日頃から活動をご支援いただいている「担当者」(ボランティアスタッフ)の皆様にご尽力いただきました。

2016 年度の青年学級の活動を振り返りますと、3つの学級で 171 名の学級生が参加しました。活動内容としては、通常の学級活動以外に公民館学級は恒例の大地沢青少年センターでの宿泊合宿を行いました。ひかり学級と土曜学級では宿泊合宿か日帰り旅行を行うか話し合いを行い、ひかり学級では、貸し切りバスで横浜みなとみらいへ出かけ、土曜学級は 2 年ぶりの大地沢青少年センターでの宿泊合宿となりました。また年度末の成果発表会では各学級ともに新しい歌の作成や、日頃の思いを作文や劇を通して表現するなど、精力的な発表を行いました。特に 2 名の新たな仲間を迎えた公民館学級と土曜学級では、新人学級生を交えての学級活動が他の学級生にも刺激を与え、新たな学級活動を生み出す土台になりました。

一方で、担当者の体制は必ずしも充足しているとはいえ、担当者募集のために、市内外の大学・専門学校へのポスター掲示依頼や授業・ガイダンスでの PR、市内町内会の掲示板へのポスター掲示など積極的に広報活動を行い、結果として 14 名の方に担当者として新たに参加いただくこととなりました。

青年学級に参加する学級生を取り巻く環境は、ここ数年目まぐるしく変化しています。2014 年 1 月、我が国は「障害者権利条約」を批准しました。国連総会で採択された 2006 年以後、障害者虐待防止法や障害者総合支援法の施行、障害者差別解消法の成立、障害者雇用促進法の改正など、さまざまな制度改革を経たのち批准しました。この条約は様々な分野における権利実現のための取り組みを締約国に対して求めています。教育

を受ける権利についても、同条約第 24 条において規定しています。

また、まちだ史においても、2016 年 3 月には、障がいのある人の施策の基本計画として、「第 5 次町田市障がい者計画」が策定されました。この計画では、障がいのある人が希望する学びや文化芸術・スポーツ活動に参加しやすくすることを明記しました。

こういった条約の批准や計画の策定がされる中、優生思想を基にした、津久井やまゆり園での凄惨な事件が起きた翌年に、旧優生保護法による強制不妊手術が提訴という形で、改めて社会の中で問われることになりました。

このような時代に、障がいをもつといわれる人々が主体的に学び、社会参加し、自らの生を肯定し、地域で生活していくためにも、社会教育事業としての青年学級をより充実させる必要があります。町田に根付いた青年学級事業ですが、さらに社会の中で理解を深められ、より多くの市民の皆さんの参加を得て、事業を展開していけるよう努力と研鑽を重ねていきたいと考えています。

末筆になりましたが、事業の実施、「実践報告書」の作成など、日ごろから活動をご支援いただいている担当者の皆様、関係者の皆様のご尽力に感謝申し上げます。

2018 年 9 月

町田市生涯学習センター

目 次

はじめに	1	第4部 土曜学級	
第1部 学級活動の概要	5	第1章 班活動	
第2部 公民館学級		ハワイと虹班	87
第1章 コース活動		トーマスレインボースポーツ班	93
なでしこコース	17	一刀両断班	97
たんぽぽコース	23	トレンディものづくり班	103
よりみちコース	29	第2章 自治運営	
エビカニクスコース	37	1 班長会	107
自由カンガルーコース	45	第3章 考察	109
第2章 自治運営		第5部 地域への広がり	
1 班長会	52	第1章 サークル活動	
2 つどい委員会	52	1 おなべの会	115
第3章 考察	54	2 とびたつ会	117
第3部 ひかり学級		3 スケッチルーム	122
第1章 コース活動		第6部 学級を支える体制	
花コース	59	第1章 担当者会・調整会・学習会	125
虹ドリームアンド創作コース	65	第2章 送迎検討委員会	128
何でも最強スポーツコース	71	第3章 父母会	130
おでかけ料理コース	77	第7部 青年学級によせて	
第2章 自治運営		第1章 新人担当者として関わって	133
1 班長会	83	資料	137
第3章 考察	84		

2017年度障がい者青年学級(学級実施日)

回	月	日	活 動 内 容 (活 動 場 所)
	4.8	土	土曜学級 青年学級を語る会(生涯学習センター。以下「生涯セ」)
	4.9	日	ひかり学級 青年学級を語る会(ひかり療育園)
	4.16	日	公民館学級 青年学級を語る会(生涯セ)
1	6.4	日	ひかり学級 開級式(ひかり療育園) 午後1時半～午後4時
1	6.10	土	土曜学級 開級式(生涯セ) 午後1時半～午後4時
1	6.11	日	公民館学級 開級式(生涯セ) 午後1時半～午後4時
2	6.18	日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
2	6.24	土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
3	7.2	日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
3	7.8	土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
4	7.16	日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
4	7.22	土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
	8.26	土	土曜学級20周年記念式典(生涯セ) 午後3時～午後4時
5	9.3	日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
5	9.9	土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
6	9.16	土	公民館学級 合宿(大地沢青少年センター)
7	9.17	日	
6	9.23	土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
6	9.24	日	ひかり学級(ひかり療育園) 午前10時～午後4時
8・7	10.8	日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
7	10.14	土	土曜学級 合宿(大地沢青少年センター)
8	10.15	土	
9・8	10.22	日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
9	10.28	土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
10・9	11.5	日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
10	11.11	土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
10	11.19	日	ひかり学級 バスハイク(横浜みなとみらい) 午前8時半～午後4時半
11	11.25	土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
11	12.3	日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
12	12.9	土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
12	12.17	日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
13	1.13	土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
13	1.17	日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
14	1.27	土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
14	2.4	日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
15	2.10	土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
15	2.18	日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
16	3.3	土	土曜学級 成果発表会(生涯セ) 午前10時～午後4時
16	3.4	日	ひかり学級 成果発表会(生涯セ) 午前10時～午後4時
16	3.11	日	公民館学級 成果発表会(生涯セ) 午前10時～午後4時

第 1 部

2 0 1 7 年度

学級活動の概要

1. 青年学級のねらい

青年学級開設当初は20名に満たなかった学級生も、現在は十倍近い人数になり、3つの学級にわかれてそれぞれ独自の活動を展開しています。各学級ともに、青年学級開設当初からの目標である「生きる力・働く力の獲得」のもと、「自治」「生活づくり」「文化の創造」という3つの柱を軸に活動を行ってきました。

ここでいう3つの柱についてですが、まず「自治」とは学級生自身が活動を企画し、運営していくことを意味します。一人ひとりの学級生の意見をもとに、それを取りまとめる班長・副班長を中心とした集団活動が進められ、さらにその班長や副班長によって構成される班長会で学級全体を見渡していく、というような民主的なプロセスを重要視してきました。そして何よりも大切にしてきたことは、学級生がなにものにも束縛されることなく、一人ひとりの思いを自由に語るということです。とはいうものの、月2回の限られた活動のなかで、企画から運営まですべてを行うということは、たやすくありません。しかし、それらを大切にしていくことで、自分自身の意見を述べる機会や経験を持ちにくかった学級生一人ひとりの主体性は、確実に培われてきたのです。

次に「生活づくり」です。これは活動のなかでお互いの要求、職場や家庭での喜びや哀しみなどのさまざまな思いを伝え合い、一人ひとりの生活の様子や課題を集団の場に出し、その思いや要求を集団で受け止め共有していくことです。そのことを通して、自らの生活を振り返り、自分自身の存在を肯定し、人を思いやる仲間づくり・集団づくりが行われてきました。この集団での経験が、現実の厳しい生活に向き合い、積極的に自分の生活上の困難に立ち向かっていく力になるのではないかと考えられます。

このような自治的な集団をもとに、学級生の生活要求や課題を反映させることでつくられていく活動は、既成のものではない独自の「文化の創造」を通して、具体的なかたちを与えられ、さらに深められていきます。そ

れにより、学級生が活動のなかで実質的な主体者となり、ひいては生活場面でも主体的な存在となっていくことを目指しています。

実際の活動では、劇や音楽、絵などの様々な創作活動を素材として取り組み、経験の幅を広げながら活動を創りだしてきました。そして、このような「文化の創造」から、学級生の要求や働くことの誇り、喜び、苦しみ、仲間への思いなど、生活実感に根ざしたものを取り入れ、オリジナルソングに代表されるような、青年学級独自の表現文化活動を作り上げ、他者へアピールする力を築きあげてきました。

このように、文化活動に積極的に関わり、「文化の創造」を担っていくことは、自らの生活を振り返り、作り上げ、学級生が主人公として人生を切り拓いていく力につながると考えられます。

「文化の創造」活動の延長として、1988年からスタートした『若葉とそよ風のハーモニーコンサート』（以下、わかそよ）も、2017年5月に18回目が開催され、またこれに類する催し物が開かれるなどしていますが、これまでの青年学級の実践から、地域に打って出たコンサートであり、そこでは長年培ってきた学級生の自治の力が大いに発揮されています。

「自治」「生活づくり」「文化の創造」の3つが歯車のように回りながら学級生たちの生活をより豊かなものにしていき、大きな力になっていくことが、これまでの実践のなかで確認されてきています。このことを踏まえ、今年度もそれぞれの学級で実践が展開されました。

2. 青年学級の概要

(1) 各学級の活動の概要

青年学級は、現在、3つの学級にわかれて月2回の活動を行っています。そのうち「公民館学級」と「ひかり学級」は日曜日、「土曜学級」は土曜日に活動しています。

2017年度は3学級あわせて学級生171名（年度当初時点での在籍者数）、担当者62名（年度末時点で担当者または当日担

当者として活動に関わっていたボランティアの人数)で活動を行いました。一年間の活動は6月の開級式から、秋の合宿や日帰り旅行をはさんで、3月の成果発表会までの間に公民館・ひかり学級は原則として毎月第1・第3日曜日に、土曜学級は毎月第2・第4土曜日に行い、それぞれの学級で年14回の活動を行いました。また、活動体制としては、土曜学級が班体制、公民館学級とひかり学級がコース制をとりました。

(2) 活動日の大まかな流れ

タイムテーブルは3学級ともに概ね次のとおりでした。

10時～	朝のつどい
10時30分～	コース・班活動 (途中、昼食をはさむ)
15時30分～	帰りのつどい
16時	終了
16時～	班長会など

班長・副班長は、コースや班をまとめると共に、「班長会」に出席し、他のコースや班との連絡を取り合っ、各学級全体の活動について話し合い、学級の自治活動を行いました。他にも、公民館学級では、朝夕のつどいについて話し合う「つどい委員会」が帰りのつどいの後に行われました。

(3) 一年間の学級活動の流れ

4月	学級を語る会
6月	開級式
7月～2月	月2回の学級活動 (8月は休み、9～11月に1泊2日の合宿や日帰り旅行あり)
3月	成果発表会

3. 青年学級のこれまでの歩み

1974年度に開設された青年学級は体制面に着目すると、その歴史の中に大きな4つの節目をとらえることができます。すなわち、コース制の始まり(1985年)、ひかり学級の発足(1991年)、土曜学級の発足(1997年)、とびたつ会の発足(2004年)です。そしてこの節目を境にして、5つ

の時期に分けることが可能となります。

(1) 青年学級の発足と実践から生まれた3つの柱

【1974年度～1984年度】

第一の時期は、青年学級の実践の方向性を模索する中から実践の中核となる3つの柱を確立した時期と言えます。この3つの柱とは、素材として表現活動を伴う文化的な創造活動を重視すること、集団のかたちとして自治的な集団をめざすこと、主題としてそれぞれの生活を活動の中心にすえることです。

こうした3つの柱は、それぞれ、劇づくりを通じた仲間づくりをめざした時期(1974年～1977年)、自主的な活動を重視した時期(1978年～1980年)、生活を見つめ直した時期(1981年～1984年)という3つの時期に対応しており、実践の中から生み出されてきた柱そのものと言ってよいでしょう。また、発足当初20名だった学級生の数は、1984年度には63名になっていました。

(2) コース制のはじまりとその発展の時期

【1985年度～1990年度】

第二の時期は、コース制の実施によって始まる時期ですが、第一の時期の成果を受けて、内容別のコース活動に分かれ、それぞれのコースごとにその内容をじっくり深めていく中で、生活づくりをめざすこととなりました。

この時期の生活づくりというねらいが具体的な成果となってあらわれた例に、「わかそよ」が産声を上げたことが挙げられるでしょう。それぞれの生活の中で感じている想いを歌に託して地域に向けて発信することを通じ、一人ひとりの新たな生活の創造が始まったと言えます。

また、こうした活動の中から、全国障害者問題研究会の全国大会に参加したり、パリで開催された国際会議に参加したりする学級生が現れるようになってきました。

生活づくりという目標のもと、地域にアピールしていく活動は、いろいろなところで実を結び始めたと言ってよいと思います。

この間、参加希望者は増加を続け、1990年度には学級生が99名を数えるようになりました。活動の充実が、青年学級の存在を広く市民にアピールしたことも、希望者の増加に一役買っていると言えるでしょう。

(3) ひかり学級への分級による2学級体制の時期

【1991年度～1996年度】

第三の時期は、学級生の増加という事態に対応するためにひかり学級の誕生から始まる時期です。

学級生が増加する中で、言語的コミュニケーションが難しく、多くの介助を必要とする障がいのある学級生の姿も見られるようになりました。そうした生活上の困難を抱えた学級生がいる一方で、問題が差し迫っていない学級生も少なからずいるという状況は、学級生の多様化も意味していました。

こうした状況下では、学級全体としての共通の目標を以前のように維持することは、しだいに困難になってきました。しかしながら、それは一方で今までの流れを継承しつつ、多様な要求に応える実践を繰り返してきた時期であると言えるでしょう。

社会への大切なアピールの場「わかそよ」も、青年学級の大規模化のため、ほぼ隔年開催となりましたが、ミュージカルという新しい表現を盛り込みながら発展を遂げています。またこの時期、海外研修の機会を与えられる学級生が何名か生まれました。

(4) 土曜学級の誕生による3学級体制の時期

【1997年度～2003年度】

第四の時期は、土曜学級の誕生によって3学級の体制が始まった時期です。土曜学級は、最初、休日の小学校の校舎を借りるかたちで発足しました。活動の際、車いすの方が一部利用できない場所がありましたが、2002

年に公民館が現在のビルに移ってからは、公民館で活動できるようになりました。「自治」「生活づくり」「文化の創造」の3つの柱を土台にしながらも、公民館学級、ひかり学級、土曜学級のそれぞれが独自の活動を展開するようになりました。

この時期、公民館学級の学級生である高坂茂さんが、日本で最初の本人活動の会「さくら会」結成の中心メンバーとなり、町田の青年学級にも本人活動の成果を持ち帰ろうという思いで活動を始めましたが、2000年3月に志し半ばで職場の事故で亡くなるという大変大きな出来事がありました。「町田にも本人活動を」という動きは、こうした中で芽生え始め、高坂さん亡き後は、その遺志を引き継ぐかたちでいろいろな試みがなされ、とびたつ会の発足へとつながる流れを作り出しました。

(5) とびたつ会の誕生 ～青年の活躍の拡がり

【2004年度～現在】

第五の時期は、青年学級からとびたつ会が生まれ、市主催事業としての青年学級と自主サークルとしてのとびたつ会が、並び立つ体制を開始した時期です。とびたつ会は、形式的には、青年学級とは別の組織ですが、青年学級の活動を通して本人活動の重要性を自覚したメンバーによる会です。しかし、とびたつ会にも青年学級に参加した経験のない青年が加わるなど、次第に独立した活動をするようになりましたが、学級の終わった後の交流や学級行事などへのとびたつ会メンバーの参加、「わかそよ」や、それに類する催し物の共同開催など、両者は深い関係を今後とも持ち続けていくことになると思われます。

また、とびたつ会の発足によるメンバーの移動が、結果的に学級生の受け入れ能力を超えてしまった青年学級に新たなメンバーを受け入れる余地をもたらしました。しかし、短期的には学級をひっぱっていくリーダー的存在が抜けることを意味しており、学級活動に影響をもたらすことになりました。しかし学級生の中からは新しくリーダーシップ

を発揮する存在が現れ始め、そのリーダーシップのもとで新しい活動の展開が見られるようになりました。

またコミュニケーションの多様化によって、これまであまり発言ができていなかった青年たちの主張が学級活動に反映され始めています。それは自ら発話や文字を書くことができずコミュニケーションが難しいため、これまで話し合いや作文など「ことばを使った活動」にはあまり参加できなかった青年たちが活躍するようになったということです。

これは「スイッチパソコン」や「指文字」など、支援方法の充実が図られたことが大きいのですが、コミュニケーションが難しいとされる青年たちのことばの世界が拓かれたということ以上に、学級の場面での存在感が大きく増したという変化がありました。

学級では表現活動を通じて主体性を獲得する場面が多くあります。例えば実際に歌うことはできなくても学級ソングの作詞をして発表の舞台に上るといった経験を通じて主体性を獲得する青年たちが出てきました。

こうした青年たちが表舞台に出ることで、学級の雰囲気にも変化の兆しが生まれています。これが社会に受け入れられるにはまだまだ厳しい状況ですが、40年を越える学級の歴史で貫かれている理念に新しい芽吹きとなったともいえるでしょう。

4. 3学級に関わる今後の課題

(1) 新人学級生の継続的受け入れと担当者体制の充実

青年学級の抱える課題として、新人学級生の継続的な受け入れの問題があります。当初20名弱の人数からスタートした青年学級も毎年10名程度の新たな学級生を受け入れてきましたが、担当者不足などの理由から新人学級生を受け入れられない状況が2001年から発生していました。しかし、将来構想検討委員会での話し合いもあり、新人学級生を2010年からは募集できるようになりました。それに伴って学級生の人数も3

学級全体で現在171名となりました。

また、会場でも生涯学習センターとひかり療育園だけでは限界があります。現在の3学級体制（公民館学級、ひかり学級、土曜学級）で、どこまでの学級生を受け入れることができるか、会場や規模の面からの検討も必要となっています。

2017年度には若干名の募集に対し、9名の応募がありましたが、体制・規模の面から考えても全員の受け入れは難しく、やむを得ず抽選により、3名を受け入れることとなりました。

また、担当者体制が厳しい状況であることにも変わりありません。現在の担当者募集方法（「広報まちだ」での募集記事、地域の自治会等を通じての担当者募集のビラの配布やポスターの掲示、近隣の大学・専門学校へのポスター掲示及び授業やガイダンス等での担当者募集の説明など）に加え、大学のボランティアサークル等との連携やボランティア講座の活用など、担当者を継続的に安定して確保する方策が模索されてきました。

担当者体制は単純にマンパワーの問題だけではありません。担当者として主体的に学習活動に関わる以上は、単に「一市民としてのボランティア」として参加する以上の資質と取り組みが求められます。そのために担当者会を充実させ、参加を促していくことも必要とされています。これまでの方向性を検証し、人材確保・育成についても検討が必要な段階になっています。

(2) 青年を取り巻く環境の変化への対応

学級に参加する青年の状況も大きく変化しつつあります。障がい者施策の影響もあり学級生を取り巻く生活環境や就労状況もここ数年大きな変化ができています。新しく参加している学級生でも一般企業で働く人がいる一方で、高度なケアが必要な人も増えています。

長年学級に参加してきた青年も、グループホームや通勤寮、生活寮を利用し、仕事に就いて得られた給料の使い方の訓練を受けたり、自らの将来について考えたりするなど、

自立にむけて活動するようになってきました。特にここ数年、市内にもグループホームが増え、自宅からグループホームへ移る青年も増えています。現時点ではグループホームへ移ったことにより青年学級に通えなくなるということはありませんが、学級生の置かれている状況を把握することがこれまで以上に重要となってきています。

加えて、こうした家族の高齢化や生活環境の変化により、送迎の必要性も高まってきています。これまでも送迎検討委員会で青年学級における送迎の課題について検討し、一時送迎を行ってきていますが、今後、より一層、送迎に対するニーズが高まっていくことが予想されます。

そして、これらの青年学級の将来像や、青年を取り巻く状況の変化、送迎等の課題について、生涯学習センター職員や担当者、家族だけでなく、青年学級の主体者である学級生と一緒に考えていき、その中で本来的な青年学級の意味を再確認し、これからの発展について将来的な展望を持っていくことが、今後の大きな課題となっています。

体制面の語句の説明

青年……発足当初より、学校を卒業して社会に出た知的障がい者の社会教育の場は「青年学級」という名称で活動が進められ、社会的にも認知され今日にいたっています。その経過の中で学級生に対して青年という呼び方が定着しています。実際には青年期を越えた学級生が多数をしめるわけですが、その活動の若々しさなどもあって、違和感をあまり覚えることなく使われてきたと言えます。

担当者……青年を支援し、共に活動する人。参加資格は18歳以上の人。学級日の運営だけではなく、担当者会や総括会議への参加、学級ニュースの作成、実践報告集の校正作業なども活動に含まれています。

当日担当者……仕事や授業などの都合により、担当者会への参加が難しいため、学級日のみ参加する担当者のこと。(役割は担当者と同様)

コース・班制……青年学級での自治活動を展開するための、10～20人の基礎集団。やりたいこと(音楽・料理・スポーツ・工作など)を参加者が選び、希望別に分かれた集団のことです。

つどい……コース・班活動に入る前に、学級参加者全員が集まって歌をうたったり、見学者の紹介をしたり、近況報告をする場。朝と帰りに行っています。

成果発表会……年度の終わりに、1年間の活動の成果を発表する場。今年度、3学級ともに生涯学習センターで行いました。

青年学級を語る会……学級生が年度の初めに学級活動について話し合う場。前年度の反省と新年度の活動について学級ごとに話し合いを行なっています。

とびたつ会……青年学級よりも、より青年が主体的に活動することをめざした本人活動の会で、発展学級としての性格も併せもっています。2004年に発足。

担当者会……青年学級に参加する担当者が集まって、週に1回開かれる会議で、学級ごとに行っています。月2回の活動の準備や反省、活動やその他の場面での

学級生との関わりの中で青年が表現する中から、青年の求めていることは何なのか、その実現に向けてどうしたらよいか、それをどのように今後につなげていくのかを話し合います。各学級の担当者会で2名程度の「学級主事」が選出され、会の進行をしています。

調整会……担当者から選ばれた学級主事と生涯学習センター職員で構成。青年学級を実施するにあたっての全体的な条件整備や調整を行い、担当者会に提示します。また学級間の情報交換・共有を図る会です。

父母会……青年の家族が、青年たちが現在抱える問題や将来の生活に抱える不安などを改善・解消するために設けている話し合いの場、及びその集団です。

送迎検討委員会……各学級から選出された数名の担当者(送迎委員)で構成される委員会。青年の通級に欠かせない送迎の保障について話し合い、取り組んでいます。

将来構想検討委員会……生涯学習センター長、生涯学習センター職員、各学級から1～3名程度ずつ代表として選出された担当者(将来構想検討委員)、とびたつ会支援者で構成される委員会。青年学級の中長期的な将来像を検討するために組織されていましたが、2012年度以降は開催されていません。

活動内容の語句の説明

学級ソング……学級独自で作られ歌われる歌のこと。青年のことばや姿、口ずさんだフレーズなどを元に歌としてまとめています。こうした学級ソングはつどいの他、コース活動中、行事などの場で一緒に歌うことで共有され、学級の一体感と盛り上がりの形成に一役買っています。既製の 대중文化におけるポピュラーな曲ではなく、障がいを持つ青年たちの生活実感や思いを反映したものです。それは、民衆文化としての自分たちの「文化の創造」という青年学級で大事にされてきたテーマを象徴しています。

素材……実際の学習活動におけるテーマや取り組みのもとになるもの。具体的には青年から直接的・間接的に出される要求や生活状況などで、それを共有することで活動を展開しています。

思い起こし・近況報告……活動での話し合いの基本となるもの。青年学級での話し合いは多様な青年が参加しているため、青年の発言をまとめるだけでなく、意思表示を確認してコース・班全体で共有する作業が必要になってきます。青年一人ひとりの思いを共有するために活動の基本的なことを話したり、個人として話しやすい身の回りのことが話題にされたりしています。

作品づくり……学級では一人ひとりが絵を描いたり、ねん土を作ったり、またコース・班全体で作品づくりに取り組んでいます。いわゆる工作的なものだけではなく、作った学級ソングをレコーディングでCDにまとめたり、作文や絵画を蓄積して文集にまとめたりすること、調理活動なども含まれます。

表現活動……青年学級では二つの使い方をする活動で、一つは歌や劇といったコース・班で通常行われている「パフォーマンス活動そのもの」、もう一つは、主に成果発表会やクリスマス会など全体で行う催し物で作文を朗読したり、作った歌を披露したり、外出で調べてきたことを発表したり等、「活動内容そのものの紹介のための二次的な表現活動」との二つに分けられます。

いずれにしても成果発表会という一年の締めくくりが大きな目標になっており、成果発表会に向けて練習を重ねたり、発表のためにこれまでの活動を振り返り表現としてまとめあげたりすることで、単に青年の内部表出だけではなく、コース・班全体の活動を外在化するという意義もあります。

本人活動……障がい当事者が決定権をもったグループ活動のこと。日本における本格的な本人活動の芽は、1991年の育成会全国大会本人分科会にあると言わ

れています。この時結成された「さくら会」には、町田からも高坂茂さんという青年学級の先輩も参加されました。

それまでは、多くの場面で能力がないとされ、意見表明や自己決定等の機会が剥奪される傾向にあった知的障がいのある人たちが、「自分たちのことは自分たちで考えよう」と自らが社会変革の担い手であることを自覚し、学習や行動をする活動に取り組み始めました。実際の活動は幅広く、福祉の制度や自分たちの権利についての学習活動や、レクリエーションなどを内容としています。

スイッチ・指文字・筆談……数年前より重度の肢体不自由や知的障がいのため、あるいはいわゆる自閉症などのために、言語的コミュニケーションが苦手とされる青年を中心に、スイッチパソコンで気持ちを話す方法が取り入れられてきました。現在では、パソコン自体は使用せず、通訳者が青年の体の一部に触れ、五十音を発音しながら一文字ずつ言葉を選び出していく「スイッチ」や通訳者が青年の一方の手（指）に手を添え、通訳者の掌に文字を書いていく「指文字」、青年が持つペンに手を添えて文字を書く「筆談」などがあり、コミュニケーション方法も多様化しています。また、言語でコミュニケーションをとる青年も思いや意見を語る際、補足的にこれらを使う青年も増えてきています。

また、パニックのような行動を見せた青年に対して気持ちを聞き、そのときの本人の考えや反応などを理解し、周囲の対応や受容につなげる実践がされています（詳細は2008年実践報告集の特集を参照）。

学級名		活動単位		自治活動	内容
日曜学級	公民館学級	コース制	<ul style="list-style-type: none"> ◆なでしこコース ◆たんぼぼコース ◆よりみちコース ◆エビカニクスコース ◆自由カンガルーコース 	班長会 つどい委員	各コースの班長・副班長とそれを支援する担当者と構成される学級活動後の会議。年間行事についての調整や班長会ニュースの作成を行っている。 有志で集まった学級生と担当者数人で構成し、朝夕のつどいについて企画・運営を行う。また合宿・クリスマス会・成果発表会は班長会と合同で運営していた。
	ひかり学級		<ul style="list-style-type: none"> ◆花コース ◆虹ドリームアンド創作コース ◆何でも最強スポーツコース ◆おでかけ料理コース 	班長会	ひかり学級全体について話し合いをする会議。 合宿・クリスマス会・成果発表会などの行事についてと、コースからの連絡を行った。
土曜学級		班制	<ul style="list-style-type: none"> ◆ハワイと虹班 ◆トーマスレインボースポーツ班 ◆一刀両断班 ◆ 트렌디ものづくり班 	班長会	各班の班長・副班長とそれを支援する担当者と構成され、成果発表会等の行事や、学級全体について話し合う会議。

第2部 公民館学級

第1章 コース活動

6月11日	開級式
6月18日	自己紹介、係決め
7月2日	コース名の話し合い（「なでしこコース」に決定）
7月16日	「ハワイLove festival in 東京町田」（町田しばひろ）へ外出
9月3日	とっておきの音楽祭、合宿についての話し合い
9月16日	合宿1日目：食材買い出し
9月17日	合宿2日目：朝食作り（たまごサンド、わかめのスープ） 音楽祭に向けての練習、新曲作り
10月8日	とっておきの音楽祭、まちたからフェスに向けて準備と練習
10月22日	とっておきの音楽祭の振り返り、作文、動画観賞
11月5日	福祉バザー（ぼっぼ町田）見学、新曲作り
12月3日	クリスマス会についての話し合い、新曲づくり
12月17日	クリスマス会、新曲「リア充ルンバ」の発表
1月21日	作文、新年の抱負
2月4日	新曲について話し合い
2月18日	新曲「だいすきなひと」が完成、発表会に向けて練習
3月11日	成果発表会 「だいすきなひと」、「リア充ルンバ」

1. 集団の特徴

前年度楽器・うたコースからのメンバーが9名、7名が他コースから新たに加わりました。楽器を演奏することやうたを歌う、作曲が好きなメンバーが集まり、今年度は女性のメンバーが多く、コース名に生かされています。メンバーそれぞれが、今の気持ちを表現した歌作りをしていきたいという要求を持っていて、話し合いでは独力で話すことができるメンバーが中心となり、それぞれが持つ自分の意見をメンバーに伝えていました。

2. 活動のねらい

・話し合いを通してお互いの気持ちを知り、共有すること

・様々な人達の前で自らの音楽を表現すること

・自分が何を表現したいのかを活動の過程で見つけ歌として形にすること

・演奏や歌うときに他のメンバーの音や声を意識し、合わせることで仲間の想いを共有すること

3. 活動の様子と評価

(1) 地域の音楽祭への参加

10月15日に、町田で開催された「とっておきの音楽祭」、「まちたからフェスタ」というイベントに出演しました。出演自体は担当者からの提案でしたが、青年に話すと、昨年同様「やってみたい」「出る価値があると思います」という意見が多く、他コースの青年とともに出演しました。雨天の中での開催でしたが、「とっておきの音楽祭」は、ぼっぼ町田での出演ということもあり保護者やグループホームの関係者も聴きに来て活動への理解を広げることができました。

「まちたからフェスタ」は、シンガーソングライターの龍さんのバンドと芹が谷公園でステージ発表という大きな舞台での出演になりました。

龍さんは、「とっておきのカーニバル」(とっておきの音楽祭テーマソング)を作曲するために昨年度学級にきたこともあり、青年たちから積極的に話しかけていました。出演後の振り返りでは、メンバーみんなが「とっておきのカーニバルが好き」「龍さんに感謝している」といい、出演者の青年は龍さんへの作文を書きました。後日、龍さんに作文を渡す機会があり「一生懸命書いてくださった事を思い浮かべるだけで、胸がいっぱいになります。またKaさんやみなさんに会えることを楽しみにしています。どんな形でも一緒にやりましょうね」と感謝の連絡を頂きました。

一般の通行人が通る道中やステージ発表は、学級関係者以外も足を止めて聴いている方がみられました。他の音楽グループとつながりを持つ機会は、今後の音楽活動においても重要であり、このような音楽イベントへの出演や関わり方について、青年の意見を軸に検討する必要があります。



(2) 新曲作り

新曲作りに意欲的なメンバーが多かったです。作成方法としては、活動中にその場で歌った曲を整理したという作品と活動内のテーマをいれた作文から言葉としてつながるキーワード・キーフレーズを話し合い、まとめた作品です。また、青年から手話で振り付けを行いたいとの要望もあり、新曲作りと併せて、練習しました。

○リア充ルンバ

歌詞の内容は、11月5日の活動中の青年の言葉にメロディをつけました。このうたができたきっかけは、メンバーから「みんなで盛り上げられる曲が作りたい」と要望があり、その場に記載されていたメモにその場でメロディを入れたとても実験的な作品です。このうたの面白いところは、青年が好きなものや人を聞けば、その場でフレーズになるところです。メロディは決まっているので、事前に青年の好物を知っていると、青年が驚き喜ばせることにつながります。

曲名のリア充ルンバのルンバは、キューバ起源のラテン音楽ではなく、ロボット掃除機で、「どんなに動き回って外へ出てもいずれ充電しに戻ってくるリア充（現実の生活が充実している）青年」という意味が込められています。

担当者の一人とTtさんが手話の勉強をしている話になり、メンバーから「手話の振り付けを考えてみたい」という要望があり、手話の振り付けを加えました。振り付けの内容は、「コーヒーを飲みたい」（実際にコーヒーを飲む仕草をする）など、コースのメンバーが表現しやすい手話を話し合っていて考えました。話し合いは、手話経験のある青年や担当者を中心に行われ、サビの振り付け

は、「ルンバに乗って踊ろうよ」のフレーズに「手を回しながら踊ればルンバラしさがでると思う」という意見を共有して振り付けが生まれました。振り付けが完成すると、成果発表会やクリスマス会に向けて、歌と共に振り付けの練習を重ねて行いました。

○だいすきなひと

歌詞の内容は、すべて青年の作文を反映したものです。歌ができたきっかけは、年明けの活動で「バラードを作りたい」という意見が多くあがり、作文を書いた際に7人の青年が「大好きなひと」に対する感謝や想いが書かれていたため、この作文を歌として形に残したいという意見から作られました。このうたの面白いところは、青年たちの作文の一番伝えたいところをつなげると自然と歌詞になり、メロディと合ったところでした。

Itさんは、現在の生活に満足しており、職場や学級にいる「大好きなひととおしゃべりしていきたい」という純粋な願いが書かれています。

Kkさんの作文「お母さんのこと」には、体調が良くないお母さんへの想いと今後の自分について書かれていて、歌詞の「ぼくも平等に暮らせたらいいなあ」は、元気になったお母さんなど、自身を支えている大好きな方とのこれからが書かれています。

Mmさんは、一昨年に亡くなった大好きなお母さんへの想いとして「家族で協力し合い、生きていけるようにがんばります」とこれまでへの感謝と残された家族のこれからの姿が書かれています。

Fyさんは、作文に「手を貸してもらい歩けている今はあなたがいる この私にしか分からない

い 幸せを伝えていきたい」とグループホームと学級の仲間の手助けがあって歩いている感謝を書いており、ほとんどそのまま歌詞になっています。

Amさんは、「いつもそばに来て、声をかけてくれる大好きな気持ちを歌いたい。」

Kaさんは、「今まで乗り越えてきたのは、みんながやさしく声をかけてくれたから」という、いつもそばにいてくれた方への感謝を書いています。この二人の作文から「ここまで乗り越えられたあなたがいてくれたから」という歌詞が生まれました。

Mtさんは、「大好きな人を心の中に包みたい」というメッセージは、作文を読もうとすると、恥ずかしいのでやめてくださいということから「歌に包んであなたに」という歌詞が生まれました。

楽譜には、Srさんが描いた「だいすきなひと」の絵が記載されています。

手話の振り付けについては、曲が完成した際に青年から「前回と同様に、今回も手話で振り付けを考えてみたい。皆さんどうですか？」という意見がありコースのメンバーが賛同したため、分かりやすい手話の振り付けについて、話し合いを行いました。

(3) コミュニケーションについて

学級歴の長い青年は、自ら書いてきた作文をコース活動の中でみんなに発表したり、質問したりするなど活動を形作ろうという主体性がありました。「コース

活動で～してみますか？」と担当者から投げかけると、すぐに「やってみたいです」と積極的な意見が多く、それぞれが自身のイメージを伝えるためスムーズに活動することができました。

また、担当者がベテランの青年よりも若く、学級歴も浅いため、青年から色々聞くことが多く、ベテランの青年を頼りながらコース活動を一緒にまとめていく形になりました。そのため、青年の意見が多くとり入れられ、主体的な活動になりました。

(4) 今後の展望

コース活動をリードする積極的な青年が多かったため、活動としては問題ありませんでしたが、賑やかな場の雰囲気損なわず、コース全体を見て話を進める工夫が担当者に必要でした。そのため、時折、盛り上がりすぎて活動の中で話が脱線することがあり、担当者の役割として話を整理して戻すことを心がけました。

また、発言に積極的な青年の意見を取り入れることはできていましたが、人数が多かったため全員の意見を取り入れることが難しかったので、今後は色々な意見を取り入れることなども検討していきます。



リア充レンバ

作詞 晋永藤子
作曲 和田創
振付 相村萌子 内田麻香

2017 by ねでしこコース

Intro. Am Dm7 Am C G7 E
きれいにかいて ぐちゃぐちゃわからない てまたいたて ワツ ハツ ハー

A Am G7 C E7
みんなでいるいる かんがえてから きようはトマトい くよなんども
— いい たい よ Am G
ほくはコーヒーのみたい よ— Am A7
ひとりじめほだめ E7
たまらな—い の どごし G7
ゴツ クン ゴツクン おいしい ね E7
みんなでたのしく ワイワイワイ のもうよ — Hey
— Hey F
ワ ハ ハー ワツ ハツ ハツ ハー ルン パ かった まわっているぜ C G7 Em7 E7
G Em7 E7 FM7 C Am
いそがしいや つー ほくともきみども おどっているの さ—

Am
ルン パ に のっ お どころよ Am
ルン パ に のっ お どころよ
Dm
ワ ハー ハー Hey ワ ハ ハー
Dm7
な—んでだよ—な—んでだよ—な—んでだよ— ヤ パイ ヤ パイ ヤ パイ ヤ パイ
G7 G7 G7
充電できたわよ—! Hey F
Am Dm7 Am Am7 Am
ワ ハ ハー ワツ ハツ ハツ ハツ ハツ ハツ ハツ ハツ ハツ かった まわっているぜ Am
G Em7 E7 FM7 G Am C G7 Em7 E7
いそがしいや つー ほくともきみども おどっているの さ— Am
Am
ルン パ に のっ お どころよ Hey Hey ルン パ に のっ お どころよ Hey Hey
Dm Dm
ワ ハー ハー Hey ワ ハ ハー Hey おし まい Am
||2E7||

リア充レンバ
キレに書いて グチャグチャかららない
手を叩いて ワツハツハツ

みんなで色々考えてから 今日もトモト行は
何度でも言いたいよ 言いたいよ
僕はコーヒー飲みたいよ 独り占めは駄目
たまらないのどごし ゴツクンゴツクン美味いね
みんなで楽しんでワイワイワイ 呑もうよ

Hey!ワハハ ワツハツハツ
レンバ買った 走っているぜ 忙しいね
僕とも君とも踊っているのさ

ルンパにのっお 踊らうよ Hey Hey
ワハハ— Hey Hey ワハハ— Hey Hey
ルンパにのっお 踊らうよ Hey Hey
ルンパにのっお 踊らうよ Hey Hey

ワハハ— Hey ワハハ— Hey
(電池が切れたわよ—!) oh
何でだよ 何でだよ 何でだよ 何でだよ
ヤハハ! ヤハハ! ヤハハ! ヤハハ!

(充電できたわよ—!)

Hey!ワハハ ワツハツハツ
レンバ買った 走っているぜ 忙しいね
僕とも君とも踊っているのさ
ルンパにのっお 踊らうよ Hey Hey
ルンパにのっお 踊らうよ Hey Hey
ワハハ— Hey Hey ワハハ— Hey Hey
ルンパにのっお 踊らうよ Hey Hey
ルンパにのっお 踊らうよ Hey Hey

6月11日	開級式
6月18日	コースの名前決め、係り決め
7月2日	話し合い、版画美術館
7月16日	話し合い
9月3日	話し合い
9月16日	合宿1日目：シルクスクリーン材料集め、コース発表、調理
9月17日	合宿2日目：調理、シルクスクリーン(Tシャツ)
10月8日	合宿の振り返り、描画
10月22日	シルクスクリーン(バッグ)
11月5日	話し合い、シルクスクリーン(バッグ)
12月3日	調理(焼きそば、お好み焼き)
12月17日	クリスマス会
1月21日	いろはね、書き初め
2月4日	書き初め、陶芸
2月18日	調理(餃子、野菜タンメン、チョコパイ)、話し合い
3月11日	成果発表会

1. たんぽぽコースの特徴

今年度の「たんぽぽコース」は、男性9名、女性2名の計11名のメンバーで活動しました。コースの柱である「ものづくり」というテーマは、青年学級の中でも長年継続して扱われてきているのですが、今年度も例年通り青年の意見をもとに様々なものづくりを行ってきました。

ものづくりを行うことに意欲的なメンバーが集まりながらも、コースの中ではその他にも外出であったり調理であったりと、やりたい活動として色々な意見が挙がるため、話し合いを重ねながら、時にはそれら意見を踏まえて新しい活動に発展させながら、一年間を通して多様な活動を行うことができました。



2. コース活動の様子

(1) 青年の声を活かした新たな挑戦

「折角なら今までやったことのないことをしてみたいです」や「今年は何かいつもとは違ったものにチャレンジしたいです」というように、新しい取り組みにチャレンジしたいという意見が青年からは今年度の活動開始当初より挙がっていました。合わせて担当者の方でも、それらの思いに対して、何か新しい提案できればというようなこと

を、一年を通して常に意識して活動に関わってきました。

担当者の関わり方としては、ただ単に青年が新しい活動をできるように仕向けるということでは、青年学級の活動としてあまり意味が無く、話し合いを重ねる中で青年の思いを聞きながら、青年学級の活動として相応しいものはどんな取り組みなのか、想像を膨らませ、青年の声と新しい素材を結びつけていくというような関わり方を、一年を通してコースでは実施していきました。

実際に活動として形になったものを以下に紹介します。

① Tシャツとトートバックづくり

今年何をやりたいかといった話や合宿でどんなことがやりたいかといった話をする中で、「自然の物を使って作品を作りたいです」や、「合宿では山で歩くのがいいと思いますが、それに合わせて何か素材が集められれば良いと思います」というように、「自然」を素材として活かした活動をしたいという意見が多く挙がったことから、落ち葉を使ったTシャツ作りを行うこととなりました。

この活動はそもそも、市内の国際版画美術館に行った際に説明を聞いた「シルクスクリーン」について、「もう少し詳しく知りたい」という青年の





思いから始まったものですが、落ち葉を拾うことであつたりTシャツにプリントする作業であつたりは、特に難しいものではなかったため、誰もが参加できる活動となりました。

一方、出来上がった作品について活動の中で色々な思いが語られましたが、使用するインクの色や落ち葉の形状、配置の仕方などは様々で、製作者それぞれのオリジナリティーが表れた作品が並ぶこととなりました。

シルクスクリーンについては、再度チャレンジしたいという声が多く挙がったため、その後トートバックづくりも行うこととなりましたが、やり方を少し変え、クリアシートを切り抜いて版を作り、それをもちいてプリントすることにしました。

ハサミを使ったりシートを並べたりという作業は、メンバーによっては難しかったようにも感じられましたが、原画をつくる活動には全員が関わることができたため、特徴あるたくさんの作品が揃いました。

② みんなでひとつの作品づくり

「私は一年間のどこかで、大きな絵を作成したいです」といったようなことが活動の中で多く話されましたが、今年度行えた「みんなでひとつの作品を作る活動」としては、「パフォーマンス書道」と「イロハネ」（色々な羽を作り、それを合わせてひとつの翼をつくる取り組み）がそれに当たります。

「ぼくたちの作品はとても様々な形でしたが、まとまってみるとひとつの作品に見えるのが不思議です。ぼくたちは決まった形のものを作るのがどうしても難しいことが多いのですが、こうやってひとつにまとまるときれいに見えるのでとても驚きました」というような感想が、活動を通して青年から話されましたが、これらはまさに大きな作品を作ることの魅力の一つだと思います。

これまでの学級活動で思い出に残ったものとして、大きな絵を描いたことを挙げているメンバーが多かったように、「みんなでひとつの作品を作り上げる活動」は、出来上がる作品も、それを作る工程もインパクトがあり、印象に残る活動になりやすく、また、青年学級のねらいである「仲間づくり」という面でも有意義な活動になったのではないかと思います。



③ その他の活動

今年度はその他にも、絵を描いたり、調理をしたりとその都度意見として挙がった活動を行ってきました。「陶芸をやってみたいです」というような青年の話からは、担当者のほうで、家庭用の調理オープンで焼き上げられる粘土があることを見つけ、実際の活動に結びつけたりもしました。

陶芸活動については、今年度は試しにやってみる程度のもとなりましたが、来年度またやってみたいというメンバーがいるようであれば、作る作品の構想から最終的な色づけまで、時間をかけて本格的に取り組んでみてもよいかとも思います。



(2) 学級活動外への発信

ここ数年、とっておきの音楽祭への出演など、青年学級の活動も外へ発信できる機会が増えてきましたが、たんぼぼコースの中でも、自分たちの思いを、作品を通して外へ発信したいということが多く話されました。

「活動を通して言葉をいっぱい注ぎ重ねて、何か発信するきっかけになったら嬉しいです、どうやったらこのぼくたちの言葉が広く伝わるかもっと考えたいです」、「ぼくたちがつくったもので思いを伝えられるかわかりませんが、何かしらの思いがあって作品になっているので、そのことをもっと色々なひとに伝えたいです」というような青年自身が抱える思いは活動中に多く語られ

ましたが、今年度町田で開催されることとなった「多摩チャレンジドアートフェスティバル」への出展は、その思いに対するひとつの成果になったのではないかと思います。

イベントでは、活動で作成したTシャツやトバックの展示を行いました。作成の経緯や作品に込めた思いなども一人ひとり作文にして一緒に展示することで、作品を通して気持ちを伝えたいという思いの実現も図りました。イベント当日は活動日ではありませんでしたが、有志のメンバーにより、イベント会場へ観に行くこともできました。

「多摩チャレンジドアートフェスティバル」への出展と「イロハネ」の取り組みの2つは、タウンニュース町田版にも掲載していただけることになり、いつもとは違った外部への発信方法にも触れることができた一年となりました。



(3) 流れのある活動展開

今年度行ってきた活動が展開されるにあたり、要素になったものとして、「① 青年が元々もっていた思い」、「② 担当者が集めてくる素材」、「③ 調理活動」の大きく分けて3つがあったように思います。これら自体は、特に新しいものではないのですが、これらがいい具合に噛みあったことで、活動の提案から実施までスムーズな流れのある活動展開がなされたように思います。

「① 青年が元々もっていた思い」ということについて、青年からは「学級の仲間とたくさん話ができ、今年度の一番楽しかった思い出です」というような感想が話されたりもしましたが、今年度の活動では、比較的多く話し合いがなされたように感じます。

青年からあがる声というのは、担当者側の都合により、意識せず、どうしてもかき消されてしまうことがあります。「私たちから出た意見を丁寧に扱って欲しい」という話が青年からなされたことで、話し合われた意見や青年が抱えているのであろう思いについては、特に大切にしよう担当者の間でも心がけるようにしてきました。

急な実施であった版画美術館への外出でしたが、そこから生まれたメンバーの興味関心が、シルクスクリーンの活動へと展開できたことも良かったことだと思えます。



「② 担当者が集めてくる素材」については、話し合いなどで語られた「青年の思い」を実際の活動にしていくなかに必要となることがありました。

「次回何をするか」というようなコースでの話し合いでは、担当者が他団体の展示で見てきた作品や、仕事など担当者自身が学級以外の場で取り組んだ活動、青年の思いを実現させる為に調べた情報などをもとに、活動の提案を行ったりもしました。

担当者主導による活動にならないよう、提案に対する青年の意見は慎重に聞き取りましたが、実際に「パフォーマンス書道」や「陶芸」というように、青年が思い描いていたであろう活動が形になっていったことは、一つの成果となりました。

新しい活動を行う際、道具や材料の購入が必要となることがありますが、それをカバーするために行われたのが「③ 調理活動」でした。今年度は合宿での調理を合わせて3度の活動が行われましたが、ここで節約できた昼食代が、シルクスクリーンの道具であったり、パフォーマンス書道の巨大半紙であったりになりました。開催理由は消極的なものでしたが、「調理がいろいろできたのが今年度の良かったところ」という意見も一年の最後に青年から話されたように、調理活動自体も今年度行った活動のなかで、重要な活動のひとつとなったようでした。



3. 次年度に向けて

今年度は青年の声と素材が結びつき、次々に様々な活動を行うことができました。その一方で、「テーマがないと、僕たちはなかなか絵を描き始めるのが難しいので、テーマを決めるところから慎重に始めても良かったかもしれません」と話されるように、一つひとつの活動について、丁寧にどのように取り組むかというような話が活動の中であまりできなかったことが、反省点として挙げられました。これから何をしたいかという話は比較的多くなされやすいものですが、何をやるかが決まった後にすぐに活動の実行に移ってしまうことが多いため、実行前に取り組みについてイメージを膨らますようなワークションがとれる時間が用意できて良かったかもしれません。

一方で、「イロハネ」の活動では、一緒に作品を



作った「NPO法人プラナス」に通う人たちや、活動を提案してくださった「とびらプロジェクト」の皆さんとともに活動することができました。

「たくさんの人たちと活動できると僕たちもやりがいを感じるので、とてもいい活動ができたと感じています」と青年からも話されましたが、学級外の団体との連携について、これも実行前にある程度の準備や調整が必要となることではありますが、より豊かな学級活動への展開を目指し、次年度以降も選択肢のひとつとして様々な団体との連携を考えていければと思います。



6月11日	開級式
6月18日	自己紹介 係りぎめ コースの名前のこと 生活の話 小林さんのこと
7月2日	コースの名前ぎめ 合宿のこと やまゆり園について
7月16日	調理（カレー）
9月3日	話し合い 合宿について
9月16日 9月17日	合宿1日目：2日目の朝の調理の食材購入 キャンプファイヤーが中止になり、夜の交流会で作文の発表。学級に連れていない青年のこと、亡くなった青年のことなどを話し合い、それをもとに作文を読み上げ、「わたしのしごとのうた」をうたう。（お茶会では津久井やまゆり園事件のことを話し合い、歌をうたう。） 合宿2日目：サンドイッチ、サラダを朝食として作る。 雨天のため青少年センター内で話し合いを行う中で「いつまでもともだち」の歌詞のもとになる詞が出される。詞の冒頭にメロディをつける。
10月8日	見学の学生へ自己紹介、合宿の振り返り、学級に参加できなくなった青年について、「ひとつのいのち」をうたう、作文の読み合わせ。
10月22日	「いつまでもともだち」の曲作りの続き、2番目の歌詞がつけられる。「家族からの自立について」話し合う。「津久井やまゆり園」の入居者との連帯の声明文を出すことの提案があり、二つの声明文を出す。
11月5日	「いつまでもともだち」の歌の練習、クリスマス会について、見学の学生への自己紹介、観劇（KE-777、町田市民フォーラム）
12月3日	クリスマス会について（コース発表では10月22日に書いた「声明文」を読み上げる）横浜市旭区から来た当事者（Kさん）の方と話し合う。
12月17日	クリスマス会の準備、これからの活動について（「津久井やまゆり園に住んでいた人と会う」「調理をする」「職場見学をする」）、クリスマス会発表
1月21日	年末年始の思いおこし、成果発表会に向けて自分たちの職場のこと・仕事のことについて話し合う。見学の野津田高校ボランティア実習生に活動の紹介。
2月4日	成果発表会について話し合い。発表内容（歌2曲、作文、対談）について。自分にとっての仕事について一人一人話す。
2月18日	成果発表会の練習（「わたしのしごとのうた」の練習、職場のこと・地域でくらすこと・通所先のことを話し合い）
3月11日	成果発表会練習（全体の進行、作文の読み合わせ、対談の段取り）、成果発表会

1. よりみちコース(くらしコース)の特徴

今年度のくらしコースは、女性の学級生が1名で、活動そのものに支障があるわけではありませんでしたが、そのことで活動に入りにくい場面が出てこないように配慮する必要がありました。

コミュニケーションの援助がなければ意思表示が困難なメンバーが3人いるため、その援助ができる担当者がいるかないかで、そのメンバーは意見がうまく伝えられないということがあります。また、自分で意思表示ができるメンバーも、場面によって、コミュニケーションの援助を使い分けて、より深い活動になるようにメンバー自身が意識していました。

2. 活動のねらい

くらしコースに集まってくるメンバーは、まず、自分たちの生活をめぐる様々な思いを話し合うということがあり、さらに、そうした話し合いを通して、自分たちの活動を自分たちの手によって進めていくということも活動のねらいとして強く意識されています。

さらに、こうした話し合いの結果として、作文や歌作りなど、かたちのある表現としてまとめていくこともメンバーは目指しています。

話題として、今年度は、特に仕事のテーマを話し合おうということも活動の始めに確認されていました。

3. 活動の様子

(1) 活動内容

① 仕事について

くらしコースでは、年度を越えて一貫して仕事の話が続けていますが、学級でもリーダー格にあたる一人のメンバーを中心に、仕事の話をし

たいという要望が出され続けていました。彼は、かつて、福祉的就労という位置づけはされていたもののほぼ一般就労に近い牧場での仕事をした経験を持っていて、現在は、一般の福祉作業所に通っているのですが、その中で、仕事について語りたい思いがあるようでした。

しかし、長い間青年学級に通ってきたメンバーが亡くなったことや、津久井やまゆり園の事件のことなど、その時々どうしても話さなければならぬ話があって、前年度もゆっくりと話せずにいました。そうしたことから、今年度の始めに改めて、仕事の話をしちんとしたいという意見が出ていたのです。

しかし、今年度も、亡くなった仲間のことや参加できなくなった仲間のことをいったんおいて仕事の話をするということはむずかしく、来ることのできなくなった仲間のことから話が始まっていました。さらに、津久井やまゆり園の事件についても、今話しておかなければならないということで、話し合いがされたりしましたので、仕事の話にしちんと取り組めたのは年が明けた1月14日の活動からでした。

話し合いの中で出された意見をいくつか紹介します。「自分のパンの仕事は、目の前のお客さんに喜んでもらえるので、とてもやりがいを感じる」、「自分のダンボールの仕事(一般就労)も社会の役にたっているということはよくわかっているけれど、きびしさもある」、「ダリアなどの花の仕事は、意味を感じる」、「今は『花の家』と合併して、いい仕事もできているけれど、自分たちの出発点は『はたらけバンク』で、そのころは、働く権利ということをよく代表から言われていた(代表

は脳性マヒの方だった)」、「自分の『共働学舎』ではそういうことが今でも言われている」、「僕は、もう少しむずかしい仕事がほんとうはしたい」。

以上はほんの一部ですが、自分のたずさわっている仕事をめぐって様々な意見が交わされました。また、いわゆる重症心身障害と言われていて、ふだんは意思表示や、作業などがむずかしい40代のメンバーから、「僕は、めだった仕事ができるわけではないけれど、本当は、働いている仲間と同じ場所で過ごすことが好きだ」という意見が出されました。こうした障がいのある重労働をどう考えるかということは従来から問われてきたことでしたが、この40代のメンバーは、「あえて無理に自分にもできる仕事があるというよりも、仕事はできないということでもいい」という考えに基づいた意見でした。この意見を聞いた同じように障がいの重い20代のメンバーは、この意見にとっても心を動かされ、「自分がまったく考えてもみなかった意見で、これからじっくり考えたい」と驚きとともに語っていました。

こうした仕事の話を受けて、活動の中では、数年前にこのコースで作った「ぼくたちの仕事の歌」を繰り返し歌い、改めてその歌詞の意味をとらえ直すことになりました。また、この歌詞は、1年前に亡くなったメンバーが中心になって作った歌だったこともあり、そのメンバーを偲ぶことにもつながったのでした。

そして、こうした話し合いの成果として、2月4日の活動では、仕事についての作文を書くことができました。以下はその中の一人のメンバーのものでした。

ふつうの仕事以外世の中は認めないといつても、実は地域の仕事とか、みんなを理解する人は絶対にいると思います。

でも仕事でいじめられることについてどうすればよいのかというと、自分たちの仕事をアピールしていくことが必要なのではないでしょうか。世の中にはじぶんたちの仕事を待ってくれる人もいて、信じて働かなくてはいけません。あとみんなの仕事を話すことで、仕事のことを考えることが必要だとも思いました。

②津久井やまゆり園の事件について

津久井やまゆり園の事件からもうすぐ1年が経つという7月には、事件の話となりました。昨年度の学級活動からわかそよコンサートでの発表と、この事件についてずっと取り組んできたわけですが、1年を迎える時点で、あれだけたくさん犠牲が払われたにもかかわらず、いまだに被害にあった仲間たちのほんとうの姿がいつか明らかにになっていかないことに対するはがゆさや悔しさの思いが語られる中で、どうやったらやまゆりの仲間たちと連帯することができるかという新たな問いが提起されてきました。

合宿では、昨年は津久井やまゆり園のことについて、キャンプファイヤーのあとの追悼のセレモニーから交流会での討論と時間をかけて取り組まれたのですが、今年は準備の段階でそのことがあまり話し合われていなかったため、特に話し合いなどの時間が設けられておらず、夜の交流会のあとの茶話会の時間を迎えました。茶話会は、自由に仲間同士で語り合う場で、特に全員で話し合う場ではないのですが、くらしコースの男性メンバ

一と歌楽器コースの女性メンバーが、みんなで事件について話し合おうと訴え、急速全体での話し合いになり、いろいろな人が様々な意見を出し合って、1年前の事件を振り返ることができ、中身のこい時間となりました。

ただし、この二人の訴えは、ベテランの担当者からの強い働きかけにもとづいてなされたものでした。班長会などでの合宿の準備の話し合いでは津久井やまゆり園のことを夜の交流会で話し合うことなどが語られないままになっており、実際そのように交流会は進んでいったのですが、そのことがほんとうに学級生のみんなが望んでいたことなのかを疑問に思った担当者が、この二人にこれでいいのかとなかば詰め寄るかたちで問いかけたところ、堂々と仲間に訴えたものだったのです。

このことについて合宿のあとの学級日に次のように語ったメンバーがいます。「自分たちは、長い間、差別されてきたから、自分の意見を自分の声で訴えることができなかった」という言葉がそれですが、ほんとうは語りたくてもそれをばむものが存在していることが明らかにされたわけです。

このことは、担当者側に、次のような反省を迫りました。すなわち、まず、事前に津久井やまゆり園の話し合いをしたいという要求がみんなにあることは確実であったのに、そのままでは、語ることができないということがあるということです。

そもそも重い問題なので、言い出しにくいということがあると考えられますが、そのままでは基本的には語り出しにくいという状況があるわけだから、学級生のほんとうの要求に気づいて

いれば、何らかの働きかけをしなければならなかったということです。

担当者の側もまた、問題の重さゆえ言い出せなかったというということもあるでしょう。しかし、本当の要求を大切にすることを真の援助と考えるならば、関わりは不十分だったと言わざるをえません。

さらにもっと危惧されることは、担当者側がその問題についてふれないということが、暗黙のうちに学級生に対してこのことについての発言を控えさせるということがあるのではないかということです。現在の日本においては、知的障がい当事者が、本来ならばもっと声をあげていいはずの場面で、発言が少ないという場面が往々にしてあります。それは、出生前診断の際にも、津久井やまゆり園の事件の際にも見られたことですが、そこには、まだ、知的障がい者自身が本当の気持ちを発言することをめぐって目に見えない壁が存在していることを推測させるものです。今回の合宿のできごととは、そういう壁が私たちのすぐそばにも出現してしまう可能性があると言っても過言ではないのではないのでしょうか。

合宿のあと10月22日の活動で、あるメンバーから、津久井やまゆり園の仲間に文章を送るといふ提案が出され、その場で、自力で文章を書くことのできるメンバーと、介助による筆談によって文章を綴るメンバーの二人の文章が書かれ、それを実際に担当者の知人の津久井やまゆり園の職員に送ることになりました。送った文章がどのようなかたちで連帯を生むのか、見通しがあったわけではありませんでしたが、職員さんからは感謝の言葉と、園の当事者の方に伝えるという

言葉がありました。

なお、この時の文章は、クリスマス会でもコースの発表の際、発表されました。

19人の方には、ご冥福をお祈りいたします。被害にあわれた方には、心よりお見舞い申し上げます。亡くなられた19人のためにも、安心して仕事と生活できるよう、がんばってくださいと励ましの言葉を伝えたいです。しゃべれる者はしゃべれる者として、しゃべれない者は指の筆談を通して、しっかり意見を言いたいと思います。

町田市障がい者青年学級よりみちコース Ay

ぼくたちは、町田市の障がい者青年学級のくらしコースのメンバーです。この一年間、ずっとやまゆり園の事件のことにについて、話しあってきましたが、世の中の理解は進まないどころか、ぼくたちにたいする理解は、むしろまちがった方向に、進んでいるようにも、思えてなりません。こんなときだからこそ、ぼくたちはやまゆり園の仲間たちと、連帯したいと思うようになりました。

ぼくたちは、とても悲しんでいるだけではなく、強い怒りをおぼえています。怒りというのは、被害にたいして、というより、正しく理解をしてくれない、世の中にたいしてです。

いま、ぼくはこの言葉を、指で書く筆談で話していますが、このやり方さえあれば、ぼくたちもしっかり意思の表明ができます。そのことさえ、まるで理解されておらず、ぼくたちは正しい自己決定の力さえない存在として、差別されたまま、生きています。

19人のいのちが失われた、この事件が、正しく

理解されないと、亡くなった人たちも、また浮かばれないと思います。正しい理解とは、亡くなった人たちも、またしっかりした、自分の意思を持っていたということです。このことが、少しでも理解されなくては、事件のほんとうの解決には、とどかないと、ぼくは考えています。わたしたちは、やまゆり園のみなさんとともにあることを、この手紙をつうじて、お伝えしたいと思います。

町田市障がい者青年学級よりみちコース Nh

③参加できなくなった仲間のことを思う 歌作り

合宿では、仕事の話をしよという声があがっていたので、「私の仕事の歌」をコース活動で歌うことにあらかじめ決めていたのですが、合宿の1日目の活動で歌の練習を始めると、この歌詞作りで重要な役割をはたし、年始めに亡くなったメンバーのことに話が及びました。そして、そこから、亡くなったり来られなくなった仲間のことへと話が発展していきました。そこで、夜の交流会の発表では、亡くなった仲間のことを作文にして読み上げることになったのです。作文を書くことになったのは、亡くなったメンバーと同じ施設で暮らしていた方で、歌といっしょに発表をしました。

そして、翌日の活動を迎えたのですが、仕事の話や年度初めに提案したメンバーが、学級に参加できなくなった仲間のことを思う歌詞を、筆談の援助を通して書いたのです。そして、みんなでその歌詞についていろいろ話し合っているうちに、メロディーをつけたというメンバーが現れ、そのメロディーの一部の階名を筆談で書きました。学級ソングが大好きな方ですが、メロディーを作

ったのは初めてのことで、本人も大変満足して
ました。そして、残りのメロディーや歌詞は、合宿
後の活動で取り組んでいこうということになりま
した。

合宿直後の学級日には、合宿に参加できな
かった仲間にも、この歌詞やメロディーの一部を伝
えたのですが、メロディーの一部をつけたメンバ
ーから、続きもできているとのことで、再び筆談
で聞き取り、メロディーがほぼ完成し、歌詞をメ
ロディーに合わせて修正して1番ができあがり
ました。

その次の活動日には、今度は、1番の「いすが
ある」を「みちがある」として、2番の歌詞を考
えてきたメンバーがいました。こうして、「いつま
でも友だち」という参加できなくなった仲間を思
う歌が完成したのです。

この文章は、成果発表会で曲を紹介するど
きに使われたものです。

ぼくたちらしコースではなくなったなか
まのことをていねいにはなしあってきました。
MmさんやKfさんやHkさんのことをくりか
えしはなしてきましたが、とくにMmさんにつ
いてはいつもみんなのことをかんがえてなか
まのことをリードしてくれたことがおおきな
おもいでです。Hkさんはいつもあかるくてお
はようとこえをかけるとおはようとかえして
くれたこえがわすれられません。Kfさんもいつ
もじょうだんをいってはぼくたちをたのしま
せてくれました。そんななかまのことをずっと
たいせつにしていきたいとおもいます。Mmさ
んがそうだったように。

いつまでも友だち

1. ここにあなたのいすがある
でもここにあなたはいない
いま
今ぼくたちにはこのいすに
すわってるあなたが見える
だからぼくたちはこのいすを
けっしてしまうことはない
あなたとずっと友だちだから
あなたも友だちでいてほしい
2. ここにあなたの道がある
でもここにあなたはいない
いま
今ぼくたちはこの道を
あなたとともに歩んでいく
だからぼくたちはこの道を
けっして見うしなうことはない
あなたとずっと友だちだから
あなたも友だちでいてほしい

いつまでも友だち

C Am Em
 こ こ に あ な た の い す が あ る
 こ こ に あ な た の み ち が あ る

Dm7 G7 F G7
 で も こ こ に い な
 あ な た は い な

C C
 い い い ま ほ く た ち に は
 い い ま ほ く た ち に は

Am Em Dm7 G7
 こ の い す に
 す わ っ て と

F G7 C
 あ な た が み え る
 も に あ ゆん で い る

Am F E7
 た か ら ほ く た ち は こ の い す き
 た か ら ほ く た ち は こ の い す き

Am F G7
 け っ し て し ま う こ と は な い
 け っ し て み う し な う こ と は な い

F Am Dm7 G7
 あ な た と す っ と とも た ち た か ら
 あ な た と す っ と とも た ち た か ら

F Am G7 C
 あ な た も と とも た ち で い て ほ しい

かつどう なが
活動の流れ

6月11日	開級式、コース紹介、コースに分かれる、自己紹介
6月18日	コース話し合い（今年度活動をしたい事、係決め、次回の活動予定）体操
7月2日	話し合い（自己紹介、コース名、係の確認、合宿について）、七夕の星を折り 願い事を書く、次回の外出について確認
7月16日	外出（秦野震生湖）、話し合い（外出の思い起こし、合宿について）
9月3日	学級生卒業の集会、話し合い（生活を語る、合宿の件、小道具製作）
9月16日	合宿1日目：かがやき祭に参加、大地沢へ移動、合宿合流、全体交流
9月17日	合宿2日目：スポーツ、朝食・昼食づくり、次回の活動の話し合い
10月8日	外出（花の家でボッチャの説明会に参加）、次回の活動の話し合い
10月22日	コースに加わった方へ自己紹介、話し合い（合宿・前回の活動の思い起こし） ボール作成、ボッチャ練習
11月5日	話し合い（コース発表内容）、外出（芹ヶ谷公園・次回の各認）
12月3日	話し合い（クリスマス役割決め）、外出（芹ヶ谷+原町田市民の森）、発表準備
12月17日	クリスマス会発表準備、クリスマスランチ+お茶会、発表
1月21日	新年挨拶、話し合い（正月の近況報告、次回ボッチャ対戦の外出について）
2月4日	話し合い（1年の思い起こし）
2月18日	話し合い（外出場所を決める）、外出（ひだまり荘）、成果発表会準備
3月11日	成果発表会、話し合い（ボッチャ活動について）

ポッチャやろう！

毎年ひかり学級^{がっきゅう}のスポーツコースとキックベースボールの対戦^{たいせん}ではずっと負け^まこんでいます。今年度^{こんねんど}も、以前^{いぜん}のような情熱^{じょうねつ}は薄^{うす}れてましたが「キックベースで打倒^{だとう}ひかり」の炎^{ほのお}が心^{こころ}の中で燃え^も続けている青年^{せいねん}達が健康^{けんこう}コースに集^{あつ}まってきました。

学級活動^{がっきゅうかつどう}がはじまりかけたころ、ひかり学級^{がっきゅう}の担当者^{たんとうしや}から「今年度^{こんねんど}はポッチャで対戦^{たいせん}を計画^{けいかく}しませんか」という投げかけ^ながありました。キックベースでひかり学級^{がっきゅう}に勝^かちたいという要求^{ようきゅう}が出ている中で、ポッチャを言^いい出^だせないでいました。今年^{ことし}も、ウォーキングや山^{やま}に行きたいという意見^{いけん}があり、外出^{がいしゅつ}の要求^{ようきゅう}が多くありました。最初^{さいしよ}の外^{がいしゅつ}出^{けい}計画^{けいかく}の時に、学級生^{がっきゅうせい}から、「雨^{あめ}が降^ふったら家^{いえ}にポッチャのD V Dがあるから見^みたらどうか」という話^{はな}しがあり、その意見^{いけん}が、「ポッチャ」の活動^{かつどう}が盛り上^もがるきっかけ^あとなりました。

1. 健康エビカニクスコースの特徴

男性^{だんせい}4名女性^{めいじよせい}3名の計^{けい}7名のメンバーで活動^{かつどう}がはじまり、10月^{がつ}から女性^{めい}1名が加^まわって8名の少人数^{しょうにんずう}のコースで活動^{かつどう}しました。全員^{ぜんいん}が自力^{じりき}歩行^{ほこう}で健康^{けんこう}コース経験者^{けいけんしや}でもあり、20歳^{さいごうはん}後半^{はん}から40歳^{さいごうはん}後半^{はん}のキックベースをしたい、外出^{がいしゅつ}したいというメンバーでした。3名^{めい}が同^{おな}じ職^{しよく}場^ばで、活動^{かつどう}の中^{なか}でリード^{りーど}していく存在^{そんざい}でした。その3名^{めい}がコース活動^{かつどう}最初^{さいしよ}に平素^{へいそ}職^{しよく}場^ばで行^{おこな}っている体操^{たいそう}を活動^{かつどう}の中^{なか}で紹^{しょう}介^{かい}しました。その活動^{かつどう}が盛りあがり、コースの名前^{なまえ}も体操^{たいそう}と同^{おな}じ「健康^{けんこう}エビカニクス」と名付^{なづ}けられました。

2. 活動のねらい

運動^{うんどう}をすることに興味^{きょうみ}があるので、スポーツに

積極^{せっきよく}的に参加^{さんか}することで、体^{たい}力^{りよく}を増進^{ぞうしん}し、気^き力^{りよく}をつけていくことを目指^めしました。年^{ねん}齢^{れい}も進^{すす}み、健康^{けんこう}に生活^{せいかつ}していくための自^じ分^{ぶん}の健康^{けんこう}法^{ほう}や食^{しょく}文化^{ぶんか}の知識^{ちしき}なども話^{はな}し合^あい、「元^{げん}気^きに生活^{せいかつ}していくには」ということ^{こと}も話^{はな}されました。

集^{しゅう}団^{だん}活^{かつ}動^{どう}の中^{なか}で一人^{ひとり}ひとりが役^{やく}割^{わり}を分^{ぶん}担^{たん}することで、責^{せき}任^{にん}感^{かん}を持^もち、相^あ手^てのこ^ことを思^{おも}いやり、助^{たす}けあうこと^{こと}は経^{けい}験^{けん}も長^{なが}く、学^が級^{きゅう}生^{せい}の気^き持^もちの中^{なか}に根^ね付^づいています。その気^き持^もちを仲^{なか}間^まづくりへとつな^つげていくことをね^ねらいとしました。

3. 活動の様子と評価

(1) 話し合い

話^{はな}し合^あいは、コ^こース^す分^{わけ}けをしたその時^{とき}から始^{はじ}まり、自^じ己^じ紹^{しょう}介^{かい}や自^じ分^{ぶん}が1年^{ねん}間^{かん}何^{なに}をやりたいか^かを発^{はつ}表^{ひょう}し合^あいました。自^じ己^じ紹^{しょう}介^{かい}は応^{おう}援^{えん}の方^{かた}が一^{いっ}緒^{しょ}に活^{かつ}動^{どう}に加^{くわ}わるときには、その都^つ度^ど行^{おこな}いました。時^じ間^{かん}があるとき^{とき}にはもう少^{すこ}し深^{ふか}く質^{しつ}問^{もん}して家^か族^{ぞく}の事^{こと}や、仕^し事^{ごと}の事^{こと}、学^が級^{きゅう}以^い外^{がい}の余^よ暇^かの話^{はなし}、近^{きん}況^{きやう}報^{ほう}告^{こく}等^{とう}行^{おこな}っていきま^ました。時^{とき}には応^{おう}援^{えん}の方^{かた}と^との共^{きやう}通^{つう}する話^{わだい}題^もで盛^もりあがること^{こと}もありま^ました。応^{おう}援^{えん}に入^{はい}った学^{がく}生^{せい}さん^{さん}の郷^{きやう}里^りにあるダ^だリ^りア^あ園^{えん}は、3名^{めい}がはたら^{はたら}く町^{まち}田^だダ^だリ^りア^あ園^{えん}の開^{かい}園^{えん}当^{とう}初^{しよ}、ダ^だリ^りア^あの株^{かぶ}をわけてもら^{もら}ったり、交^{こう}流^{りゅう}があ^あったとこ^{ところ}で、見^{けん}学^{がく}にも行^いった話^{はなし}など、合^{がっ}宿^{しゆく}でダ^だリ^りア^あ園^{えん}に行^いった後^{あと}だ^だたので、全^{ぜん}員^{いん}が興^{きやう}味^みを持^もった話^{わだい}題^もでした。その他^{ほか}、か^かかり^きき^ぎょう^じ、行^{ほん}事^{ちやう}のた^{たい}びに、班^お長^{ちやう}会^{かい}から降^おりてきた事^{こと}にコ^こース^すの意^い見^{けん}をま^まとめる話^{はなし}し合^あい、毎^{まい}回^{かい}、活^{かつ}動^{どう}後^ごには次^じ回^{かい}の活^{かつ}動^{どう}内^{ない}容^{りよう}をき^きめま^ます。特^{とく}に、合^{がっ}宿^{しゆく}の活^{かつ}動^{どう}内^{ない}容^{りよう}をき^きめる話^{はなし}し合^あいは時^じ間^{かん}をか^かけて行^{おこな}いました。言^{こと}葉^ばでの発^{はつ}言^{げん}が苦^{にが}手^てな方^{かた}には活^{かつ}動^{どう}前^{まえ}の電^{でん}話^{わねん}連^{れん}絡^{らく}の時^{とき}に、家^か族^{ぞく}の方^{かた}に話^{はなし}を伺^{うか}ってお^おき、当^{とう}日^{じつ}紹^{しょう}介^{かい}していきま^ました。ま^また他^{ほか}の方^{かた}には個^こ別^{べつ}に

質問形式で話を聞くことで、様子がわかり、後半には、話の聞きだし役も学級生が担って質問をしている姿があり仲間関係が密になってきていることがわかりました。毎回、活動の初めに今日やることの確認と、終了時に次回の活動の確認を行うことで、見通しを持って主体的に参加する姿が次第にみられてきました。

(2) 外出活動

① 震生湖

昨年度高尾山登山を行い、自信をつけた学級生からは今年度も山登りをしたいという意見が出ていました。しかし具体的な行先は出ませんでした。

青年学級では、一昨年の津久井やまゆり園の事件以来いろいろな話し合いがされてきました。

また健康コースは、昨年実際に津久井やまゆり園訪問もしているので、やまゆりの花を見に「震生湖」に行けたらと担当者から提案しました。当日

9時前には全員が集合し、予定どおりの電車に乗ることができ学級生の外出の意欲が高いことがうかがえました。

車窓からは富士山も見え、期待も高まっていました。あいにく3日前ぐらいから熱中症の予報がスタート、日影も少ないことから、

秦野駅から途中まで、タクシーを利用しました。

歩き始めると、家庭菜園の方にトマトをいただき、休憩したときに採れたてをいただきました。やまゆりの花は、木々の間の半日影地にひっそりと咲いていました。

帰路、家々の門の下、お盆の送り火の跡を見て、学級生の1人は「亡くなった人に、おいでと火を焚いて迎えて帰っていくときも送り火をするんだ」と話していました。涼しい震生湖の湖畔を歩き、帰りは丹沢山を一望しながら、

畑を縫った農道を駅まで歩き、公民館に早めに帰りました。



② 芹ヶ谷公園

前期は合宿もあり、話し合いの活動が多かったのもう少し活動的なことも1日に取り入れながら行っていこうと前期総括で反省しました。

11月1週目の活動で、早めに昼食をすませ天気が良かったので近くの芹ヶ谷公園を歩きました。

途中、ショーウインドウのクリスマスツリーを見て「もうそんな時期なんだねー」「ちょっと早いよ」と会話が聞かれました。

原町田市民の森のイチヨウはまだ緑でしたが版画館から奥に入るときれいな紅葉の景色でした。

学級生が仕事で植えた花壇の前で皆で記念写真を撮りました。

12月になると前回より紅葉も進み、芹ヶ谷公園の紅葉を見て皆が「きれいだねー」と口にして、

原町田市民の森のイチヨウがすっかり黄色になったのを見て「きれいー」と葉っぱを拾いました。

芹ヶ谷公園の花壇の仕事をしている学級生が「春の花にするから、今までの花を全部片づける

仕事をしたんですよ」と発言したのを聞いて「来年の春の花が楽しみ」と皆で話し、季節の自然の

変化をより身近に感じ、目を向けることができま

した。

1日のうち、どこか良い時間帯で、近くの自然の多い芹ヶ谷公園へ外出したことで、その後の話し合いの時間を集中して行えました。

(3) 合宿の活動

①準備

合宿の話し合いでは時間をかけて行き、いろいろな意見が出ました。「その日は、私はかがやきのお祭りで仕事なので合宿は欠席します」「合宿に行きます」「ちょっとわからない」担当者から「3人が仕事で、4人はお祭りに参加し、その後全員でバスと電車で大地沢に向ったらどうか」と提案し次回に意見をまとめることになりました。

2日目の活動で「朝はサンドウィッチづくり」「草戸山ハイキングをしたい」「昼はお弁当で、帰りはバスで帰る」と意見が出ました。

班長会に出すコースの意見は、「夕飯は昨年同様退職者会の方たちにつくっていただく」「外でキャンプファイヤーは行いたい」「お茶会はしたい」と全員の意見としてまとめ班長に託しました。

集合の時間、場所、交通ルート、乗車時間、旅費など確認事項の共有や雨天の場合のことも話し合いました。

合宿の応援者は、いつもの活動日より多く確保できるので、昼食を今まで行えなかった活動の調理にはどうかと担当者が提案しました。レシピを皆で確認し、「グアバオ」とは、どんな野菜を入れるのかなど話し合いました。

キャンプファイヤーのコース発表を練習し、その後、小道具づくりなどを行い合宿の準備を皆で行いました。

②かがやき祭り参加

台風情報の中、健康コースは4名の参加になりましたが合宿に行こうということになり、12:30バスで「かがやき」へ。バス停に着いたころ霧雨が降り出しました。エイサーの踊りを見てから健康コースの仲間2名が仕事で育てているダリア園を一回りして観賞しました。大輪の美しいダリアや、かわいいポンポンドリアなど、色とりどり。傾斜地をどんどん歩いたり、「きれい！」と顔ほど大きなダリアを眺めていました。模擬店ではコースの仲間がお仕事を頑張っていました。14:00帰路に向かい出発。バスで町田駅、J Rとバスで16:00に大地沢の入り口に着き、木道を歩いて青少年センターに到着しました。小雨も降り傘をさしながら外出することができました。

入浴前に布団のシーツ、掛布団カバーかけなどの仕事を他コースの分まで頑張っている班長の姿がありました。

雨天でキャンプファイヤーはできず、室内で全員が集会に参加しました。エビカニクス体操は大成功！前年度健康コースの、2名の飛び入り参加があり盛り上がりました。



最後はフォークダンスをし、すっかりのどが渴

いて交流会でお茶を飲みました。青年学級のリーダー的存在の方たちからの発言で、昨年亡くなった、「津久井やまゆり園の方々へご冥福をお祈りしましょう」と大地沢の一つ山の向こうの津久井やまゆり園に向かい、皆で黙とうしました。いつまでも私たちは、「美しいやまゆりの花を踏みにじった」あの事件は忘れてはいけなさと再確認しました。

③調理活動

2日目、6:00起床して班長指導のストレッチ、ラジオ体操、フライングディスクなどを行い、体を動かした後に朝食づくりに取り掛かりました。「ゆで卵の殻をむく」「レタスを洗う」を学級生が行い、ハムチーズなど各自がパンに挟んで食べました。丁寧に箸を並べる学級生。牛乳を入れたコーンスープやリンゴ、コーヒー、ピーナッツバターは学級生のリクエストでした。昼の調理活動は「米をとぐ」「梨をピーラーでむく」タイ料理のグアバオは、「玉ネギ、ピーマン、ナスを切る」「ひき肉を炒める」を学級生が行い班長の「洗う物は班長の僕に任せて」という頼もしい姿もありました。



④合宿の感想

合宿の思い出としては、「エビカニ体操は前健康コースの二人の応援があつて楽しかった」「リンゴの皮をむきました」「お米とぎをした」「肉を

炒めるとき、熱かつたです」「班長なのでいろいろ頑張りました」全員が、「グアパオおいしかったです」と電話連絡で聞いた範囲では家庭では行った事がないという話を聞き合宿の意義を感じました。

(4) ボッチャの活動

活動のきっかけは、外出の計画の時、班長から、外出で「雨が降ったらボッチャのDVDを見るのはどうか。DVDがあるので次回持ってきます」という発言がありました。その時は晴天だったのでDVDを見ることはありませんでしたが、その後、夏休みになるので次回の活動を確認すると、「次回9月の活動予定は合宿の話しあい。行ければ散歩もしたい。時間があれば、ボッチャのDVDも見たい」と発言がありました。その頃、職員から、地域でボッチャの説明会があるという情報をもらい学級生の参加を確認しました。学級生の皆が、ボッチャへの興味が出てきて、ボッチャをやりたい様子でした。

①ボッチャ説明会

ボッチャ説明会をうけに、コースの仲間の働いている作業所の花の家に向かいました。5団体8チームに分かれルールの説明を受けながら実際に対戦しました。ボッチャ経験済みのチームの対戦を皆、食い入るように見ていました。実際に4名が体験し、試合形式で行いました。「ボッチャを



やって面白かった」「点が入ったので面白かった」
やれなかった人も面白みは伝わって、感想は「楽
しかった」とのことでした。公民館に帰り、ルー
ルを皆で思い出しながら確認しました。そして簡
易のコートを引きいてボールを作ってボッチャ
練習をしました。その後、ボッチャセットを購入
してもらい、活動の合間の短時間でも練習を行
いました。10月後半の活動で、ボッチャの話し合
いを行いました。ひかりから対戦の申し込みがあ
ったらどうするかという話し合いでは、何回かの
練習で自信が出て来ていて皆、「対戦したい」と
いうことで、日程を第3希望まで決めました。

②ひかり学級との対戦

12月3日の活動でひかり学級からボッチャの
挑戦状が届いたので1月21日実施ということで
話し合いをし練習をしていくことを確認しまし
た。正月後の学級日で1年の計を語りました。

「ボッチャ頑張りたい」「ボッチャで優勝する」
という発言がありました。

当日の対戦では、帰りの時間を考慮して2チ
ームずつ4チームで1回戦のみで行いました。

公民館A、公民館Bとも勝ち上がって公民館Bが
優勝し、優勝トロフィーを授与されました。



(5) クリスマス会

発表は何にするか、どう発表するか、皆で相
談しました。やはり健康コースなので、「健康に

良さそうなことをアピールしよう」とまずは自分
のアピールを出しました。それがなかなかよかつ
たのでその後、言葉を字に書いたり絵を描き、練
習を行いました。当日、「6時半 Eテレ体操
朝すっきり」「結でサラダたっぷり ご飯はちょ
っぱりダイエット」「マイラケットで スマッシ
ュ決めた」「自転車でのお買い物 金井の三和でお
買い物 相鉄ローゼンでお買い物」「あおいちゃん
(妹)とムックとの散歩 楽しいな」グループ
ホームで暮らし始めた学級生は「あい羽でしっ
かり食べて 歯磨きじょうず 青年学級も楽しい
な」等発言しました。折紙が得意な青年は、サン
タを折り、顔を描いていましたので、仲間が、
「散歩大好き 歩くの大好き 折紙大好き」と
日頃の様子を代弁して健康アピールを作成しまし
た。



クリスマス会の話し合いの時に、学習室にぶ
ら下がっていた「コーヒーの配達」という広告を
見た班長が「コーヒーを配達してもらおう！」
と提案し、クリスマス会当日、同階の喫茶に注
文に行きました。班長の提案で、今までにない
クリスマスの至極のティータイムを過ごすことが
できました。

(6) 成果発表会

1年間の思い出を皆で行い、各自の印象に残った活動を発表しました。印象に残った活動を作文に書き、それをもとに、台本を作り、活動の写真をプロジェクターで大きく映した前で各自発表しました。発表会当日、班長のTmさんは「決め手は、ボッチャで優勝したことで、大満足したので、僕は今年の4月から学級を卒業して、とびたつ会に行こうと思います」と宣言しました。日ごろ口にしていない言葉でしたので、半信半疑でしたが、その後4月に、とびたつ会でTmさんが元気な声で近況報告している姿を見ることができました。

(7) 仲間づくり

学級活動2日目、話し合い後体操をして空いた時間に「もうすぐ七夕だから短冊に願い事を書こう、折紙用意してください」と学級生の発言

がありました。Adさんが折紙好きだから星の折紙に、願い事を書くことになり、今まで寝ころんでいたAdさんも起き上がり、全員で星の製作を行いました。初めての外出では、坂道でふと見ると、大柄で力のあるAdさんが小柄な学級生の手をひき、歩いていました。その姿は、とても頼もしく見え、仲間意識の芽生えを感じました。合宿後に夕食を作っていたいただいた退職者会の方々へ今年もお礼の寄せ書きをしようと皆が一言ずつ書きました。活動に入りづらいAdさんも折紙を折り、参加し、全員参加の活動ができました。その頃から全員がAdさんへの関心が出てきて、担当者も積極的にAdさんが活動に参加できるよう係のテーブル拭きを支援していきました。Adさんの仕事ぶりはまじめで、テーブルの端から端までしっかり拭いていました。その後は



弁当を配膳、箸を並べる、果物を配るなどの仕事を
を行い、他の学級生も Ad さんがテーブルを拭
きやすいよう、拭く先々のものをどかして手伝
い、ともに協力する姿が見られていました。
Ad さんも室内にいて話を聞いていることが多
くなりました。そんな良い仲間関係ができた頃から
ボッチャの活動になり、班長中心に練習を重
ね、全員のチームワークにより勝利を勝ち取るこ
とができました。

4. 課題と展望

話し合いは活発に行われましたが、最終的な
具体案までの発言はなかったので学級生の話題
に沿いながら、提案をしていきました。しかし提案
は一つだけでなくいくつかの選択肢をつくり
学級生が選ぶという方がより主体的な活動にな
ったかと反省しました。来年度は盛り上がったボ
ッチャの活動を、どう発展させていくか、またそ
の他のスポーツの要求をどう引き出していくか

考え、新たなコース編成の元、仲間づくりから、
良いチームワークをつくっていただきたいと思います。



かつどうなが
活動の流れ

がつ にち 6月11日	かいきゅうしき 開級式
がつ にち 6月18日	じこしょうかい、わかそよDVDを鑑賞、今年度やりたいことについて話し合い、 かかりぎ 係決め
がつ か 7月2日	コースの名前決め
がつ にち 7月16日	がっしゅくについて話し合い、どんな劇を作るか構想
がつ か 9月3日	なかま わか かい がっしゅくについて話し合い 仲間の別れ会、合宿についての話し合い
がつ にち 9月16日	がっしゅく 1 にちめ ちょうしょく か だ はっぴょう れんしゅう 合宿1日目：朝食の買い出し、発表の練習
がつ にち 9月17日	がっしゅく 2 かめ おんがく あ それぞれの生活について話し合い 合宿2日目：うた、音楽に合わせてダンス、それぞれの生活について話し合い
がつ か 10月8日	がっしゅく ふり かい 合宿の振り返り
がつ にち 10月22日	がっしゅく ふり かい しんきょく について話し合い、退級した青年のビデオ鑑賞
がつ か 11月5日	じぶん たち の す き な こ と や ゆめ について の 語り 合い、劇 の ストーリー を 構想、 しみん 市民フォーラムで劇鑑賞
がつ か 12月3日	かんしょう げき かんそうきょうゆう かい む について話し合い、新曲歌詞づくり 鑑賞した劇の感想共有、クリスマス会に向けて話し合い、新曲歌詞づくり
がつ にち 12月17日	かしづく かい 歌詞作り、クリスマス会
がつ にち 1月21日	ねんまつねんし おも お こし げき について話し合い 年末年始の思い起こし、劇のストーリーについて話し合い
がつ か 2月4日	げき づくり げき れんしゅう 劇のストーリー作り、劇の練習
がつ にち 2月18日	いちねん ふり かい げき れんしゅう 一年の振り返り、劇の練習
がつ にち 3月11日	せい か はっぴょうかい 成果発表会

1. 自由カンガルーコースの特徴

コース結成当初は、男性7名、女性3名の計10名のメンバーで活動しました。学級歴の長い青年が7名、若手の青年が3名という構成でした。9月に学級歴の長い男性1名が退級することとなり、後半は9名での活動になりました。介助については、平素車椅子利用している青年が1名、視覚障がいのある青年が1名など、若干の介助の必要な青年が在籍していました。

2. 活動のねらい

一番の目標は、オリジナルの劇を作り上げることでした。その過程で、メンバー同士が話し合い意見を交わすこと、歌やダンスなど様々な表現方法で舞台から他者に思いを伝えることを大切にしました。

また、共に体を動かしたり、歌を歌ったりすることで、共感することや楽しさを感じ、仲間の語り合うベースを作ることもねらいとしました。

3. 活動の様子と評価

(1) Syさんのビデオ鑑賞・活躍について

語り合い

これまで長きに渡り、学級全体をそして劇ミュージカルコースを引っ張ってきた Syさんが、9月に退級しました。



自由カンガルーコースでは、30年程前に Syさんが出演したビデオがあると聞いて、みんなで鑑賞することにしました。そこには、Syさんが大勢の前で堂々と意見を述べる姿が映っていました。それを観た青年からは、「30年も前から今の僕たちが求めていることを言っていてすごいと思った」「このビデオのイメージで歌ができると思いますが、それを Syさんに捧げたいです」「Syさんの姿を見て、意見を伝え続けることが必要だと思いました」など、たくさんの感想や Syさんへの敬愛の思いが語られました。この時間を経て、みんなで改めて Syさんの存在の大きさを感じるとともに、これから Syさんに認めてもらえるような劇を自分たちで作り上げていこう、とコース活動に対する意欲が高まりました。

(2) 劇鑑賞

担当者の知り合いの劇団が市民フォーラムで劇をやると聞いて、鑑賞に行きました。劇中は、出演者のセリフに、みんなで時に笑ったり驚いたり！一体感のある楽しさを会場と共有しました。「本格的な劇を鑑賞できたことで、とても面白かった」という感想や「(携帯電話が人間になるけれどなかなか存在を認められないという)役の気持ちがよく伝わってきました」「僕たちの視点と少し似ているなと思いました」など様々な感想が語られました。また、主演を演じた方が、事前にコース活動に参加しに来てくれたことがあり、そのことも青年は嬉しく捉え、「自分たちも決して阻害されないで鑑賞できた気がしました」という意見がありました。今年度で唯一の外出にもなり、新鮮な活動となりました。

(3) 劇ミュージカルづくり

①歌について

今回の劇ミュージカルは、一つの歌が中心となつてできました。その歌は、退級した Sy さんに向け、ある青年が合宿中に口ずさんだフレーズが元となっていて、その後みんなで歌詞をつけました。『私はこれからもミュージカルセット』というタイトルですが、「ミュージカルをする仲間」という意味を込めています。この歌をきっかけに、これまでコースを引っ張ってきた Sy さんに今回の歌と劇を捧げたい、と青年たちの気持ちが一つになり、後半の活動に臨みました。

その後のコース活動では、ある青年から「楽しいことや好きなことについて話すことが、Sy さんの気持ちに繋がるのではないかと提案がありました。Sy さんは活動の中に今はないけれど、「どうやったら Sy さんの気持ちにつながるのか・・・」と考えたときに、こういった提案が出たということで、いつも明るく仲間を照らしていた Sy さんの人柄をみんなで感じました。

そして、メンバーそれぞれが楽しいことや好きなこと、将来の夢などを語ることにし、「私は人を愛することが好きです。Sy さんがそうだったように。」「人の笑顔を見ることが何よりも嬉しい」など、たくさんの素敵なことばが出て、それが歌詞につながっていきました。

歌詞の構成を話し合い、吟味した結果、1 番は、素敵な仲間がいること、また、悲しい気持ちで居続けるよりも自分たちは愛を歌っていこう！という前向きな歌詞に。2 番は、Sy さんをイメージしたもので、スーパーマンのような勇気あふれる姿に心打たれた青年たちの気持ちと、退級しても

「ずっと忘れない」気持ちが込められています。3 番は、自分たちの愛する気持ちをストレートに出せて、伝え合えばもっと素敵な社会になるという意見と、Sy さんのように「勇気を出してことばや気持ちを伝えていこう」という青年たちの思いが込められた歌詞ができました。

②ストーリーについて

ストーリーは、二人の青年からの提案が合わさり、完成しました。

最初に一人の青年から、「悲しい記憶が美しく結晶する山に住んでいる村人が、悲しさを溶かして笑顔に変えるお話」と提案がありました。また、それに付け加える形で、別の青年からは「女の子が主人公で、力強いラブロマンス」「外の世界の素晴らしさの話に感動した村娘が旅をし、優しい気持ちと愛に満たされ、村の氷を溶かす」というストーリーが提案されました。

悲しい記憶が積み重なり美しく結晶してしまった村の名前は「水晶村」です。やまゆり園の仲間のことを劇中でどこかに反映させたいという青年の思いがあり、やまゆり園をイメージさせる美しく透明感のある名前になるよう、考えました。そして、この水晶村の人々の心を、愛と勇気の歌で、笑顔に変えていく前向きなストーリーとなりました。

これは、「悲しみに暮れていたのは去年まで。次を目指して楽しさや強さを表現したい」「悲しみを熱さや強さで乗り越えていくことが必要」というコース活動の中での青年たちの強い気持ちが反映されたものとなりました。



③青年同士の関わり

歌やストーリーづくりなど、話し合う内容は非常に多い活動でしたが、班長を中心に、一人ひとりの意見を聞くことを大切にコース活動が進められていました。話題の提案をした青年が次に誰に意見を聞くかを指名することも多く、全員がじっくり意見を言いやすい雰囲気を作られました。

長年劇コースで活動をリードしていた Sy さんが退級したことで、活動がどう進んでいくのかと最初は不安もありましたが、全員で意見を出し合い、協力して活動を進めていきました。特に、若手の青年が積極的に劇づくりの提案を行い、またコースメンバーとコミュニケーションをとっていく姿が印象的で、コース全体に活気が生まれていました。

④担当者の役割

歌のテーマや歌詞、劇のストーリー等はいずれも青年が意見を発信し、担当者がそれを音楽や台本として形にしていくという体制でした。意見の聞き取りについては、言葉で表現できる青年は極力言葉での表現を大切にし、補足や希望があれば通訳のできる担当者が意見を聞きとる形に

しました。

青年からは、「実際の声と、声にならない声が発表につながって、印象的でした」と感想がありました。

4. 今後の展望と課題

内容の濃い話し合いができ、そこから歌やストーリーが生まれたことは青年主体の視点からとても良い活動になりました。メッセージ性としても、悲しみの気持ち以上に、強さや勇気、愛といった前向きな姿を大切に思う青年たちの現在の気持ちを反映することができました。

ただ、一年間の活動の中で、ほとんどが話し合いの時間だったため、それだけでなく、身体を動かしたり、音楽等の素材を使って様々な経験を共有するなど、取り組みを工夫すればさらに面白い活動になったのかもしれませんが。

また、ストーリーが出来たのが成果発表会から2回前の活動日となり、時間的に劇ミュージカル発表としては準備が十分に整わなかったこと、歌も今回は1つのみしか作れなかったことが課題として残りました。言葉での発声あまり得意ではない青年が多いコースということから考えると、セリフを多用するのではなく、場面に合わせた歌(音楽)をあと数曲用意すること等で青年が表現しやすくなり、うまく場面につながっていくことが考えられます。そうしたミュージカルとしての場面展開や表現方法の工夫を早い時期から検討・準備していく必要があります。

げき だいほん
劇ミュージカル・台本
うた ぜんかし さいしゅうページ きさい
(歌の全歌詞は最終頁に記載)
わたし
「私はこれからもミュージカルセット」

ミュージカルセットは、ミュージカルをする仲間
の事です。さあ、いってみよー！

<うた>

わたしはこれからも ミュージカルセット

わたしはこれからも ミュージカルセット

<うた終わり>

いちどう と
一同ピタッと止まる

びーじーえむ
~BGMピアノ~

たびびと さむ
旅人 「ああ寒い・・・。
さむ いっぽ ある たす
寒くて一歩も歩けない。助けてくれ。」
たびびと こご たお
(旅人、凍えて、倒れる)
むらびと か よ
(村人たち、駆け寄る)

むらびと だいじょうぶ
村人たち「大丈夫？」
たびびと たす
(旅人を助ける)
たびびと た あ
(旅人、立ち上がる)

むらびと むら すいしょうむら
村人「この村は、水晶村。」
むらびと むら な
村人「あなたはまだこの村に慣れてないんだね。
かな こと かさ うつく こお
悲しい事が重なって、美しく凍りついて
しまった村なんだよ。」

さき しゅじんこう き
咲(主人公)「あなたはどこから来たの？」

たびびと ぼく ひかり きぼう むら
旅人「僕は光と希望にあふれた、ヒマワリ村か
ら来たんだよ。」

さき むら
咲 「そこは、どんな村なの？」

ナレーション

むら なかま やさ
ヒマワリ村は、たくさんの仲間がいて、優しくて
ひかり あた たむら
光にあふれた暖かい村です。

さき すいしょうむら むかし あか えがお むら
咲の水晶村は、昔は明るく笑顔の村だったけ

れど、かな かさ こお
れど、悲しみが重なって凍りつき、さみしくて、

さむ むら
寒い村になってしまいました

さき にち だれ はな
咲 「1日も誰とも話さないこともあるのよ。」

たびびと だれ はな うた うた
旅人「誰とも話さないの？歌も歌わないの？」

さき うた たの
咲 「歌って、楽しいの？」

たびびと ぼく むら こ
旅人「うん！よかったら僕たちの村に来ないか。

あか すてき むら
明るくて素敵な村だよ。」

さき
咲 「やったー！」

むらびと たびびと い こと みみ
村人「こら！こんな旅人の言う事なんかには

かしちゃいかん！わしらは寒いがこの

しず むら く
静かな村で暮らすんだ。」

さき わたし うた も かえ
咲 「私が歌を持って帰って、あったかくして

あげる！旅人さん連れてって！」

さき たびびと むら さ
(咲と旅人が村を去ろうとする)

むらびと お
(村人たちが追いかける)

むらびと ま ま ま
村人たち「待て待て待て！」

さき
咲 「さよなら！」

さき たびびと むら で
(咲と旅人、村を出ていく)

むらびと い
村人 「行っちゃったね。」

むらびと あか げんき むら
村人 「明るく元気な村なんて・・・。」

むらびと しず く
村人 「ここで静かに暮らしているだけで

いいのに。」

むらびと
(村人、はける)

ナレーション

り げんき うた も かえ むら
2人は元気な歌を持ち帰るために、ヒマワリ村を

めざ たび
目指して旅にでました

さき たびびと たの ある
(咲と旅人、楽しそうに歩く)

～うた3番～

ナレーション

2人は旅に出ました。

途中でおなかがすいて倒れてしまいました。

(咲が座り込み、旅人がおにぎりを差し出す)

獣にも襲われました・・・

(獣が襲いにくるが、旅人が倒す)

旅人は、咲を守って、旅を進めました。

咲と旅人の間には、愛が生まれました。

2人は、旅の途中で道に迷ってしまったようです。

どうしましょう…?

咲 「ここは・・・どこ？」

魔法の猫たち「あら・・・どうしたの？」

咲 「道に迷ってしまって・・・。あなたは？」

魔法の猫たち

「私たちは・・・見てのとおり、魔法の猫よ。

あなたたちのことは、この水晶で最初から見

ていたわ。旅を通じて、2人はとても素敵なパ

ートナーになったのね。2人とも、心がまっす

ぐ前を向き、純粋で、そしてとても強いのね。

いいわ、ヒマワリ村に着く前に、私が村を

元気にする歌を教えてあげる！

早く村を助けてあげて！

さあ、こっちにいらっしゃい！」

ナレーション

猫が歌を歌うと、

咲は、心があたたかくなりました。

そして、旅人も同じようにあたたかくなりました。

それはとても、幸せな気持ちでした。

咲は、水晶村の人たちにも幸せを届けよう、

と思いました。

咲 「この歌で、村を元気にするわ！」

旅人「よし、村に戻ろう！」

(村人、ステージに出る)

(咲と旅人が歩いてくる)

村人「どこに行ってたんだ！」

村人「この村から出てはいけない決まりなんだ

ぞ！」

咲 「いいえ。毎日悲しんでちゃだめ。

私はみんなが笑っている村が好きなの。

私、元気になる歌を持って来たのよ！」

村人「えー！なんだと！」

ナレーション

咲と旅人は、猫に教えてもらったステキな歌を

歌いました。

<うた>※ゆっくり※

夏の日差しを あびている

ひまわりのような あの笑顔

愛を 愛を 愛を 愛をうたおう

悲しい 悲しいことは ふっとばして～・・・

すると・・・！！

なんとということでしょう、水晶村の氷が、ゆっ

くりと溶けていくではありませんか！

ひーりーえお よろこ
<BGM 喜びのうた>

むらびと
村人「な、なんということだ・・・！」
むらびと
村人「あたたかい気持ちを忘れていたよ！」
むらびと ぜんいん
村人（全員で）

「これは、愛！ 勇気！ 希望・・・！！」

むらびと おも だ
村人「思い出したぞ！」
さき すこ ころこ ころこ
咲 「もう少しよ！ みんなの心の氷、ふっとばして！」
たびと かな た あ
旅人「悲しみから立ち上がるんだ！」

さき たびと いし けっしょう な くだ
（咲と旅人、石【結晶】を投げる、砕く）

むらびと
村人たち 「ぼくたちも！！」
むらびと いし な
（村人たちも石を投げる）
ころこ き
（氷が消える）

むらびと きも
ナレーション：村人たちは、あたたかい気持ちで、
ころこ ころこ くだ
心の氷を砕くことができました

むらびと かな
村人 「悲しいことばかりじゃないよ！
ほく きも も
僕たちは、ステキな気持ちを持って
いる！」

むらびと わす
村人 「もう、いつだって忘れるもんか！」
さき たびと
「咲、旅人さん、ありがとう」

ナレーション

こうして、水晶村の明るさと笑顔が取り戻されたのでした。

さき
咲 「よし、みんなカンパイだ！ よし、うたおう！」
むらびと
村人「いってみよー！」

<エンディング>うた

【わたしはこれからもミュージカルセット】

1
なつ ひざ
夏の日差しを あびている
えがお
ひまわりのような あの笑顔
あい あい あい あい
愛を 愛を 愛を 愛をうたおう

かな かな
悲しい 悲しいことは ふっとばして

わたしはこれからも ミュージカルセット
わたしはこれからも ミュージカルセット

2
ねん い つづ
30年と言いつづけた

あなたがみせた スーパーパワー
ずっと ずっと ずっと 忘れないよ
えがお えがお えがお
笑顔 笑顔 笑顔 キープオンスマイル

わたしはこれからも ミュージカルセット
わたしはこれからも ミュージカルセット

3
こお きも と
凍った気持ち 溶かしたす
あい みらい
愛のことはを 未来へと

ゆうき ゆうき ゆうき ころこも
勇気 勇気 勇気 心燃やそう
きも きも きも つた あ
気持ち 気持ち 気持ち 伝え合って

わたしはこれからも ミュージカルセット
わたしはこれからも ミュージカルセット

あい あい あい あい
愛を 愛を 愛を 愛をうたおう
かな かな
悲しい 悲しいことは ふっとばして

わたしはこれからも ミュージカルセット
わたしはこれからも ミュージカルセット

ミュージカルセット
ミュージカルセット
ミュージカルセット

第2章 自治運営

1. 班長会

(1) 班長会の概要

班長会とは、学級全体に関わる行事や、運営に関わるさまざまなことを調整する組織です。学級活動終了後の4時過ぎから5時までの時間を使い、各コースの班長と副班長が集まり話し合いを行ってきました。

活動内容としては、各コースの活動報告、合宿やクリスマス会・成果発表会などの行事に向けた話し合いおよび実際の準備や運営を行ってきました。なお、行事に関しての話し合い・準備・運営は、つどい委員と合同で取り組みました。

(2) 班長会の様子

今年度は、長年にわたり学級に在籍しているメンバーがほとんどでしたが、若手の青年も2名いました。

昨年度同様、会を進行する司会は各コースの持ちまわり制とし、最初の班長会で順番を決めました。その日、話し合った内容は班長会ノートに記録し、活動報告として「班長会ニュース」を書いて学級全体に向け発信しました。

今年度は、比較的言葉で発信することのできる学級生が多く、話し合いが早く終着することもありましたが、一方、何回か学級を休んだ学級生がいた際には心配する声があがり、同じコースの学級生からどんな様子であるかなどの情報共有が行われる場面もありました。

(3) 評価と課題

これまで同様、一年間継続して話し合いを進め

ることができました。各コースで出した意見については話し合い、班長会で決定した内容については、班長会メンバーからつどいの時間等を使って全体に対して説明するなど、各コースの代表として集まり、意見の集約・決定・伝達するという役割を務めることができました。

また、司会は持ち回り制で、司会を務めたコースがニュースを作成することとなっていましたが、時間的余裕のなさから次第にあいまいになり、前期ではいつも同じ人、特に担当者が作成することも多くなっていました。後期では、ニュースを作成するコースの学級生には予め声をかけて余裕を持てるようにし、担当者がサポートに入りながら学級生が作成しました。班長会としての役割分担ができ、また班長会ニュースを本来の形である学級生を中心とした報告媒体として改めて捉えなおし、作成することができました。

今年度の反省点としては、担当者の連携不足があげられます。全体的な人手不足もあり、班長会に出席できる担当者が流動的で、班長会がスムーズに始まらなかったり、その日に話し合うべき議題が確認できていなかったりといった問題がありました。時間を有効に使うために、担当者側としては事前の担当者会で議題や出席できる担当者を確認したり、LINEなどのツールを活用し、情報を共有していくなどの工夫が必要です。

2. つどい委員会

(1) つどいとは

学級日の始まりと終わりのコース活動の前後に行われている活動です。ホールに集まり、全コースの青年がつどい、学級ソングを歌い、学級全体

一体となれる時間となっています。また、コース間での連絡や応援者、見学者の紹介などもここで行われています。

(2) 運営体制と活動内容

つどい委員会は、有志の青年とつどい委員担当の担当者、合同で運営、活動しています。

今年度は、男性1名、女性3名の青年、計4名体制で運営を行いました。活動内容は、つどいの司会進行。見学者、応援者の紹介。つどいで歌う学級ソングの曲決め。また、学級終了後のつどい委員会で決定した、取り決めや次回のつどいの司会者や歌う曲などを「つどいニュース」として発行し、学級全体に周知を行いました。

(3) 今年度の活動の特徴

今年度前半は、つどい委員の中で、次回のつどいで歌う曲を決めていました。少数で曲決めをする事で、今回はこの曲を歌ったから、次回は違う曲をなどの話し合いができ、曲が偏る事なく、様々な曲を歌う事ができました。しかし、青年一人ひとりの意見を反映できていないのではないかとといったことから、後半からは昨年度同様、リクエストボックスでの希望を募りました。これにより、学級全体の意見の中から、つどいで歌う曲を決める事ができました。

(4) 活動評価と展望

前述のリクエストボックスでの取り組みは、学級全体の意見が反映され、一体感が生まれるため、今後も継続される事が期待できます。同様に、つどいでの司会者についても、つどい委員の中から

だけでなく学級全体からも司会をしてみたい方がいるのではないかとといった意見がつどい委員会の中で出されました。これに対し、つどい委員から委員以外の青年を誘っていこうと話し合われました。具体的にどういった方法をとるか今後検討していきたいです。

第3章 考察

1. 2017年度のコース編成

今年度は、なでしこコース（歌・楽器）、たんぼぼコース（ものづくり）、健康エビカニクスコース（健康からだづくり）、自由カンガルーコース（劇・ミュージカル）、よりみちコース（くらし）の5つのコースで活動が進んでいきました。例年と同じコース分けとなっていますが、特徴としてあげられるのは「①学級全体での話し合いを反映したコース活動」と「②学級外のゲストとの交流を通じた活動の広がり」です。

①については、「津久井やまゆり園事件の話し合い」を全体の場で継続したことです。

合宿の交流会において話されましたが、コース活動でもよりみちコースのように年間の活動を通じてテーマに掲げたグループや、健康エビカニクスコースのように昨年度の活動を踏まえてやまゆりの花を実際に見るため震生湖ハイキングを行ったコースもありました。

学級生の間では事件に対する怒りと風化への不安が話し合われ、事件を受けた学級ソングも作られるなどしていますが、具体的な活動としてのテーマ化がされていました。

②については、学級の場に障がい当事者やアーティストなどのゲストが来訪し参加することで活動に広がりが生まれたということです。よりみちコースには横浜市西区の「ガッツビートにし」で以前行われたとびたつ会のコンサートに来場していた当事者の方が参加され、話し合いに参加しました。たんぼぼコースではアート表現支援団体「DOOR」の方々や

町田市内の放課後等デイサービス施設に通う子どもたちと「大きな翼づくり」に挑戦しました。そのほか、「劇団ここ」の団員の方のお誘いで「KE-777」というお芝居を複数のコースで見に行きました。また、昨年度に引き続き、都立町田の丘学園で高校生向けに開催されたボランティア養成講座で見学に来た都立野津田高校の生徒さんたちとの交流などもありました。

学級生を中心とした活動だけではなく、さまざまな人との交流から大いに刺激を受けることができました。

2. 学級生 Sy さんのこと

今年度の大きなトピックスとして、長年青年学級に参加していた学級生の Sy さんが学級参加に一区切りをつけたことが挙げられます。

Sy さんは2000年に亡くなられた高坂茂さんとともに青年学級の古くからのリーダーで、最近先輩として若いリーダー達を支える大きな存在でした。オリジナルソングとしては早い時期につくられ今でも歌い継がれる学級ソング「ぼくらのかがやき」の歌詞にも Sy さんの姿があらわされています。NHKが開催したスウェーデンの学者を招いたシンポジウムに当事者として登壇し聴衆の前で発言する姿は全国放送されたこともありました。

還暦を過ぎたころから体調がすぐれず、職場も辞め、学級への参加が難しくなりました。9月3日の活動日に全体の前で Sy さんからあいさつがありました。各コースでも Sy さんが辞めることについて話題に挙がってしまし

た。Sy さんはこの十数年は劇・ミュージカルコースに参加していましたが、自由カンガルーコースでは学級に来られなくなった Sy さんの存在を意識した活動と劇づくりが行われました。

3月の成果発表会の場に Sy さんが来場し、自由カンガルーコースの発表をご覧になり、学級生にあいさつをしていました。

他にも Yh さんが学級を辞めましたが、2016～17年度は学級に参加できなくなった青年が多く、学級における仲間の大切さというものをお考えざるをえない日々が続きました。

3. ホールでの活動について

つどいや行事のあり方にも変化がありました。朝と帰りのつどいの会場であるまちだ中央公民館7階のホールが工事のため使えない状態になり、6階の学習室1・2を会場として使いました。ホールに比べて狭い部屋の活動となり活動への支障が懸念されましたが、ひとりがひしめきあいながらもこれまで通りの活動を行うことができました。懸案だったクリスマス会に関してもこれまでどおりの活動を行うことができました。

4. イベントでの発表

2017年10月15日には「とっておきの音楽祭」と「まちだからフェスタ」の2つの音楽イベントでステージ発表を行いました。「若葉とそよ風のハーモニーコンサート」に続いての発表ですが、公民館学級ととびたつ会が中心となって地域に自分たちの思いをアピー

ルする機会となっています。2018年5月20日には、公民館学級が中心となって「とっておきの音楽祭」に出演しました。（主催者都合により例年より開催が早まったため。）

そのほかには3月25日に生涯学習センターまつりでの発表の部で三学級合同の発表を行いました。（公民館ホール工事の関係で例年より遅い開催となったため。）

5. 今後の展望について

2017年度末で1名の学級生が青年学級からとびたつ会に移るほか、2018年度から新学級生と他学級から移る学級生（各2名、計4名）が増えることになりました。一方で担当者スタッフの減少傾向はこの数年継続しています。こうした背景から学級集団づくりへの心機一転の取り組みが求められています。

また、活動内容についても次なる展開を模索していく必要がありますが、学級活動の継続性を超えた発展性や創造性が求められます。

担当者には謝礼は発生しているものの、この十数年はあくまでボランティアとして募集されていることで、個人的な自己実現を求めて参加するスタッフが増えていますが、これまでの青年学級で重視されてきた「青年と担当者の対等な関係性のなかでの活動づくり」への意識形成に改めて取り組む必要があります。市民の学習権実現のための教育活動である以上、参加者すべてが人権感覚を共有して活動に取り組んでいく必要があります。

第3部 ひかり学級

第1章 コース活動

ひかり学級 花コース

活動の流れ

6月4日	開級式、コースを決めた後、自己紹介
6月18日	話し合い：係決め、コースの名前決め、自己紹介、取り組みたいこと、バスハイク、次回の活動について 活動：ダンス
7月2日	話し合い：バスハイクの行き先について、次回の活動について 活動：ダンス、七夕飾り作り
7月16日	話し合い：バスハイクの行き先について全体交流会について、次回の活動について 活動：忠生図書館に行く
9月3日	話し合い：夏休みの生活の様子、バスハイクの行き先について、次回の活動について 活動：ムース作り、コースのテーマソングの練習
9月24日	話し合い：バスハイクの食事について、行き先について 活動：紙芝居を読む、「エビカニクス」のダンスを踊る、調理：クレープを作る
10月8日	話し合い：バスハイクの行き先決定、全体交流会について、次回の活動について 活動：ダンス「エビカニクスの練習」
10月22日	話し合い：クリスマス会か新年会の希望を聞く、次回の活動について 活動：秋野菜のカレー作り
11月5日	話し合い：バスハイクで注意すること、次回の活動について 活動：魚や海の絵を書く
11月19日	バスハイク
12月3日	話し合い：バスハイクの振り返り、クリスマス会の食事、歌、出し物について 活動：前回書いた海の絵を、模造紙に貼りつける
12月17日	クリスマス会、クリスマスツリー作り、ケーキ作り 話し合い：次回の活動について
1月21日	話し合い：お正月、クリスマス会の思い起こし、次回の活動について 活動：小道具、大道具の制作、ダンスと台本の台詞の練習
2月4日	話し合い：次回の活動 活動：ミュージカルの練習、フラダンスサークルとの交流会
2月18日	話し合い：発表の順番決め、歌う曲 活動：大道具小道具の仕上げ、成果発表会の準備、リハーサル
3月4日	成果発表会

1. 花コース（ミュージカル）の特徴

男性5名、女性8名で、計13名のコースです。前年度のミュージカルのコースから5名、音楽コースから6名、もの作りコースから2名が集まり活動しました。

学級歴は、3年が1名、8年が1名、10年以上25年未満が4名、25年以上の青年が6名でした。活動の場面では比較的言葉数が少ない傾向がありましたが、お互いを思いやる気持ちを持ち、活動から離れがちな青年に、声をかけたりする場面も見受けられました。

2. 活動のねらい

成果発表会に向けて、ミュージカルを創る過程を楽しみ、協力してミュージカルを発表するということが、大きな目標でした。青年、新しいことにチャレンジしたい、劇や歌をやってみたい、ダンスを楽しみたい、仲良くコース活動を楽しみたいという希望を持っていました。これらの希望を活かして活動を展開すること、また、ミュージカルに必要な大道具や小道具を作ることにより、協力して作品を作り上げる喜びを分かち合うことがねらいでした。

3. 活動の様子と評価

(1) ダンス

最初は自己紹介もかねて、各自好きなCDを持ってきてもらいました。いつも、ルームランニングの時に聴いているラテンの「コパカバーナ」、職場のダンスクラブで楽しんでいる青年は、エグザイルの「チューチュートレイン」などで踊りました。「フラダンスを踊ったことがあり楽しかった」という青年の意見から、みんなでDVDを見てフラダンスも踊ってみました。

台本作りの話し合いの中で青年から「エビカニクス」を踊りたいという提案がありました。みんなで踊ったところ、全員が大変気に入って、生き生きと踊りました。

車椅子利用の人については、体全体でリズムを感じられるように車椅子を動かしました。担当者が少ないと、車椅子の人は順番待ちになり、十分に楽しむことが出来ないことがありました。

地域のフラダンスサークルの方に、ひかり療育園に来て頂いて、フラダンスを見せて頂くことができ、交流の場を持つことが出来ました。青年は、フラダンスを目の前で踊っていただくととても感動しました。

(2) 図書館に行く

台本作りの話し合いの中で、青年の提案で、図書館に行きました。この日は、大変暑い日でした。熱中症対策を十分にしたうえで、忠生図書館に行きました。各自、思い思いに好きな紙芝居や本を選びました。図書館の職員の方の協力を得ることが出来、お話し会をしていただきました。とてもわかりやすく楽しいお話で、青年は集中して話を聞き、楽しく充実した時間を過ごすことが出来ました。下見の打ち合わせの時に、図書館側からいろいろ提案をしていただくことが出来ました。



忠生図書館にて

(3) 七夕飾り

絵を書いたり自分の願いを書いたりしました。「コースの活動を頑張りみんなと協力して頑張ります」「ボーリングの全国大会に行きたい」「午前午後の活動を頑張ります」など新しいコースになり、これからの活動を楽しむ意欲が感じられました。笹を準備することが出来て、七夕らしい飾り付けが出来ました。

(4) 紙芝居

図書館で選んだ紙芝居を、夏休み明けに、もう一度借りて、紙芝居を楽しみました。「自分達で紙芝居を創ろう」と青年が提案しましたが、いざ話しを創ろうとしたら、アイデアが浮かびませんでした。結局、紙芝居を作るには至りませんでした。しかし、青年が選んだ紙芝居の題名や、「地震が来たらどうする」「台風が来たらどうする」とい

う題名から、緊急避難という展開をしたり、青年が、自分から前に立って「だるまさん」の紙芝居を見せる場面があり、成果発表会で、だるまさんの役をミュージカルに取り入れました。

(5) テーマソング

コース名を決めるときに、採用されなかった“ショータイム”の案や、七夕飾りの願いごと、「みんなと協力してやっていきたい」と書いた青年がいました。この時にボランティア参加していた桜美林大学の中国からの留学生が、“協力して”というところにとっても感動したと伝えてくれました。コースの青年の気持ちの一つにまとまるように、担当者が、簡単なテーマソングを創り、手話を基に振り付をして提案しました。学級生の自発的な動きを取り入れて、振り付けを変えて行きました。テーマソングの曲名は、青年の提案で「ガーデニング」に決まりました。

(歌詞、楽譜、資料1)

(6) おやつ作り

青年の希望で、ふわふわムースとクレープ作りに取り組みました。ダンスをした後、水分補給も兼ね、楽しい時間を過ごすことが出来ました。

簡単なおやつを作ることにより、コース活動から離れがちな青年も、コース活動に参加できました。

誕生会もしたいという提案があり、“ハッピーバースデー”を歌い、和やかな時間を過ごすことが出来ました。

(7) 調理

秋野菜のカレーを作りたいという提案があり、キノコ入りのカレーを作りました。キノコを盛りだくさんに入れました。キノコを材料に入れることで、キノコをバラバラにする簡単な作業が増え、各自の得意な分野で腕を振るいました。

この日、中心になって黙々と調理や洗い物を楽しみながら取り組んだ青年が、「みんなの役に立って良かった」と言いました。この言葉は、ミュージカルの台詞になりました。とてもおいしいカレーが出来ました。

(8) バスハイク

好天に恵まれ、広場での全体交流会で、普段あまり歌っていない青年が、大きな声で楽しい気持ちを表現して歌っていました。

平素、スポーツ活動に取り組むチャンスのないコースですが、野外でスポーツをすることが出来て楽しい時間を過ごすことが出来ました。

レストランでの食事は、青年の希望したメニューから対応できるレストランを探し、本格的な中華レストランで、昼食をとることが出来ました。味も良く、満足顔で食べました。レストランで食事ができたことがうれしくて、涙を流した青年がいました。

トイレ介助や食事の席の設定などに時間がかかってしまい、三菱みなとみらい技術館の見学時間が少なくなってしまったのは、残念でした。



バスハイク 臨港パークにて

(9) クリスマス会

クリスマスツリーを作りたいという提案で、丸や三角や四角の紙に、願い事を書いたり、ちぎり絵で小さなツリーを作りました。大きな模造紙にそれらを貼りつけ、クリスマスツリーにしました。ケーキは、青年から「ロールケーキにデコレーションすると簡単でいいよ」という提案があり、デコレーションの材料に生クリームや小枝のチョコやマシュマロを用意したところ、上手にタワー型の飾り付けをした青年がいました。

食事は、青年が希望したオードブルを用意することが出来ました。

出し物は、成果発表会で踊るダンスを披露しました。他コースの人も楽しく踊り、みんなでダンスを楽しむことが出来ました。とても楽しいクリ

スマスパーティーになりました。



クリスマスツリー



タワー型ケーキ

(10) 台本作り

最初は、図書館に行き青年の選んだ紙芝居を基に、台本をつくっていく予定でしたが、それぞれ選んだ紙芝居から台本の候補を絞り込むことが出来ませんでした。自分達で紙芝居を作ろうという提案が出ましたが、いざ作るとなるとアイデアが出てきませんでした。そんな中で、エビカニクスを踊りたいという提案があり踊ったところ、みんなとても気に入ったので、フラダンスを踊りたいという希望にあわせ、ダンスが先に決まって、台本の骨組みになりました。エビやカニ、そしてフラダンスということから、海の話という設定で絵を書いたり、自分のなりたい魚をイメージして絵を書いたり、はり絵にしました。クラゲになりたい青年の意見で、男性はクラゲになってポンポンを持って踊りました。活動中のきらりと光る発言や、選んだ紙芝居の中で「台風が来たらどうする」や「地震が来たらどうする」という紙芝居を読んだ事、図書館に行ったときに青年が、だるまさんの紙芝居をみんなに見せたことや、海の絵の作成のなかで、中央特快が海の中を走ったこと等、コース活動の中で起こったことや、発言をつなぎ合わせて台本を作成しました。既成の話からではなく、全くオリジナルの話に展開することになりました。台本は、青年や担当者の意見をどんどん取り入れて、6回の修正を行いました。

(11) 地域のフラダンスサークルと交流

職員との個人的なつながりのある地域のフラダンスサークルの方々が、ボランティアでひかり療育園に来て下さることになりました。

成果発表会で踊るフラダンスの「月の夜は」をみんなが踊れるように工夫して、簡単バージョン

を教えて頂くことが出来ました。

フラダンスサークルの人の美しいダンス、衣装やレイ、冠を見て、青年は吸い寄せられるようにうっとりしていました。なかなか外出の機会が持てないコースですが、目の前で繰り広げられるフラダンスに、とても感動しました。一生懸命フラダンスを見て覚え、「完璧です！」と踊りをあっという間に覚えました。成果発表会への意欲も高まりました。青年達は、成果発表会で踊るエビカニクスやオリジナルソングの「ガーデニング」を披露し、交流を深めました。



フラダンスサークルと交流会

(12) 大道具、小道具作り

大道具として、「新型中央特快」、「海のパーティーの絵」(舞台にバーで吊るした)、「エビカニハウス」、「どこでもドア」を、小道具は、「ポンポン」「花の髪飾り」などを作りました。作り始めたのが1月に入ってしまったため、少し時間が足りなくなりましたが、青年は出来ることを分担して、協力して作業をしました。「海のパーティーの絵」は、自分のなりたい魚というテーマで書いた絵をつなぎ合わせ、舞台のバーに吊るし飾りました。新型中央特快は、段ボールの箱を組み合わせて作りました。カッターを使った少し危ない作業もありましたが、真剣に取り組みました。列車の窓には、青年の書いた絵を貼りました。「どこでもドア」は、皆でちぎったピンクの紙を、ドアに貼りました。「ポンポン」や「髪飾り」は皆で力をあわせ、たくさんの数を作りました。協力して作り上げる作業を通して、成果発表会に向けてコースが一つにまとまってきました。(資料2)

(13) 成果発表会

車椅子利用者の多い花コースは、リハーサルの順序、出演順、控室の配置など細かな配慮をしていただき、無事発表を終えることが出来ました。リハーサルでは、ゆっくり台本を通しました。部屋に帰って何度もセリフの練習や踊りの練習、大道具を使って「どこでもドア」の練習をしました。最後に、大道具のエビカニハウスの瓦を皆で張り付け、仕上げをしました。

オリジナルの台本で、オリジナルソングも挿入することが出来ました。みんなで書いた海の絵にモールでデコレーションしてバーに吊り、パーティーの雰囲気を取り上げました。セリフもほぼ覚えて、はっきりと大きな声で言っていました。ダンスも生き生きと踊れました。言葉で表現できない青年は、ベルやペープサートで役割を演じました。全員力いっぱいミュージカルを披露することが出来ました。終わったあとの感想では、楽しかったと満足そうでした。「恥ずかしかったが、練習を頑張ったので上手にできた」「来年もミュージカルやるぞ!」と、感想を伝えました。



成果発表会

(14) 近況報告

コミュニケーションが困難な青年が多く、担

当者が事前に家族に聴き取りをしました。

夏休みやお正月は、家族と楽しく過ごしている様子が伝わりました。家族も本人の好きなことを、積極的に楽しめるよう工夫していることが分かりました。

言葉で伝えられない青年の日頃の様子は、家族と積極的に情報交換をして、活動に活かしていきましました。

4 課題と展望

成果発表会では、それぞれの良い所を認め合い、青年が力をあわせてミュージカルを発表することが出来ました。青年はもちろん担当者も、また、当日参加して下さった応援の皆さんも、一体となって、ミュージカルの発表を楽しむことが出来ました。それぞれの良い所を認め合い、力をあわせて活動し、オリジナルのミュージカルを創ることが出来ました。

車椅子を平素利用している青年が5人で、トイレ、食事の介助に時間を取られ、活動に十分な力を注ぐことが出来ない事もありました。担当者の配置を考慮していただいていたはいましたが、まだ十分とは言えない状態でした。外出の計画が難しいことは悩みの一つでしたが、図書館に行くことが出来たこと、また、地域のフラダンスサークルの協力で、フラダンスを間近で鑑賞でき交流の場を持てたことは、大変うれしいことでした。

地域の資源を活用し、豊かな学級活動に展開出来たら良いと思います。

一日の活動の予定表を、絵と文字で作成しました。(資料3) 一日の行動の見通しがあると、落ち着いて行動できている青年もいました。合理的な配慮として、活動中の適切な支援の在り方の検討が必要だと思われます。

創作には、何より、生の芸術鑑賞が必要だと思います。外出の機会を増やし新鮮な感動やあこがれを感じて創作活動につながって欲しいと思います。

資料 1

花コースのテーマソング

ガーデニング

ショー タイム あたらしいことに チャレンジ - はな コースの
 ミュジ カル - ショー タイム ちからを あわせて - ゆめの
 は な さ か そ う

歌詞

ショータイム あたらしいことにチャレンジ
 花コースの ミュージカル
 ショータイム 力をあわせて
 夢の花 咲かそう

資料 3

一日のスケジュール

花コース 今日の手定(10月22日)

午前
 ☆出席
 ☆あいさつ
 ☆秋野菜のカレーと
 かぼちゃのデザートサラダ作り

午後
 ☆班長会
 ☆バスハイクでのレストランと
 メニューについて
 ☆クリスマス会と新年会どちらがいいですか
 クリスマス会 (12月17日)
 新年会 (1月21日)
 ☆ダンスをする
 ☆ミュージカルの台本を考える
 ☆花コーステーマソング「ガーデニング」の振り付け
 ☆今日の活動の感想
 ☆次回の活動を考える

資料 2

みんなで作った大道具、小道具

新型中央特快



ペープサート



エビカニハウス



どこでもドア



ポンポン作り



ひかり学級 にじドリームアンド創作コース

活動の流れ

6月4日	開級式、自己紹介
6月18日	自己紹介、話し合い（係・コース名決め）、ダンス、絵を描く
7月2日	調理（カレー、サラダ、フルーツヨーグルト）、話し合い（バスハイク）、七夕飾りづくり
7月16日	話し合い（バスハイク）、学級ソングの整理・振り返り
9月3日	調理（お好み焼き、焼うどん、杏仁豆腐）、話し合い（バスハイク）、近況報告、オリジナルソングづくり
9月24日	話し合い（バスハイク）、オリジナルソングづくり、外出（グループホーム見学）
10月8日	オリジナルソングづくり、グループホーム見学の感想、どら焼きづくり
10月22日	話し合い（バスハイク、クリスマス会等）、ボッチャ
11月5日	話し合い（バスハイク、クリスマス会、近況報告）、外出（桜美林大学学園祭）
11月19日	バスハイク
12月3日	話し合い（クリスマス会）、バスハイクの振り返り（絵や作文）
12月17日	ケーキづくり、コース発表の準備、クリスマス会
1月21日	話し合い（クリスマス会の感想、年末年始の報告、成果発表会）、ボッチャ
2月4日	オリジナルソングづくり、話し合い（成果発表会）
2月18日	オリジナルソングづくり、成果発表会の準備
3月4日	成果発表会

1. にじドリームアンド創作コースの特徴と活動のねらい

にじドリームアンド創作コースは、CDや歌といった音楽活動や、絵を描いたり新聞づくりなどの創作活動、料理や外出活動など様々な要求をもった青年が集まったコースで、男性9名、女性4名の合計13名で活動しました。集まったメンバーの昨年度のコースは音楽、スポーツ、ものづくり・料理、劇ダンスと多様で、比較的若く学級歴の浅い青年もいましたが、30代～40代の学級歴の長い青年を中心として、活動当初からある程度仲間意識ができあがっているコースでした。

にじドリームアンド創作コースでは、次のような3つのねらいを掲げて一年間の活動に取り組んでいきました。

- ① 音楽、料理、創作活動、外出など青年の得意なことや好きなことを活動に活かし、一人ひとり輝く場面をつくっていく。
- ② 活動を共有することにより、青年どうしの仲間意識を深めていく。
- ③ 青年一人ひとりの思いを歌や絵などによって表現し、みんなで協力して一つのものをつくっていく。

2. 活動の様子と評価

(1) 活動内容について

①料理

カレーライス

自己紹介で今年コース活動でやりたいことを話し合う中で、料理をつくりたいという意見が多く出され、まずはみんなでカレーライスとサラダ、デザートをつくることになりました。

活動では調理をメインとするため、前回の活動で食材について話し合い、カレーライスやサラダの食材について、事前に担当者が買っておくことになり、当日は数人のメンバーでデザート等の買い出しに行きました。

調理は、料理の得意な青年が丁寧に米をといんだり、料理の苦手な青年も担当者が付き添いながら玉ねぎやジャガイモを切るなど、カレーライスという身近な料理に取り組んだこともあり多くの青年が活動に関わることができました。

お好み焼き・焼きうどん

青年から「お好み焼きが食べたい」、「焼きうどんが食べたい」といった意見が出たことから、みんなでお好み焼きと焼きうどんをつくることになりました。

カレーライスと同様、主な食材は前回の活動で話し合い、事前に担当者が準備し、当日はデザートやジュースのみ一部の青年で買い出しに出かけました。買い出しは電動車いすを利用している青年や歩くことが苦手な青年が立候補し、車いすで出かけました。

調理は、野菜や肉を切ってお好み焼きの素を加えるまでは、多くの青年が関わることはできましたが、後半、お好み焼きをホットプレートで焼く段になり、ブレーカーが落ちてしまい、急遽ガスコンロを使って担当者だけで焼くこととなってしまい、あまり青年が関わることはできませんでした。

どらやき

青年からお菓子を食べたいという要望が出たため、担当者からどら焼きを提案し、みんなでつくることになりました。一人の青年があんこが苦手とのことから、クリームも入れてつくってみました。

材料のホットケーキミックスに牛乳と卵を混ぜ、ホットプレートの上で焼き、あんこクリームを塗るというシンプルな作業行程だったこともあり、ほぼ全員が作業に集中して参加することができました。2台のホットプレートを使いましたが、1台のホットプレートを数人の青年で囲んで焼くことで、互いに調理の様子を見ることができ、また、一人の青年がボールをおさえ、別の青年が材料を混ぜ合わせるなど、青年どうし協力して作業する場面も見られました。



ケーキづくり

青年からクリスマス会の日にケーキをつくりたいとの意見が出され、取り組みました。担当者が事前にケーキのスポンジやクリーム、トッピングの食材等を用意し、当日はケーキの飾り付けを行いました。

果物を切る、スポンジケーキの上にクリームを塗る、お菓子やチョコペンで飾り付けるというわかりやすい作業だったこともあり、協力して取り組むことができました。3つのケーキをつくりましたが、「きのこの山」を逆さに飾るなど青年の斬新なアイデアで、オリジナルケーキをつくることができました。



②歌

好きなCDをみんなで聞いて歌う

音楽の好きな青年から新曲をつくりたいといった意見が出されたことから、担当者の提案で自己紹介も兼ねて自分の好きなCDを持ってきて、みんなで聞きながら歌ったり踊ったりしました。

CDは一部の青年しか持ってきませんでしたが、その青年がどのような曲が好きなのかお互いに知ることができました。また、CDを持ってこなかった青年も一緒に踊ったり、手を叩いて大きな声で歌うなど他の青年も楽しむことができました。

学級ソングの思い起こし

新曲をつくりたいと提案した青年から学級ソングの整理をしたいとの意見が出され、これまで作られたひかり学級の学級ソングを年表にして振り返りながら、何曲か歌ってみました。

みんなよく知っているひかり学級の学級ソングだったこともあり、歌に集中し、大きな声で歌っていました。学級ソング『私たちの歌をつくってゆきたい』の曲に出てくる「ペットボトルのラベ

ルとり」や「家に帰って洗濯をして」「日記を書いておやすみなさい」といった歌詞や『ロマンティックな気持ち』の曲にある「どら焼き」や「スマップ、きんたろ、ぼくと勝負」といった歌詞がどの青年のことを歌にしているのかお互いに確認しながら歌うことができました。

オリジナルソングづくり

新曲を作りたいと提案した青年が詞の案とメロディーを考えてきたことをきっかけに、全員で歌づくりに取り組みました。

まず、その青年が書いてきた詞に込められた思いを確認し、そこから担当者より歌のテーマを提案し、みんなで歌詞を考えていきました。

言葉で表現することが苦手な青年もいることから、「スイッチ」をつかって一人ひとりの歌詞に入りたい思いを聞いていきましたが、事前にテーマを提示したこともあり、何人かの青年はすでに自宅で歌詞を考えてきているようでした。「スイッチ」を使うことで、言葉で表現することの苦手な青年の思いを聞くことができました。

そこから担当者が歌詞とメロディーをつくっていきました。曲のタイトルは最初に青年が書いてきた詞の案どおり「青空の向こうへ」に決まりました。成果発表会前の活動日に何度か新曲を練習し、それを練習用CDに録音してみんなに配ることで、成果発表会当日は、大きな声で歌うことができました。

③創作活動

絵を描く

絵を描くことが好きな青年が多いことから、一人ひとり画用紙に好きな絵を描いてみました。サッカーの絵を描く青年、ドラえものの絵を描く青年など、一人ひとりが思い思いに好きな絵を描き、お互いにどのような絵を描いたのか確認することができました。

また、バスハイクの思い起こしをした後、思い出を絵に描いてみました。初めころは絵を描かなかった青年もランドマークタワーの絵を描いていました。また、絵の苦手な青年はガイドブックを見ながら、みなとみらいの観光スポットを文字

で書き写していました。一人ひとり描いた絵を大きな模造紙に張りクリスマス会で発表することにつながりました。

七夕飾りづくり

当初、忠生公園に外出予定でしたが、真夏の暑い日だったこともあり、外出を提案した青年が外出をやめようと提案し、代わりに他のコースも取り組んでいた七夕飾りをつくることになりました。当日、急遽活動が決まったので、模造紙に笹の絵を描き、そこにみんなでつくった飾りを張り付けていきました。

色とりどりの折り紙で輪っかを作ったり、短冊に花の絵を描くなどコース全員で協力して七夕飾りという一つの作品を作ることができました。

CDづくり

新曲をつくりたいと提案した青年からCDをつくりたいとの提案があり、みんなで録音した新曲「青空の向こうへ」に、これまで録音したひかり学級の学級ソングをボーナストラックとして加え、ジャケットに青年が描いた絵をデザインしたCDを作成し、青年一人ひとりに配りました。

時間もなくボーナストラックの選曲やジャケットのデザインは担当者が行いましたが、青年と一緒に選曲やデザインしていれば、また違ったCDができあがったのではないのでしょうか。



④外出

グループホーム見学

青年からの提案で、近くのグループホームをみんなで見学に行くことになりました。初めての外出で、歩くことの苦手な青年が歩き疲れてしまい、途中から車いすを利用して移動しました。グループホームでは職員の方からグループホームの概要を説明してもらった後、みんなで中を見学しました。

ある青年は施設の隅々まで見て回り、後日、見学の感想でもグループホームの備品等を詳細に覚えていてみんなに報告していました。他の青年からも、自分の住んでいるグループホームとの比較や、体験利用でそのグループホームを使った時の感想を聞くことができました。

桜美林大学学園祭

青年から年度当初にコンサートを見に行きたいと言った提案があったことや、外出の好きな青年が多いことから、担当者の提案で桜美林大学の学園祭に行くことになりました。

当日はひかり療育園から歩いて桜美林大学まで行き、体育館でエイサーやよさこいの歌や踊り、アイドル研究会のダンス等のイベントを見学しました。イベントの好きな青年は客席の一番前で熱心に踊りに見入っていましたが、体育館は段差が多く、車いすの青年や歩くのが苦手な青年にとっては移動が大変な活動になってしまいました。

事前に会場を下見したり、外出時の担当者体制をしっかりと確保して外出する必要があったと思われます。

バスハイク

横浜のバスハイクでは、青年から「日本丸が見たい」、「ランドマークタワーに行きたい」、「レストランで食事がしたい」といった希望が出され、当日は、全体交流会の後、みなとみらいにあるレストランで食事をし、その後、日本丸でランドマークタワーをバックにみんなで記念撮影をしてから、ランドマークタワーの展望台に上りました。

全体交流会で元気よく歌う青年や、ランドマークタワーで嬉しそうに外の景色を見る青年など、

普段の室内の活動とは違った青年の様子をお互いに知ることができました。また、青年から成果発表会でバスハイクのことを作文に書いて発表したといった意見が出る等、多くの青年にとって思い出に残る活動となりました。



⑤成果発表会

成果発表会に向け、コースでの一年間の主な活動を写真のスライドを見ながら思い起こし、何が印象に残っているか確認していきました。そこから、一人ひとりが一年間の活動で印象に残った活動を、絵や作文、インタビュー形式、ダンス等で発表し、最後にみんなでつくったオリジナルソングを歌うこととなりました。

成果発表会当日、担当者がシナリオ案をつくってみんなに提案し、何度か練習してから本番に臨みました。

(2) 生活について 近況報告・七夕飾りづくり

コースで自己紹介やお正月の話をする中で、仕事のことや家庭やグループホーム等での生活の様子のお話をする機会が何度かありました。青年が職場の仲間とカナダや沖縄に旅行に行ったことや、スポーツ大会でメダルをとったことなど近況報告で聞くことができました。また、七夕飾りづくりで青年が短冊に「ピアノの連弾をうまくやりたい」、「〇〇さんと結婚したい」と書くなど、青年の日

頃の思いや学級に対する思いを知ることができました。ただ、時間的なこともあり、そうした思いをその後青年どうし話し合い、深めていくまでには至りませんでした。

ある青年は担当者と一対一だと職場のことなど自信を持って話しますが、全体の場ではなかなか話すことができませんでした。2～3人の小集団だと話ができても、大勢になるとなかなか話ができない青年もいます。そうした青年の思いをもう少し丁寧に聞いていって、活動につなげていくことができれば、また違った活動ができたかもしれません。

家族やグループホーム等職員とのつながり

にじドリームアンド創作コースには言葉で表現することが苦手な青年が何人かいますが、自己紹介やお正月の話をしたときに、担当者が事前に家族と連絡をとって本人の話をフォローするよう心掛けました。ある青年については、家に電話連絡をしたときに家族より、家で買い物に出かけたときに本人が花とジョーロを買い、毎日水やりをしていることを聞き、そのことをコース内でみんなに報告し、花の絵を描く活動につなげることができました。ただ、その他の青年については、家族やグループホーム等の職員からあまり話を聞く機会をつくることのできないまま活動が終わってしまいました。電話掛けの時に、ただ単に要件を伝えるだけでなく、家族やグループホーム等の職員から最近の様子などをもっと聞いて活動に活かしていけば、より活動も充実していくのではないのでしょうか。

また、成果発表会では一年間の活動を作文やインタビュー形式に加えて、活動でとった写真をスクリーンに映して報告しました。青年がランドマークタワーで嬉しそうに外の景色を眺めている場面など、作文やインタビューだけではなかなか伝えられない活動中の青年の様子を、写真を使うことで家族に伝えることができたと思われます。

(3) 表現活動(オリジナルソングづくり)

年度当初に青年からコースでオリジナルソングをつくりたいといった提案がありました。これま

でもその青年は、「ぼくらの応援歌」や「ぼくらのきもち」をつくってきた経験があり、そこからまた歌をつくりたいといった要求が生まれてきたと思われる。

こうした青年の思いを受けて、オリジナルソングづくりに取り組んでいきました。まず歌づくりを提案した青年が詞とメロディーを自分で作り楽譜にして持ってきました。詞に込められた思いとして、東日本大震災への思いや北朝鮮のミサイルに対する不安、彼女が見つかるといいなといった思いが込められていることが、みんなに伝えられ、そこから担当者の提案で「平和」「幸せ」というテーマで他の青年にも歌詞に入れたい思いを聞いていきました。

青年からは「東日本大震災、復興して町がきれいになって嬉しい」、「北朝鮮のミサイルが不安」と言った思いや、「北朝鮮のミサイルのニュースや障がい者が殺されたりする事件があつて不安」といった思いを聞くことができました。また、別の青年から誕生日に施設の職員と二人で街の居酒屋に出かけたことが語られ、そこから「車いすの人もどンドン街に出ればいい、そうすれば町の人も変な顔しなくなる」と言った意見もいただきました。また、その青年から別の日に、「(母親が亡くなり)悲しいけれど、ひかり学級のみんながいてくれるから頑張れる。ここに来ると元気になれる。」といった発言がありました。

また「スイッチ」を使うことで、言葉で表現することが苦手な青年より、「みんなと同じ人間で生まれてよかった世の中と思える世界に変えたい」といった、障がい者として生きていくことへの不安な気持ちや、「ひかりの仲間ですべてを伝えよう」、「僕たちの仲間を大切にしよう」、「ひかりの仲間ですべては大切な仲間」といったひかり学級の仲間に対する思いを聞くことができました。また別の青年もスイッチを使いバスハイク後に「バスハイク楽しいなルンルン、海がきれいだなルンルン、みんなと行動できてルンルン、今日一日楽しかったなルンルン」といった詞をつくるなど、スイッチを使うことで日頃の活動では言葉で表現することが難しい青年の学級に対する思いを歌づくりにつなげることができました。

また、その他の青年から「料理などひかり学級でやっていることを歌にしたい」、「〇〇さんと結婚することが夢です」といった意見も出されました。

そこから、「障がい者に対する偏見や差別、将来に対する不安」を1番のテーマに、「夢や青年学級に対する思い」を2番のテーマにし、そして「ひかりの仲間がずっと大切な仲間」であることを共通のテーマとして歌ができていきました。今回、スイッチをつかって青年の思いを表現し、歌づくりにつなげていくことができましたが、技術的な問題や時間的な課題もあり、何人かの青年の言葉を歌づくりに生かすことができないまま終わってしまいました。そうした青年の思いを活動に結び付けていければまた違った歌詞が生まれていたかもしれません。

成果発表会後の思い起こしで、歌づくりを提案した青年から「また来年も曲をつくりたい」といった感想がありました。自分の思いが込められた歌をつくることで、また次も歌をつくりたいといった要求が青年の中に生まれていくのではないのでしょうか。

オリジナルソング『青空の向こうへ』

1 青空の下で 幸せになれるのかな
不安なこといっぱい 胸の中にあるけれど
わかってほしい 私たちのこの気持ち
車いすで街に出よう どンドンと街に出よう
いつの日か 街の人も 変な顔しなくなる
みんなと同じ人として 生まれてきてよかったと
思える世界に 未来を変えたい
ひかりの仲間 生きる希望広めよう
ひかりの仲間 平和を伝えよう
ひかりの仲間 ひかりの仲間
ずっとずっと 大切な仲間

2 青空の下で 幸せになれるのかな
夢は好きなあの人と いつか結婚すること
わかってほしい 僕たち一のこの気持ち
バスハイク楽しいな ルンルンルンルンルン
みんなでケーキづくり ワクワクしちゃうよね
悲しいこともあるけれど ここにいると頑張れる
みんながいるから 元気になれる
ひかりの仲間 生きる勇気わいてくる
ひかりの仲間 夢をかなえよう
ひかりの仲間 ひかりの仲間
ずっとずっと 大切な仲間

ひかり学級 何でも最強スポーツコース 活動の流れ

6月4日	開級式
6月18日	自己紹介、役職・コース名決め、ペットボトルボーリング
7月2日	コース名決め、バスハイク話し合い、七夕飾り作成
7月16日	バスハイク話し合い、風船バレー、キックベース
9月3日	近況報告、バスハイク話し合い、キックベース
9月24日	バスハイク話し合い、外出、かき氷作り
10月8日	バスハイク話し合い、ボッチャ
10月22日	クリスマス会・新年会について話し合い、ボッチャ、バスハイク話し合い
11月5日	クリスマス会・新年会について話し合い、バスハイク話し合い、 桜美林大学学園祭
11月19日	バスハイク
12月3日	バスハイクの振り返り、クリスマス会について、ボッチャ
12月17日	ケーキ作り、クリスマス会
1月21日	近況報告、クリスマス会の振り返り、ボッチャ交流試合
2月4日	交流試合の振り返り、成果発表会話し合い
2月18日	成果発表会の準備、練習
3月4日	成果発表会

1. 何でも最強スポーツコースの特徴

男性 11 名、女性 5 名から構成されるコースです。体を動かすこと、スポーツをしたいといった要求を持った青年が多く、健康で食欲旺盛なためお弁当もほとんど残しません。何度もスポーツコースに参加している青年も多く、活動に慣れています。同じ職場や施設の青年同士もいるため、雰囲気や和気あいあいとしています。昨年度に比べて、車椅子を使う青年の割合が多くなりました。

2. 活動のねらい

活動の狙いは、スポーツを通して更に交流を深めることや、様々なスポーツや活動を通して、青年の得意分野を新たに見つけそれを活かすことです。さらに、例年とは違ったスポーツを取り入れることで、車椅子が必要な青年も主体的にスポーツに参加できるよう心掛けました。

3. 活動の様子と評価

(1) スポーツ

① ペットボトルボーリング

二手に分かれ大きささまざまなペットボトルを 10 本並べて、1 人 2 回ずつ投げます。得点はつけず全員が順番に従いプレーします。ボールを転がすのが難しい青年は、木製のスロープを使い、多くの青年がストライクやスペアをとっていました。ボーリングの好きな青年も多いことや、スロープの活用により全員が主体的に取り組んでいたのが、盛り上がっていました。

② 風船バレー

ビニールひもを使い簡易なネットを張り、それを境にチームに分かれて試合をしました。ラリーをする青年が偏ってしまったため、担当者がサポートをして均等に風船が回るように気をつけました。担当者がサポートすることで積極的に風船に触れていなかった青年も参加する機会が増えましたが、車椅子の青年が参加しづらく、全員が楽しめるようにルールの見直しが必要であると感じました。また、風船の代わりにビーチボールを使うなど、使用する道具についても検討していきたいと思います。

③ キックベースボール

昨年度はこの競技で公民館学級と対抗試合をしたこともあり青年から人気の高いスポーツです。前期で唯一、2 回行ったスポーツでもあります。塁に向かって走るのが苦手な青年もいましたが、担当者が塁に立って声をかけると迷いなく走ることができるようになりました。まだ守備がうまくいかず飛んできたボールをキャッチして塁に投げるのは難しいという青年が多かったです。この種目は青年の個性がよく出るスポーツでもあり、打つのが得意な青年や投げるのが得意な青年など個性が際立っていました。

④ 忠生公園

長距離移動が苦手な青年を車椅子に乗せて、歩いて公園まで向かいました。その時に一人の青年が、担当者が車椅子を押すのを手伝う様子が見られました。全員で輪になり 2 枚のフリスビーを使いパス回しをしたり、フリスビーやボールを使って体を動かしました。普段の活動では輪から離れがちな青年も積極的に参加していました。フリスビーのパス回しの際には、担当者が車椅子の青年の近くに寄り、短い距離でもやり取りが出来るようにしました。また、ボールも膝に乗せて転がすことで相手にパスをするなど、青年自身も自分の力で試行錯誤しながら活動をしていました。公園などの広い場所では特に担当者が広く周りを見ることが必要であり、孤立してしまう青年がいないか注意を払う必要があると感じました。

⑤ ボッチャ

今年度から新たに始めたスポーツであり、年間の活動の中で最も多く行ったスポーツです。ボッチャのセット 2 つとスロープ代わりに雨どい購入したことで、活動日に時間が余ってしまったときなどに利用して体を動かすことができました。

キックベースボールや風船バレーと違って、特定の青年だけが活躍するのではなく、全員が主体的に参加することができました。力加減やコントロールが必要になるので、青年が苦戦する場面も見られましたが、「くやしい」や「おいしい」など感情を声に出して表現することで、各チームで一

体感が生まれ盛り上がっていました。

1月には公民館学級との交流試合を行いました。まずひかり学級は3チームに分かれ、公民館学級は2チームに分かれてトーナメントで戦いました。ひかり学級は全敗してしまったため、班長が公民館学級に再戦を求め、もう一度トーナメントを行いました。2回目のトーナメントではひかり学級が勝つことができ、結果的に1度勝つことができたため青年は喜んでいました。

ポッチャを通じてひかり学級の他コースとも交流が出来ました。にじドリームアンド創作コースとは2回試合をし、クリスマス会では全コースから参加したい青年を募りポッチャの試合を行いました。日頃、コース間での交流の機会はあまりないので、こういった形で他コースと関わることができたのは青年にとってもよい刺激になったと思います。



(2) 創作

①七夕作り

まずは短冊にそれぞれ願い事を書きました。文字を書くのが苦手な青年は担当者がサポートをしました。本物の笹を使うのではなく、夜空をイメージした紺色の大きな模造紙をベースに飾りを作ることにしました。緑色の画用紙で笹を作ったり、画用紙や折り紙を使い装飾品を作り、それを協力して貼り付けて作品を完成させました。

スポーツ以外のことで青年同士が協力する場をつくれたのは良かったのですが、得意不得意がありなかなか参加が難しい青年もいました。

②かき氷作り

青年からの提案でかき氷を作ることになりました。シロップはカルピスの原液で、ノーマル味とぶどう味の2種類を用意しました。電動と手動のかき氷機を使って担当者がつくり始めると、最初はあまり乗り気ではなかった青年も自ら手伝い申し出たり、ほぼ全員がおかわりをするほど好評でした。食べ過ぎ防止のため1人2杯までとしましたが、休憩時間の水分補給もかねてかき氷を食べたのは良かったのではないかと思います。

③ケーキ作り

クリスマス会の午前中に3つのスポンジケーキを用意して、それぞれにクリームを塗ったり、フルーツやお菓子を飾り付けてケーキを作りました。クリーム作り・イチゴを洗う・具材を切る・クリーム塗り・飾り付けというように役割を決めて、当日学級に参加した全員が関わって作ることが出来ました。不慣れな作業で戸惑う青年もいましたが、青年同士で協力し合う姿も見られ、みんなが楽しめる活動になりました。

(3) 役割決め・コース名決め・話し合い

コース名決めの際、欠席者がいたため1回で決めきれず2回多数決を行いました。最初は「ボーリング最強スポーツコース」が人気でしたが、1人の青年が「それだとボーリングだけが上手という意味になってしまう」と猛反対したこともあり、僅差で「何でも最強スポーツコース」に決まりま

した。

普段の話し合いでは班長が司会進行をし、全員に話を振りながら書記も務めていました。担当者がサポートしながら、自ら積極的に発言をする青年だけの意見を聞くのではなく、控えめな青年や言葉でのコミュニケーションが難しい青年にも話を振って意見を聞きました。自分で意見を出すことが難しい青年は、他の青年が挙げた候補の中から選択をするという形をとりました。

班長が休みの時は副班長が仕切り、仲の良い青年が話し合いの進行や文字を書くサポートをしていました。

バスハイク、クリスマス会、交流試合での感想などを逐一聞き、話し合いを通じて青年の気持ちを知ることができました。また、来年度の活動に活かせる意見もありました。

(4) 食事

①桜美林大学学園祭

担当者から提案したらとところ賛成する青年が多かったため行くことに決まりました。徒歩での移動だったため歩くスピードが人によってバラバラで、歩道に広がってしまうこともあり注意が必要でした。事前にお店の配置や売られているものを担当者が調べていなかったため、各青年の希望を聞くのに時間が掛かってしまいました。また、お金の額を制限していなかったため食べ過ぎてしまう人がいました。人混みの中で移動したために途中で一人の青年を見失ってしまい、その青年は先に一人でひかり療育園に帰っていたため無事でしたが、担当者が誰に付き添うか決めておくべきだったという反省点が残りました。青年からは美味しかった、楽しかったという感想を聞くことが出来ましたが、やはり外出の際には念入りな担当者体制の確認が必要だと感じました。

②オリジン弁当

外食に行きたいという意見がありましたが、車椅子4台が入ることが出来て、席の予約が可能なお店が近場に無かったのでお弁当を買うことにしました。ある程度のメニューを担当者で絞り、選択肢を減らすことで選びやすくしました。喜ぶ青

年も多く「たまにはいいね」と発言していました。

(5) バスハイク

スポーツコースは一人欠席の青年がいたものの、他の青年は元気に参加することができました。臨港パークで行なった全体交流会では、リズムを取りながら大きな声で学級ソングを歌っていました。スポーツコースの「サッカーをしたい」という提案をもとに行なったボール渡しでは、みんなで協力してボールをドリブルする様子が見られました。

お昼は天府城という中華料理店へ行き、ランチメニューの酢豚、エビチリ、豚の角煮、チンジャオロースの4つから好きなものを選んで食べました。かねてから横浜の中華街に行きたいという青年の意見が出ており、実際に中華街へは行けなかったものの、少しだけ青年の要望に応えることが出来ました。バスハイクの振り返りをした際も中華料理は大好評で、普段の学級日でお弁当を残しがちな青年を始め、全員が完食していました。

みなとみらい技術館は、入場料が無料ではありませんでしたが内容は少し物足りないようにも感じました。すぐに見て回ることが出来たため、数名飽きてしまう青年もいました。しかし、宇宙の映像を見ることが出来るブースでは、綺麗な映像に見入ってそこから動かない青年もおり、後日とても印象に残っていると話していました。また、ある青年は当日欠席してしまった青年にお土産を買っていました。





(6) 成果発表会

青年と担当者と1年間の活動を振り返っていき、それぞれ1番印象に残っている活動について舞台上で発表することにしました。スポーツが印象に残っているという青年は舞台上で実際にそのスポーツを披露し、クリスマス会やバスハイクが印象に残っているという青年は作文を書いて発表することになりました。また、始めのあいさつと終わりのあいさつは、副班長が立候補し「班長と一緒にやりたい」と提案したため、班長と副班長でそれぞれ分担してやることになりました。

作文の発表については、2月の活動日に担当者と相談しながら作文を書き、それを読む練習をしました。作文以外に絵を描いて発表したいという青年もおり、作文とともに準備を進めました。スポーツの実演をする青年については、今年度行なったスポーツの中でも最も印象に残っているスポーツを聞き、フリスビー、ペットボトルボーリング、キックベース、ポッチャにそれぞれ分かれることになりました。スポーツを披露した後は、担当者が青年に対してインタビュー形式で質問をしたり、感想を聞いたりして一人ひとりが話す場面をつくりました。

本番に向けての練習は、1度通し練習が終わった後も「もう一回練習したい」と青年から意見が出され、時間を計ったりセリフの確認をしながら全員が真剣に取り組んでいました。

成果発表会当日は、急遽欠席となった青年もいたため、誰がどのスポーツを担当するか調整し、リハーサルを行いました。本番直前まで控え室でセリフなどの練習をし、班長がコース全体に「最後の発表頑張ろう！」と声をかけて舞台に向かいました。

本番が終わった後は、お菓子を食べながら成果発表会の発表と1年間のコース活動について振り返りを行いました。今までの練習の成果を活かした発表ができ、楽しかったという感想を多くの青年から聞くことができました。また、担当者にとっても今年度の活動を青年の意見を通して振り返ることができた良い時間になりました。

4. 課題と展望

今年度のスポーツコースには、今まで継続的にスポーツコースに参加している青年だけでなく、今まで他のコースに入ることの多かった車いすの青年も数名参加しました。例年と同じスポーツを行うだけでなく、本格的にポッチャを取り入れたことで、活動のマンネリ化を改善できた部分もありました。しかし、青年のスポーツ活動への参加の度合いにまだ偏りがあり、今後はポッチャ以外にも車いすの青年が主体的に参加できるスポーツを探し、活動に取り入れていくことが必要だと思います。また、公民館学級との交流試合だけでなく、ひかり学級他コースと対抗試合を行うことで、全コースの交流のきっかけができると良いのではないのでしょうか。

スポーツ以外の活動では、忠生公園やバスハイク、桜美林大学学園祭などの外出の際に、担当者体制が万全ではなかったことが課題と考えられます。コースの人数は16人で、ひかり学級の中では1番大人数のコースであるのにも関わらず、少ないときには担当者が3人という厳しい状況で活動を行なうこともありました。担当者体制が十分でないために制限されてしまった活動もあるので、青年の希望に寄り添った活動や安全の確保ができるよう、担当者や応援の体制を整えることが必要であると感じました。

また、普段の食事のときにおかずを切る必要がある青年や、ペースト状のお弁当を食べている青年が外食や調理活動で作った軽食などを食べる際、食用のはさみで食べ物を切るだけでは食べづらく、担当者も対応できない場面がありました。こういったときのために、フードプロセッサーやミキサーなどの使用ができると良いのではないかと思います。

ひかり学級 おでかけ料理コース 活動の流れ

6月4日	開級式
6月18日	自己紹介、係・コース名決め、フランクフルトづくり
7月2日	自己紹介、話し合い(バスハイク、調理について)、七夕作り
7月16日	調理(カレーライス、そうめん、マカロニサラダ)、七夕作り
9月3日	話し合い(バスハイク)、外出(忠生図書館)
9月24日	話し合い(バスハイク、調理について)
10月8日	調理(キノコスパゲティ、ミートソーススパゲティ、カボチャサラダ)、 話し合い(バスハイク)
10月22日	話し合い(バスハイク、クリスマス会か新年会か)
11月5日	話し合い(バスハイク、クリスマス会か新年会か)、外出(忠生公園)
11月19日	バスハイク
12月3日	話し合い(クリスマス会について)
12月17日	ケーキ・ツリーづくり、クリスマス会
1月21日	話し合い(成果発表会、調理について)
2月4日	調理(ラーメン、ピラフ)、コース活動費の確認
2月18日	話し合い(成果発表会)、成果発表会の準備・練習
3月4日	成果発表会



1. お出かけ料理コースの構成とねらい

男性9名、女性5名、計14名の青年で活動しました。

集団の特徴としては前年度、(物作り+料理)のメンバーが多く学級歴も20年以上の青年が多く調理や物を作るのが好きな青年が集まりました。

14名の内、自ら発言する青年が少なく、コース名は2015年に他コースで活動した時のコース名を青年の提案で決まりました。

- ① 季節や作る楽しさを味わえる料理をする。
- ② 生活に役立つように、料理や外出に伴う金銭の収支計算を行う。
- ③ 外出を通し集団行動を意識する。

以上の3点をねらいにし、活動してきました。

2. 活動の評価

(1) 料理について

料理コースでこれから料理を作っていくうえで、どんな目的を持っていくかを話し合う機会を作りました。より意義のある活動を行うためにカロリーや予算などを考慮したり、買い出しのところから始めてみたり、今まで作ったことのないものを作ってみたり、体も動かすことで健康な体を目指すなど様々な案が出ました。

しかし、前期では目標ができて以降の活動でこれらの目標があまり活かされておらず、青年への目標の認知と浸透が今後の課題となっていました。

後期では前期よりも意識するようにし、ラーメン、ピラフづくりをしたとき最後にコースにいくらお金が残っているのかという収支計算を青年が行いました。コースメンバー全員に意識を浸透させることはできませんでしたが、単に料理をするだけではない、新しい気付きを持った青年や、より関心を持つ青年がいたため非常に有意義な活動を行うことができました。

フランクフルト

2回目の活動日に担当者からの提案で作ることになりました。この日の活動を話し合いだけで終わらせないようにという考えからです。青年たちがそれぞれ自分の分のフランクフルトを、準備したホットプレートで焼き、ケチャップをお好みで

かけて食べました。自分で焼けない青年の分は担当者や、他の青年が代わりに焼いていました。

準備が難しくなく短時間で行うことができ、青年たちの反応も良かったです。ただ青年からマスタードをかけたいという要望があり、準備をしていなかったため、ケチャップだけで我慢してもらおうということがありました。今後、もしやることがあればもう少し手厚い対応がとれるよう準備をすると、さらに満足度が高くなると感じました。

カレーライス、そうめん、マカロニサラダ

何を作るかという多数決においてカレーライスとそうめんが同数になったため、その両方と、付け合わせにマカロニサラダを作ることに、話し合いの結果になりました。量や工程が多かったのですが、調理を楽に行える道具を使ったり、担当者がサポートをすることにより、お昼の時間までに3品作りきることができました。

調理に積極的じゃない遠慮がちな青年には、担当者が声掛けをすることで参加を促すことができました。また調理器具の工夫で全員が何かしらの調理に参加することができました。

おかわりをする青年が多く、味、量ともに満足のものとなりました。



和風キノコスパゲティ、ミートソーススパゲティ、かぼちゃサラダ

後期最初の料理は、二種類のスパゲティとかぼちゃのサラダでした。テーマは「秋を感じよう」です。

前々回に忠生図書館でレシピ本を見ながら、どんな料理が食べたいかを聞き取った際に、スパゲティの要望が多かったため、案としてスパゲティが挙がり、そこからさらにどんなスパゲティがいいかを料理の前の活動日に話し合いました。その

結果多くの青年がミートソーススパゲティを選択し、あともう一種類ということで案を募集したところ、青年から明太子スパゲティの案が出ました。しかし明太子を辛いと感じる青年もいるので、明太子はトッピングにすることに。そこからあと一種類は和風にしようということで秋を感じるというテーマから、和風キノコスパゲティを作ることが決まりました。また付け合わせには、かぼちゃのサラダを作ることが決まりました。

当日の調理では事前に役割分担をしていたため、作業量が多かったにもかかわらず、順調に進んでいきました。今回も担当者のほうが調理を楽にするためにフードプロセッサーを持参し、なかなか調理に参加できない青年はもちろんのこと、普段から積極的な青年もより料理に関心を持ち、楽しく作るきっかけとなりました。

味の感想も上々で、トッピングでさらに自分好みにできたことも高評価につながりました。

この日の料理活動を通して調理器具の準備で料理に気軽に参加できるようになったり、より楽しめるきっかけとなることが分かったため、料理をする際には積極的に活用するべきだという意見が担当者から出ました。



クリスマスケーキ

クリスマス会の午前中に何をするかという話し合いでクリスマスケーキを作ることが決まりました。2人1組で1つ作り、計4つ作りました。スポンジの間にフルーツを挟み、生クリームを塗り、イチゴをのっけて、さらにチョコやお菓子など自由に飾ってもらいました。にぎやかに飾る青年もいれば、シンプルこそ一番という青年もいて、個性を感じることができました。

簡単に作ったにもかかわらずとても高評価で、中にはお代わりをして合計3切れも食べた青年も

いました。



ラーメン（塩、みそ）、ピラフ

今年度最後の料理として2月4日の活動日にラーメンとピラフを作ることになりました。前の活動日に、メニューの話し合いをしている中で、ラーメンという要望が多く出たため作ることになりました。しかしラーメンにトラウマがあり食べられないという青年がいたため、その青年の好きなエビを取り入れたピラフを作ることが決まりました。

予算の都合からチャーシューではなくハムにしたり、トッピングを減らしたりと、若干のグレードダウンはありつつも結果、青年全員が満足している様子でした。



◆ 今年度のお出かけ料理コースの料理活動では、メインの料理を2～3種類作りたいと希望する青年もいて、青年たちの要望が分かれ、時間的に難しいのではと話し合いましたが、

包丁が苦手な青年には薬物はハサミで切る、野菜包丁では無く小型包丁を使う、その他調理器具を利用することにより全員参加することで数種類作ることはそう難しいことではないことが分かりました。青年の要望にできるだけ添えるような担当者体制を整えることがよいと感じました。

(2) 生活づくり

開級式後の話し合いで青年から金銭出納やグループホームなどの生活に関する活動をしたいと提案がありましたが、前期の調理活動後はバスハイクの話合いが多く、また提案者の青年も歯の治療のため学級の休みが続き、中々実現出来ませんでした。

2月のラーメン作りの活動後に一人の青年が領収書を見ながらホワイトボードに買い物の金額を書き込み、提案者である青年がみんなに収支を発表することができました。

グループホームの話も9名が自宅生活のため話が進みませんでした。自宅暮らしをしていた青年は「無駄使いが多かったがグループホームで生活するようになったら給料からホームに掛かる費用、貯金を引くと無駄な買い物はできなくなったけど、楽しく暮らしている」と話を聞くことができました。

父親の家業を手伝っていた青年は5月に父親が急逝し、会社をたたんだので仕事を失ってしまい自宅にこもっていましたが、お姉様が探した作業所に通うことができ、元気に仕事に取り組んでいると報告がありました。

母親と暮らしている青年はグループホームに入る事は考えていないと話していましたが、最近高齢の母親の体調が思わしくなく心配だと話していました。そのためか、話し合いの時は自ら提案した活動も拒否することもあり、精神面でイライラし、時折大声を発することもありました。

(3) 集団づくり

構成人数は14人と比較的多いコースでしたが、前回同じコースや職場が同じ青年の集団で仲間意識は高く、学級を休んだ青年を気にする発言が見

られました。

調理や物づくりの活動では2つ～3つのグループに別れて作業することが多い活動でしたが、クリスマス会のツリー作成とケーキ作りでは午前中に仕上げるには時間が限られていたため、ケーキ作りの青年たちが手を貸し、大きなツリーを仕上げ、ホールに飾ることができました。

ひとつの活動をみんなで共有したことで更に達成感を味わうことができました。

横浜みなとみらいのバスハイクでは3つのグループに別れて写真を撮りながら公園散策しました。先を歩いていた青年が途中途中で、皆を待つ姿がありました。公園内のレストランでグラタンを食べていた青年に「熱くない？ ゆっくり覚まして食べてね」と仲間を思いやる青年もいました。

忠生図書館

レシピ本を見て今度何を作るかを考えるために忠生図書館へ行きました。忠生図書館にある多目的室を借り、青年は気になったレシピ本を見つけたら、それを持って多目的室で読むという形をとりました。多目的室を利用することで周囲を気にする必要がなく、ゆったりと読むことができました。レシピ本を見ることで、今まで作ったことのない料理を探す、青年の作ってみたい料理を知る、という2点ができとても良かったです。普段意思表示が苦手な青年からもレシピ本を渡し、そこから1品選んでもらうことで、できるだけ本人の希望に近いものを聞き取ることができました。

しかし本を選ぶ際、興味が料理以外にいつてしまう青年が多く、レシピ本以外の本を探しに行ってしまう、レシピ本を選び多目的室へ移動するまでに時間がかかってしまいました。青年を促す声掛けが必要となりました。

忠生公園

11月5日の午後の活動で忠生公園へ外出に行きました。公園ではゆったりと散歩をし、秋の様子を楽しむことが出来ました。

外出をするということを楽しみにしている青年もおり、散歩をするだけでも笑顔を見せることがありました。

この忠生公園外出の際に、準備が遅い青年に対し青年が不満をぶつけるということがありました。予定が遅れていくことにいら立ちを感じていた様子で、忠生公園に行く道中一人ですたすと先を歩いて行ってしまいました。外出の際には今から準備をして何時に出発しようなどの時間設定をしておこうと、担当者の中で意見が出ました。

バスハイク

バスの出発が遅れ出しから不穏な空気が流れていたバスハイクでしたが、午前の全体交流会を終えた時点で良い雰囲気になっていました。

全体交流会の中では特にボール蹴りを楽しんだ青年が多く、競技中満面の笑みを浮かべている青年や、並びなおしてもう一度参加する青年もいました。

昼食は臨港パーク内のレストランでとり、それぞれ希望のメニューをあらかじめ注文しておいて、おいしそうに食べていました。一品では足りず、追加でさらに注文をする青年もいました。

午後はコースをさらに3つのグループに分け、それぞれのグループで1つの使い切りカメラいっぱい写真を撮ってくるということをしました。各グループで横浜をめぐる景色や物、グループの集合写真など様々な写真を撮りました。最後にはランドマークタワーに3グループ集合し、お土産を買ったり集合写真を撮ったりして、それぞれが思い思いに楽しめた様子でした。

(4) その他活動について

七夕飾り

7月2日の活動日に七夕の短冊と飾りを作り担当者の持ってきた笹に飾り付けをしました。少し大きめの短冊に、思い思いに文を書いたり絵を描いたり、飾りを作ったりしました。

また7月16日の活動日にも七夕づくりの活動を行いました。前回作った短冊を模造紙に貼り、成果発表会まで保存できるようにという意図からです。前回の活動日で短冊を作っていた青年もまた新しく作ったり、模造紙に大きく好きなキャラクターの絵を描いたりしました。前回休んでいた青年は短冊にこの日作った、カレーやそうめんの感

想を短冊いっぱい書いていました。

クリスマスツリー作成

クリスマスケーキ同様、クリスマス会の午前中に作成したものです。

クリスマス会の午前中に何をするかという話し合いでケーキを作って食べたい、クリスマスらしい飾りを作りたいという2つの要望を叶えるためにコースメンバーを2つのグループに分け、半分はケーキ、半分はツリーを作るということになりました。しかしケーキ作りはそこまで時間がかからず、早く作りすぎてしまうと崩れてしまう可能性があるということではじめの時間は全員でツリーづくりをすることになりました。大人数で取り掛かったおかげでとても豪華なクリスマスツリーが出来上がりました。

ツリー自体は大きな発泡スチロール2枚を斜めに切り、それぞれをつなぎ合わせることで上部分と下部分の2段構造にし、さらにその下に小さな段ボールを設置することでよりツリーらしくしました。下部分の発泡スチロールには緑のフェルト生地の布を貼り、見た目、雪をかぶったツリーのようにしました。

飾りについては青年が折り紙で作ったものや、担当者が持ってきたリボン、小さなプレゼントボックスなどを貼り付けました。ツリー飾り用にキーホルダーを持参した青年もおり、一緒に飾り大きく華やかなツリーに仕上げることができました。





食代のこ) 2206円	
クリスマス代のこ) 2315円	
今日の食代 10400円	
<hr/>	
14921円	14921円
427円	79円
734円	1114円
437円	540円
1111円	734円
540円	437円
4211円 + 427円	
<hr/>	
2961円	
	14921円
	-3961円
	<hr/>
	10960円
	<hr/>
	11247円

成果発表会

一年の締めくくりである成果発表会。当日はリハールに少し時間がかかってしまいましたが、それ以外は大きな問題なく1日を終えることができました。

コース発表ではこの一年でやってきたことを順々に紹介していくという形を取り、料理であったり創作物であったりと、必ず写真として記録を残していたため、それをスクリーンで見せながら青年に感想を発表してもらいました。クリスマス会のものについては動画として記録もしていたので、それをスクリーンに流しながら発表を進めたりもしました。

3. 課題と今後の展望

前期の料理活動でフードプロセッサーを利用すると「楽しかった」「簡単に細かく切れた」との声があり、後期もみんなが使える（特に手が使いにくい青年も使える）調理器具を取り入れ、利便性を感じ、料理の楽しさを感じるような活動をしました。

今後も安価で便利な調理器具を使い、生活の源である「食」に関する活動に取り組むことができればと思います。

自立に役立つよう家計簿のような物の書き方を知りたいと言う青年もいるため、後期に買い物をしたときは金銭収支の活動に取り組みました。

担当者は男性2名・女性3名の構成なので近場の外出・外食なども可能と思われましたが、カロリー面、金銭面を気にする青年もいて話が纏まらず実現出来ませんでした。

第2章 自治活動

1. 班長会

(1) 班長会とは

コース間の情報交換や情報交流をする場であり、またバスハイクや成果発表会、クリスマス会など学級全体に関わる議題について話し合う場として班長会が行われます。例年、午後1時から1時半まで行っていますが、外出等で複数コースが不在の場合は夕方に行うこともありました。

また、昨年度から、その日の班長会での出来事をまとめた班長会ニュースを持ち回りで執筆し、他の学級生への情報共有に努めました。各コースからは班長が、欠席の時は代わりに副班長が参加し、班長会を進めていきました。

(2) 活動の流れ

6月18日

バスハイクの行先について各コースで話し合ってもらおうよう決定しました。

7月2日

バスハイクの行先について話しました。

7月16日

バスハイクの行先について話しました。

9月3日

バスハイク当日の集合と行き方について話しました。

9月24日

バスハイクのスケジュールについて確認しました。

10月8日

今年度はクリスマス会か新年会かどちらをするのか話しました。

10月22日

バスハイクの全体交流会で何をするか話しました。

11月5日

バスハイクの全体交流会で何をするか決めました。また、クリスマス会の日程について確認しました。

11月19日

バスハイクのため班長会は休みでした。

12月3日

クリスマス会で歌う曲と、コースの発表の順番を決めました。

12月17日

クリスマス会の反省をしました。また、1月21日の公民館学級とのボッチャの試合について話しました。

1月21日

成果発表会の時間を確認して、成果発表会の

招待状を作成しました。

2月4日

成果発表会で歌う歌と、班長の役割分担（司会、初めの言葉、終わりの言葉）を確認しました。

2月18日

成果発表会の発表順と、発表会で歌う曲を決定しました。

(3) 課題と展望

司会は毎回、希望者を募るか、偏った場合は、担当者の方で指名していました。

積極的に発言する青年の意見が班長会の総意となるケースもありました。

昨年度までは行わない日もありましたが、今年度は毎回班長会を行い、細かな事でも情報共有に努めることができましたので、来年度においても継続します。

第3章 考察

1. 今年度の活動について

17年度は、「音楽」、「創作」、「スポーツ」、「料理」の4コースに分かれて活動に取り組みました。年間を通した継続的な活動となるテーマについては、4月の「青年学級を語る会」での意見と事前アンケートにもとづいて編成しました。外出を希望する青年たちが半数以上に上ることを考慮し、各活動の中で、外出を取り入れての活動も視野に入れました。

今年度、ひかり学級では担当者不足等の理由から、4コースで活動をおこないませんでした。また、新人学級生の募集をしませんでした。しかし、新たな仲間を学級に迎えることにより、刺激となり、活動の幅を広げることができるのではないかという思いから、担当者不足の状況を改善しつつ、今後も新人青年の受け入れについて検討していきたいと考えています。

ここ数年、ひかり学級の秋の行事を合宿かバスハイクかのアンケートを取り決定しています。2013年度からはバスハイクがアンケート、また、学級日での話し合いで優勢です。今年度も話し合いの結果バスハイクになりました。行先は横浜となり、現地で技術館の見学などを行なうことにしました。また、全体交流会も行ない、臨港パークの芝生の上で学級ソングを歌いました。終了後の感想では、「綺麗な景色を楽しみました」や「お土産が買ってうれしかった」などの意見がたくさん挙がり、とても好評でした。

しかし、近年合宿に行っていないこと、また、合宿に行きたいという意見もあることから、多数決だけで決定していくのではなく、少数意見にも耳を傾けていく、1年おきに合宿とバスハイクを組み入れていくなどの工夫も必要になってきそうです。

2. 担当者の役割について

慢性的な担当者不足により、他学級の担当者にも応援に来てもらいました。ただ、外出希望者が多いにもかかわらず、コース活動になかなか外出を組み込むことができなかつた状況になりました。

担当者間での情報共有を重視し、活動後は応援担当者や当日担当者、ボランティアの方と振り返りの場を持つようにしました。担当者の役割として、青年の求めに応じた支援や、学級活動の環境づくりがありますが、「ともに活動をつくりあげていく人であること」が前提にあります。

また、青年が活動に参加しやすくなる工夫の

一つとして、ニュース作りを行っています。毎回の活動報告と次回の活動予定を各コース1枚ずつ便りにして、活動日前に送ります。文章はわかりやすい表記で、活動時の様子が思い浮かぶような書き方を心がけました。また、青年の絵や作品の写真を一緒に載せることもありました。班長会での決定事項をまとめた班長会ニュースも掲載しました。

今年度は、新たに5人の担当者を迎えられることになりました。依然、厳しい担当者体制ではありますが、後半は少し活動に幅を持たせることが出来ました。

3. つどい

活動の始まりと帰りに学級全体で行う「つどい」の司会進行は、始まりは例年同様コースごとに順番で、帰りは「つどい・歌係」で行いました。リクエストにより、活動の中で作られてきた学級ソングを数曲歌います。曲は8曲以上にのぼるのですが、曲のリクエストは当日その場で青年たちに聞き取りをしていくため、リクエストをする人と選曲に偏りが出てしまいました。リクエストをする人や選曲の偏りを改善するために、帰りの「つどい」を担う、「つどい・歌係」を各コースから1名ずつ選出し、昼休みに、帰りの「つどい」で何を歌うかを決定しました。そうすることで、各コースの中で担当者のフォローの元、普段、リクエストをしない青年の声にも耳を傾ける工夫をしました。

4. 喫茶「のぞみ」

学級活動後の他コースのメンバー間の交流の場として、活動後にひかり療育園の調理室で行った喫茶活動です。2001年頃の開始後、しばらく休止していましたが、2012年から再開しています。メンバーは有志の青年で構成され、今年度は2,3人の青年と担当者2名が定例的に参加していました。活動内容は、昼休みにお茶やお菓子の買い出しをし、活動後に喫茶の支度をし、一人50円の会費で開店しました。お茶出しが落ち着くと、お金の計算、出納帳に記録、状況報告などを共有しています。

ここ数年、同じ形態で行っていますが、以前、ひかり学級の今後を見据えて、一度話し合いをする必要性などの意見も挙がっていますが実現できていなく、それが課題と言えそうです。

第4部 土曜学級

第1章 班活動

土曜学級 ハワイと虹班

活動の流れ

6月10日	開級式、自己紹介
6月24日	班長決め、持ち寄ったCDを聴く、班の名前決め、ポージング、次回の活動
7月8日	七夕の短冊作り、名札作り、合宿の話、かき氷作り、学級ソングの練習、「帰りのつどい」について、次回の活動
7月22日	20周年記念式典で発表される作文・絵の作成、フラダンスで使う腰蓑作り、フラダンス「月の夜は」を踊る、合宿について、次回の活動
9月9日	夏の報告、合宿の話、次回の活動、フラダンス「月の夜は」を踊る
9月23日	亡くなった青年の話、グループ活動(①チーズケーキ作り②合宿のしおり作り③レイの花作り)、合宿の話、フラダンス「月の夜は」を踊る、リンボーダンス
10月14日	合宿1日目:打ち合わせ後出発、八王子いちょうホールでコンサートを聴く、ホテルのレストランで昼食、相原で揚げパン購入・試食、センター到着後入浴・次の日の昼食の下ごしらえ・夕食・全体交流会参加
10月15日	合宿2日目:朝食、昼食の準備、ホールでの活動(2人ひと組で身体ほぐし、フラダンス「月の夜は」を踊る、リンボーダンス)、次回の活動、昼食、談話室で休憩、生涯学習センターに向け帰る
10月28日	グループ活動(①かぼちゃサラダ作り②仮装のマント作り③ハロウィンのお面作り、合宿の振り返り、クッキー作り、ハロウィンの他への巡回、「帰りのつどい」でハロウィンの仮装を披露
11月11日	ハワイアのレイ作り、成果発表会について、次回の活動、フラダンス「月の夜は」を踊る、リンボーダンス、ラジオ体操
11月25日	「秋」の歌をうたう、クリスマス会について、オリジナルソングを考える、「ぺったんダーツ」の練習
12月9日	クリスマス会の準備、クリスマス会、来年度の秋のイベントについて、「北風小僧の寒太郎」をうたう、リンボーダンス、次回の活動、自己紹介
1月13日	年末年始の報告、オリジナルソング、凧作り、成果発表会の練習、次回の活動、「帰りのつどい」で凧を発表し年始らしい活動を報告
1月27日	焼そば作り、成果発表会の練習・話し合い、
2月10日	成果発表会の小道具・衣装作り、プログラム作り、成果発表会の練習、チョコレートパーティー、成果発表会後の打ち上げについて、今年班で印象に残ったこと
3月3日	リハーサル、準備、成果発表会

台詞なしで、観客席の青年も動員した成果発表会「みんなでフラダンスしよう♪」

成果発表会の始まりです。班の皆は、いままでの活動で作った腰蓑を着け、レイを首にかけて照明の落とされた舞台にあがり待機しています。「ビュー」という木枯らしの効果音がして照明が付き、皆は寒そうにしています。「北風小僧の寒太郎」の伴奏が流れ、メインボーカルの青年を中心に皆で歌をうたいます。歌詞の2番が終わったところで、マントを着て三度笠を被った寒太郎に扮した二人の青年が登場、ポーズをして皆で歌詞の3番をうたいます。

うたい終わったところで曲が一変し、「南の島のハメハメハ」が流れると、班長の声をきっかけに皆で「リンボーダンス！」との掛け声をかけリンボーダンスを踊ります。舞台の中央に飾り付けられた棒が斜めに渡され、その下を一人ひとりが潜り抜け踊り、皆が踊り終わったところで、班長たちが観客席の青年たちを呼び込み、一緒にリンボーダンスを踊りました。

「南の島のハメハメハ」の曲が終わったところで、フォークダンスの「ジェンカ」を踊ります。前の人の両肩に両手をかけて皆で踊りました。三人いる班長の一人は観客席に降りて観客席の人たちと踊りました。曲が終わると、他の班の人たちは観客席に戻り、自分の班の人は「またね！」と手を振って送りました。

次に「月の夜は」の曲に合わせてフラダンスを踊ります。踊りになじめない人が「ウリウリ」を演奏し、フラダンスを得意とする青年を中心に皆で踊りました。活動の中で何回も練習した踊りなので無事終了しました。

最後に班で作ったオリジナルソング「ハワイと虹」をウクレレとカホン伴奏でうたいました。

ハワイに行ったら
みんなと海に潜ろう
イルカと一緒に
サングいっぱい
虹の下でフラダンス

ハワイに行ったら
みんなとステーキ食べよ

ちょーちょー美味しいね
ブルーハワイで乾杯！
虹の下でフラダンス

ハワイに行ったら
みんなと歌をうたおう
アロハ〜アロハ〜
虹と一緒にさあ踊ろう
虹の下でフラダンス
虹の下でフラダンス

うたい終わったところで、皆は舞台の袖に移動し、「ぼくらのポーズ」の写真を一人ひとりスクリーンに映した後、班活動で装飾をしたコップにゼロハン差して光を当てて虹をイメージし、発表を終了しました。成功です。

成果発表会では、1年間活動してきたことを台詞で説明していくことが多いパターンですが、今回の場合は台詞がなくても場面状況がわかることから、台本には演ずる順番だけで台詞を考えず、その場の流れで発表を行いました。

1. 集団の構成、特徴

男性13名、女性5名、計18名と大きなグループで、楽器演奏や歌、ダンスが好きな青年が集まりました。年齢は30代、40代が中心で、昨年度から、音楽系の班の継続が8名、スポーツ系・イベント系・ものづくり系の班から3名ずつ、新人1名で成立した班でした。

班の係り決めは青年がやりたい役を選び、班長には3人が立候補してそのまま決まり、副班長は欠員です。

新入生については、楽器（鈴）が好きで音楽をする班には合っているようですが、休みがちであり、集団にも活動にも馴染めないまま1年間が終わりました。後半の活動では口に手を入れて吐くような仕草をみせることが多く、大人数よりも少人数のグループの方が落ちつけます。

なお、青年の数に比べて担当者が4名（うち、当日担当者2名）と少なく、職員や応援者に入っただき、活動が支えられていました。

そのことから、活動の内容には制約を与えることにもなりますが、合宿以外は原則として外出し

ないこと、調理やものづくりなどで材料の買い物が必要なときは、予め担当者が用意することなど活動にも工夫を凝らしました。当日買い物をしなければならないときは、班長3人と担当者1名がその任に当たり、その他の青年は室内で別の活動をするなどの方法を取りました。

2. 活動のねらい

- (1) ダンスや歌、演奏などの活動を通して、お互いを認め合い尊重し合える集団づくりを目指す。
- (2) 歌づくりや振り付けを作り上げる共同作業により仲間意識を高める。
- (3) 活動の中に青年たちの想いを取り入れ、自己表現の喜びを感じる。

3. 活動の評価

(1) ぼくらのポーズ

「世界にひとつだけの花」に合わせて自由にポーズをしました。身体表現の糸口になればと思い実施し、バラエティにとんだポーズが見られました。

(2) 学級ソングの練習

つどい当番に合わせて、「ぼくらの輝き」を練習しました。年間を通した活動として定着させていきたいと思っていましたが、結局は年間を通した活動とはなりませんでした。

(3) 七夕短冊作り

季節感のある活動として七夕の短冊作りをしました。学級に対する願い、生活に対する思い、自然災害に対する思い、普段の自分の行動に対し姿勢を正す言葉など、字を書けない青年は絵を描くなど、思い思いの短冊を作りました。黒の模造紙に金銀のモールを貼り、天の川・彦星・織姫星を描き、短冊を貼って七夕飾りを作りました。また、それぞれの青年が個性的な名札作りもしました。

(4) かき氷作り

班名にちなんでブルーハワイ味のかき氷を作りました。プッシュ式のかき氷器を使うことで、多くの青年が活動に関わることができました。この活動は「美味しかった」「楽しかった」など、青年たちに好評でした。

(5) 腰みの作り

フラダンスの衣装である腰蓑をスズランテープで作りました。机に接着面を上にしたガムテープを置き、その上に切ったスズランテープを貼って作成。腰蓑をつけることでフラダンスをするという雰囲気に盛り上がりました。

(6) フラダンス

フラダンス「月の夜は」を踊りました。フラダンス特有の手話のような振り付けにひとりの青年が興味を強く持ったことで、その青年が振り付けを担当することになりました。始めたときに成果発表会まで継続な活動としたことで、毎回の活動で取り入れることができ、成果発表会で披露することができました。

(7) レアチーズケーキ作り、しおりイラスト、レイ花作り

調理実習室は他の班が使用していたため、美術工芸室で調理することになり、スペース的な問題もあったため、4名の青年で、スライスチーズ、スキムミルク、ヨーグルト、ゼラチンなどの材料で火を使わずに湯煎でケーキを作りました。

残りの青年たちは合宿のしおりの表紙に使うイラストを描く組とクラフトパンチでレイの花を作る組に分かれました。

3つのグループに分かれて作業したことで、青年たちが積極的に活動に関わることができました。

(8) リンボーダンス

楽しく身体を動かす活動として「リンボーダンス」を取り入れました。BGM「南の島のカメハメハ大王」に乗せて棒の下を潜るという動きはすぐに理解され、大盛況でした。その後も取り入れていくことになりました。

(9) 班長の進行

班活動の初めに班長3人と担当で打ち合わせをし、1日の流れを確認しながらスケッチブックに書き、紙をめくる役の班長と読み上げる役の班長を決め、班の皆に発表しました。青年たちが予定を把握することを目的に始めたことですが、打ち合わせ不十分になってしまっている当日担当者や応援者への説明となったこともよかったです。

(10) 合宿

- ① 八王子いちょうホールでコンサート鑑賞

声楽家によるクラシックコンサートということで、退屈してしまうかとも思っていました、本格的な歌声に多くの青年たちが魅了されていました。

② 中華バイキングランチ

青年からバイキング料理が食べたいとの意見が出たため企画。好きなものを自分で選ぶということを楽しんでいた様子でした。

③ 昼食作り

棒棒鶏サラダは前日にフォークで鶏肉の繊維をきり、下ごしらえ。水菜はキッチン鋏でカット。簡単な作業で多くの青年が調理に関わることができました。

④ リンボーダンス

2日目の活動でリンボーダンスを行ないました。同じ部屋で活動していたスポーツ班の青年たちが加わり、楽しいダンスになりました。この体験が成果発表会に繋がりました。

(11) ハロウィン

① かぼちゃサラダ、かぼちゃクッキー作りリンボーダンス

冷凍かぼちゃを電子レンジで温めマッシャーで潰して、滑らかになったかぼちゃにマヨネーズを入れて混ぜ、えんどう豆で「目」をかぼちゃの緑のところ「口」を作り「ハロウィンおばけかぼちゃ」を作りました。また、他の班を驚かしに行く際にあげられるようクッキー作りをしました。クッキー生地を冷蔵庫で寝かせ、手の上でコロコロと丸めて形成し、鉄板の上にならべてオープンで焼いて完成です。クッキーが苦手の人のためかぼちゃプリンも作りました。

② 仮装マント作り、お面作り

カラーのポリ袋を利用、どうしたら良いか話し合っ、仮装するためのマントを作りました。また、一人の青年の発案でお面作りにも取り組みました。ハロウィンの仮装をして班長たちが他の班を驚かしに行ったほか、「帰りのつどい」でも披露しました。

(12) 北風小僧の寒太郎

秋の歌には何があるか意見を出していた時に一人の青年から出た歌です。多くの青年が歌詞を見ずに歌えていました。特に元気よく歌っていた青年が何人かいたのが印象的でした。その後の活動

でもうたって成果発表会でも取り入れることができました。

(13) オリジナルソング作り

一人の青年の強い希望があり取り組みました。「今年あったこと」を主題に話し合いましたが活発に意見は出なかったため、「ハワイ」のイメージに切り替えたところ活発に意見が出て盛り上がりました。青年たちから出た言葉を繋げて、その日のうちに歌詞を完成させました。音域の狭い青年たちに合わせたメロディ作りとハワイアンみいたなゆったりしたリズムを意識して担当者が作曲。編曲を担当者OBに依頼。出来上がったウクレレ伴奏のオリジナルソングは青年たちに大好評でありましたが、練習する時間が少なく、成果発表会までに完璧に歌える青年はいませんでした。

(14) 飾り凧作り

お正月らしい活動として「凧上げをしたい」と意見が出ました。しかし、凧上げできる場所も少なく、外出も難しいため、飾り凧を作ることになりました。模造紙に好きな絵や今年の抱負を書いた折り紙を貼り、凧のように骨組みや糸を貼り付け飾り凧を作りました。「帰りのつどい」で披露しました。

(15) チョコレートパーティ

バレンタインデーの活動として、チョコレートファウンテンを使ってチョコレート料理を食べました。最初は遠巻きに見ていた青年たちも一人が果物やお菓子里にチョコレートをつけたのを見て後に続けとばかりに器具の周りに集まっていました。貴重な体験になったとともに、皆が楽しめたものと思います。

(16) やきそば作り

大人数分のやきそばを作るのは難しいと思い、インターネットで調べた「そばを焼く前にソース粉を混ぜる」方法で作りました。調理工程を写真で提示したことで青年たちもイメージしやすかった様子です。

(17) 成果発表会準備

フラダンスに入りづらい青年たち用にウリウリ（ハワイのマラカス）を作りました。調理の際に食べたプリンのコップに彩色し、舞台装置としました。リンボーダンスの棒はフェルトやお花紙で飾り付けしました。

(18) 成果発表会

台本を作った当初は、練習をしながら出てきた言葉を台詞にするつもりでありました。練習を重ねていくうちに台詞がなくても、場面状況はわかること、青年たちが緊張せずダイナミックに楽しんでいる姿が見られたことから台詞は無しにしました。一人の青年からは「ぼくらの歌が台詞だ」と名言がでました。ジェンカを提案した青年は、班に慣れていない様子もありましたが、ジェンカを活動に加えてからは楽しそうにしていました。

4. 担当者の役割

担当者の役割については、今年度の活動を通じて行ってきたことを、担当者間で話し合い確認しました。

- ① 活動のサポートをする
 - ② 青年の要望を引出し、彼らの気持ちから逸脱しないよう気をつけながら活動
 - ③ 写真等で視覚的にわかりやすい提案
 - ④ 生活の幅を広げられるような関わりを持つ
- といったことが必要と思いますが、過去の青年学級では生活や職場での悩みごとの共有の場なので生活に踏み込む話題が多かったですが、今は他に話す場所があるのに青年学級でそれをやるのか？青年が自発的に話すことを聴くのは問題がないと思いますが、昨今の情勢から担当者が青年の生活や家庭環境についてどこまで踏み込むのか担当者の役割として疑問に感じているところです。

5. 今後の課題と展望

今年度の課題と展望を考えると、それぞれの課題は活動の中で取り組んできて、課題によって程度の差があるものの、ある程度実現されたものと思われまるとともに、今後も引き継がれていくべきものと思います。課題として次の点が挙げられます。

- ① ひとりひとりが主役になれるような場面を作る
- ② 言葉が出にくい青年たちに声掛けをしていき、言葉を出す機会を増やす。
- ③ ひとりひとりの想いから湧き上がるリズムや歌や言葉を集団としての活動に取り入れていく

- ④ 1年を通して取り組む素材としてフラダンス等を取り入れ、それとは別に柔軟に青年たちの意思を汲み取る素材や季節に合った素材を取り入れながら2本立てで活動を行うことにより、活動に幅を持たせる
- ⑤ オリジナルソング作りに積極的に取り組む

土曜学級 トーマス・レインボー・スポーツ班

活動の流れ

6月10日	開級式、自己紹介。様々なスポーツや電車に乗りたい等外出の希望も出された。
6月24日	班名・係・班長決め。班名はなぜか昨年とほぼ同じとなる。 普通の卓球ではボールに当たらないため、ゴロ卓球にする。
7月8日	【外出①】芹が谷公園散策と班の学級生二人が勤務する喫茶けやきで昼食。20周年の話し合いでは、絵と作文を発表することに決まる。
7月22日	朝のつどいで「ぞうさんのあくび」体操。合宿の行きたい場所は水族館、遊園地、動物園。夜はキャンプファイヤー等出されたが、経験したことばかり。
9月9日	夏休みの思い出。合宿の内容について具体的な相談。 次回の調理のメニュー決め。【外出②】エイサーの見学。
9月23日	調理。包丁使いの慣れている人、声かけしても動かない人等、調理場面で家庭内での様子がうかがわれた。合宿の1日目、横浜散策の強行ルート決定。
10月14日	合宿1日目：午前中、電車で横浜見物。雨模様のため食事の場所等急な変更にも
10月15日	合宿2日目：朝食は全員の協力で作る。体育館でペットボトルボーリングゲーム。 音楽班のリンボーダンスに飛び入りして楽しむ。全員無事に帰る。
10月28日	亡くなった学級生のしのぶ会。合宿の思い起こしで盛り上がる。 【外出③】近くで行われていたコンサート。
11月11日	朝のつどいで前回のコンサートの歌を披露。はじめてボッチャにチャレンジしたが力の入れ具合が難しい様子。【外出④】農業祭で野菜でできた船を見る。
11月25日	クリスマス会についての話し合いでは、過去の経験から要望がたくさん出たがケーキ作りに決定。ボッチャの対抗戦ができるようになる。
12月9日	ツリーの作成に全員が絵や切り絵等で関わる。完成したツリー帰りのつどいで発表。全員、昼の唐揚げ、手作りのXmas ケーキを大量に食べる。
1月13日	お正月の遊びは「福笑い」を楽しむ。鼻の位置や全体のバランスなど難しそうであった。【外出⑤】近所の神社に初詣。見学の高校生にベッタリの青年も。
1月27日	朝のつどい当番では「福笑い」をみんなで作る。成果発表会の発表順の話し合い。 【外出⑥】スプレーアートのパフォーマンス見学。
2月10日	発表会のメクリは全員で作成。パンフレットは各自が自筆でサイン。発表会の練習の中で発せられる言葉を拾い集めて台本が完成。
3月3日	昼食は崎陽軒の「幕ノ内弁当」いつものお弁当より少し豪華。成果発表会終了後の反省会では、「緊張しなかった」「うまくできた」と青年から感想が出る。

トーマス・レインボー・スポーツ班 2017.6～2018.3



1. 集団の構成、特徴

開級前より大きな集団になることが予想されていたとおり、男性9名、女性4名、計13名の構成となりました。初回の自己紹介では、昨年の班活動、職場、今年やりたいこと等を発表しましたが、援助なしで語れる青年は少ないため意見や要望などを正確に読み取る技術が必要とされました。

基本的には“スポーツ好き”身体を動かしたいと考えて班を選んだ青年がほとんどですが、家族からの要望で参加した青年も数名いました。

ねらいにもあるように、社会体験を拡げる意味から外出を多く取り入れ、3回に1回程度行いました。当初、集団から抜け出しそうな青年をマークしていましたが、外出の回数を重ねるごとに集団を逸脱するような行動がないことがわかってきたものの、もしものために最後までマンツーマンの対応を行いました。

2. 活動のねらい

- 新たなスポーツを経験することで生活の幅を拡げる
- イベント等に参加したり見学したりして社会体験を拡げる
- 集団を意識した活動を取り入れ、お互いの関係を強めていく

3. 活動の評価

〈素材を基に活動の評価と担当者の役割〉

① 卓球

開級式で班紹介の素材として卓球を取り入れたことから、担当者側から提案し活動の最初に行いました。卓球台がないため、会議室の机を6台並べて台とし、最初はバウンドさせて打ち合う普通の卓球でしたが、なかなかラリーに至らなかった

ため、エアホッケーのように転がしてそれをラケットで打つことにしたところ、5回、6回と打ち合うことができ、青年たちも関心を持つようになりました。その後、台から外に出ないようにとダンボールでガードを作ったことからラリーがさらに続くようになり、一層楽しむことができました。

卓球は、空中のボールを打って「相手に返す」競技ですが、技術的に空中のボールを打つことは難しいため、転がすことで打ちやすくし、さらにガードをつけることでラリーが続き青年の笑顔が引き出せたと考えられます。つまり、既存のルールを自分たちなりに変更したことで、楽しみにつながった活動だと言えるでしょう。

② ペットボトルボーリング

ボーリングの得意な Et さんからの要望で活動に取り入れしました。ペットボトルボーリングは過去にも経験していたこともあり、また、技術的にも投げるだけのため、楽しみにしている青年も多くいました。合宿のとき、強くボールを投げられない青年のためにペットボトルを逆さにして並べたところ、普通のボーリングのようなピンアクションをしたので、それ以降キャップ側を下にして並べることにしました。

競技については簡単に楽しめるものです。本来、ピンを並べるといった「裏方作業」も青年がかかわるべきですが、ペットボトルの微妙なバランスを取ることは難しく、時間短縮も含めて担当者が行いました。

体力差や集中力の差で、ノリの良い青年と飽きてしまう青年の姿が見られたこともあり、ルールや楽しみ方を見直す必要があるかもしれません。また、卓球の時のガード作成のように、ボーリン

グのピンとなるペットボトルへの色付けや、錘となる水の量と倒れ方の違いといった実験的な要素のある「物を作る楽しみの活動」に関しては、今年度の活動では至りませんでした。

③ 調理

多くの青年から要望があり活動に取り入れました。材料を切ったり煮たりすることで、元の姿から変化していくプロセスや、炒めた時の香りの変化等、視覚的にも感覚でも楽しむことができる素材と考えられます。

- ・9/23 カレーもしくはミートスパゲティ・サラダ・チョコレートパフェ（以下「チョコパ」）
- ・10/15（合宿二日目）焼きそば
- ・12/9 クリスマスケーキ

を作りました。メニューについては喫茶けやきに勤めるThさんとKmさんがリードしていましたが、食材の選択や分量については担当者主導になっていました。

また、9/23のチョコパづくりのため、前の活動で喫茶けやきに昼食を食べに行き、チョコパのイメージづくりをしようとしたのですが、実際には各々好きなものを注文したため、残念ながらイメージづくりにはつながりませんでした。その後の調理のメニューも「自分の知っているもの」「食べたことのあるもの」ばかりで、「食べたことのないものを作る」といったレベルの活動はできず、反省点として、「味や香りを想像できるような活動」も必要ではないかということがあげられました。

昼食の時、Fkさん、Itさん、Knさんは要領よくお茶を入れますが、じっと座っているEtさん、Smさん、おかわりが欲しくなると「お茶！」と叫ぶIrさん、Wyさん。成果発表会の打ち上げで、Fkさんのお母さまから「家事をやってくれるので助かる」との発言があったように、昼食時や調理を通じて家庭内での位置づけや家事への関りなどが手に取るようにわかりました。こうした姿を確認することで、合宿や外出時の個別の声掛けの違いにつながっていきました。

調理の時の「おかわり」については、Itさんを先頭に3回、4回とする青年もいる反面、食事制限をしているKnさんやKmさん等への配慮が必要でした。しかし、美味しそうに食べる姿を見てい

ると、服薬管理と同じレベルで「絶対的ダメ」といった対応をすることは難しく、おかわりを止めることはできませんでした。これは、「学級日くらい良いのでは・・・」といった担当者側の悪意味での配慮だとしたら、担当者個人によって対応の差が出てしまい、青年たちも担当者によっていうことが異なることに戸惑う結果となることから、統一した対応を考える必要があるでしょう。

また、調理はどの班でも取り入れられているので、大量にカレーを作って昼食に配るとか、デザート系を全員分作って配るといった活動ができる可能性もあります。実現にむけ検討しても良いかもしれないでしょう。



例) 食を中心として健康や調理を楽しむ『健康調理班』

④ 外出

室内活動より屋外の活動を好む青年が多いことから、外出の機会を多くしました。Irさんをはじめ、飛び出しや多動、新人のWyさんのゆっくりマイペースな動き等に不安はありましたが、試しに近場の芹が谷公園まで行ってみると、思ったほどの困難さはなく、青年各々が集団の動きを意識しながら動く姿が見られました。その後のエイサーの見学では、街中の人混みをかき分けるように進み、問題なく往復できたものの、人数の確認など全体ですることは難しいため、担当者が分担して青年の数を把握することが必要であることがわかりました。こうした動きを基に、合宿一日目に昨年「日帰りハイキング」とほぼ同じコースを回りましたが、電車移動も難なくこなし、横浜みなどみらい近辺を散策した後、無事大池沢青少年センターに着くことができました。これは、一つには昨年経験したルートに近かったため、青年たちが動きのイメージを作りやすかったこと、班活動で

の経験から移動時間等が読めたことなどがあげられます。また、食事の場所が予定と違ってしたことに対しても、それまでも何回か経験した、スポーツ班得意の「現場合わせ」に青年たちが対応できたからだと考えられます。やはり、活動の積み重ねによる経験拡大が大きいと言えるでしょう。



⑤ 話し合い

当初、「やりたいこと」「班名決め」等、意見が多く出されたことから、活動への見通しや要望がきちんと出せる集団と考えられました。しかし、昨年度とほぼ同じ班名となったことに代表されるように、青年たちの意見は、多いとは言えない経験の中から選択されたものであって、狭い経験域から脱出できないでいる現実があることが明らかになりました。

また、話し合いは、言葉で表現できる青年を中心に進められることがほとんどで、言葉の出ない青年は、気が付くと居眠りをしていたり、まったく関心を示さなかったりと、話し合いに参加できないこともありました。こうしたことから、意見

を集める時には、言葉で表現しにくい青年の表情やしぐさ等にも注意を払い、全員が参加する話し合いとなるようにしたことで、トーマス・レインボー・スポーツ班の話し合いの形が作られていきました。

4. 今後の展望

話し合いで明らかになった「経験から脱出できない」といったことは、合宿時の「横浜みなとみらい散策」の発案にも如実に表れたように、昨年までの経験をつなぎ合わせながら今年の活動が構成されていったと考えられます。こうした経験優先の考えを「否」ととらえるのではなく、考え方のベースとして捉え、担当者がそれに味付けをすることも必要なことで、「青年の意見＝活動」とストレートに受け入れることは、むしろ担当者側の「手抜き」「力不足」として位置付けることも必要なことかもしれません。開始当初と比較して、障がい者に対する制度の整備、社会的な位置づけ、生活環境等大きく変化している今、40年以上前に掲げた青年学級の目的である「生きる力・働く力」の獲得、活動の柱となっている「文化の創造」「生活づくり」について再度検討して現代なりの解釈をしないといけない時期になっているのではないのでしょうか。

多くの学習と議論を重ね、今、青年たちが求めている学習、必要とする支援が何かということを確認にし、今後の活動を進めていきたいと思えます。

土曜学級合宿

2017.10.14～15



どようがっさのあちさわがっしょく 土曜学級大地沢合宿

2017年10月14日(土)～15日(日)

日 程 (変更しました)

[14日]

9:30 集合 生涯学習センター6階 第一・二会議室

10:15 JR町田駅 発

11:00 JR桜木町駅 着 徒歩でジャイカへ行き 昼食

12:42 船い脱号で山下公園へ

13:35 シーバス 山下公園 発

14:00 シーバス 羽根とみらい 着

14:41 JR桜木町駅 発

15:26 JR相原駅 着

15:40 大地沢のバスに乗 車し大地沢へ

[15日]

午前中は大地沢青少年センターの体育館でスポーツ
昼食は船さどぼ

14:00 貸し切りバスで生涯学習センターへ

土曜学級 一刀両断班

活動の流れ

6月10日	開級式、自己紹介
6月24日	話し合い（班名、係り）。名札作り。和光大学の先生と学生さんが参加。
7月8日	和光大学「第15回アジア・フェスタ」
7月22日	東急ツインズ見学。話し合い
9月9日	調理（冷やしラーメン）。話し合い（大地沢合宿に向けて）
9月23日	わたぼうし音楽祭の動画を視聴。大地沢合宿のしおり作成、歌の練習。
10月14日	合宿1日目：相模原市博物館、プラネタリウム。
10月15日	合宿2日目：散歩、バーベキュー。
10月28日	合宿の振り返り。109見学。
11月11日	こころみ農園「しいたけ祭り」見学。
11月25日	成果発表会に向けての話し合い。芹ヶ谷公園散歩、喫茶けやきで休憩。
12月9日	シナリオ読み合わせ。弁当を買いに外出。シバヒロでゲートボール体験。
1月13日	散歩（さるびあ図書館）。台本読み合わせ。自立についての話し合い。
1月27日	台本読み合わせ。小道具作り。ぽっぽ町田で大道芸の見物。
2月10日	成果発表会の「めぐり」「プログラム」作成。弁当買い出し。 台本読み合わせ、立ち稽古。
3月3日	成果発表会

1. 集団の構成、特徴

男性9人（のちに8人）と女性1人の小さな集団。このうち男性4人が前年度のものづくり班から、男性3人が前年度のイベント班からの参加でした。

女性は前年度音楽班のIrさんひとり。「イラストと工作と手芸」から本人の希望で2回目の活動のときに異動してきました。

最年長（61歳）のIrさんのほかは、30代中心の比較的若い青年が集まりました。

Ftさんは9月10日に逝去。享年34歳。多くの青年がショックを受けました。



写真：班の話し合い

2. 活動のねらい

集団での活動を通じて様々な生活課題を取り上げ「自立」を考え深めてゆくことを班の目標としました。この場合の「自立」とは、何でも人の手を借りずに自分で行うということではなく、本人が備えている力とともに周囲の人の支援を適切に利用しながら、その人らしく生活を豊かにしていくことを意味することや、次の点が確認されました。

- ・言語によるコミュニケーションにたよらず、表情や仕草を読み取り、その人の感じていること、言いたいことを大事にしていく。
- ・ボードを介したコミュニケーションを行うときは、ヘルパーさんやお母さんとの協力を得られる活動を工夫していく。
- ・抽象的な「生活」をできるだけ具体的な場面に引きつけ（例：公共交通機関を利用するときに財布からお金を出し自動販売機で購入するな

ど）、適切な支援を提供しつつ社会適応を高める場面を作る。その中で障害のある人が社会に出るときに障壁となることから（例：車いすですでパートにいくと、エレベーターに乗るときに待ち時間ばかり多くて移動が困難）を見だし、担当者も自らの障害観や社会観を深めていく。学級での活動やその中で感じたことを劇として表現する。

以上を活動のねらいとしましたが、月に2回のみ活動でどのように「自立」に取り組むか、またこれまでの40年間の取組の中で「生きる力・働く力」はどのように培われたか、そもそも「生きる力・働く力」とは何かを深めていく必要があると考えられます。

3. 活動の評価

(1) 班の立ち上げ

班に参加する学級生を募集する段階では、担当者による次のような洋服店での店員との会話を想定した寸劇を通じて、活動のコンセプトを紹介しようとしていました。

A : 暑くなったなあ。Tシャツください。

B : サイズはどうしますか。LとMとSがありますが。

A : LとMとS。それって何ですか。私に合うのが欲しいんですが。

B : では試着してみましよう。お客様はLでもまだ小さいですね。

A : いくらですか。

B : 1,480円です。

A : これで足りませんか？(といて1000円札を出す。)

B : お客様、ふざけないでください。

A : ではこれ。(1000円札を1枚と500円玉を出す。)

B : お釣りで。

A : このお釣りで喫茶店に行ってアイスコーヒーを飲もうっと。

この寸劇では、日常生活の中で青年たちにとって困難がありそうな場面を想定して、そうした生活課題を班の活動として取り上げていくことを紹介しましたが、見ている青年たちにその

切実さが伝わっているか、その課題にどのように取り組むかの具体的なイメージが伝わっているかが課題として担当者間で認識されました。

(2) 班名や係分担の話し合い、名札づくり

和光大学の教員と学生が参加し、名札の挿絵などを手伝ってくれました。こうした地元の教育機関との交流は互いに大きな意味があると考えられます。このとき出た話題から、次回の学級で和光大学の「第15回アジア・フェスタ」を見学に行くことになりました。

班名は、話し合いで提案された「一刀両断」と、「お母さんから自立したい」というある青年の思いを合体させて「お母さんを一刀両断」と決まりましたが、穏当な表現ではないことから、その次回の活動で担当者から見直しを提案し、最終的に「一刀両断班」となりました。

係の分担は、お弁当を運ぶ、テーブルの上を拭くなどを話し合いで決めましたが、青年・担当者ともにそれを正確に覚えていないことから、次回以降の活動で活用できていませんでした。せっかく話し合いで決めたことであり、係分担は自治的な活動の基礎であることを考えると、その都度ホワイトボードに書き出すなどして思い起こしをし、活動に取り入れていく必要があると考えられます。

(3) 和光大学「第15回アジア・フェスタ」

上記の和光大学教員の提案を受けて、班活動として和光大学を訪問。公民館を出発して社会福祉法人コメットの20周年記念イベントをまず見学しました。その後、小田急線と通学バスを利用して現地着。「アジア・フェスタ」を見学するとともに、学内を散策し階段教室に入って黒板に字を書いてみるなど、普段は得がたい体験でした。

(4) 東急ツインズ見学と大地沢合宿に向けての話し合い

生活課題の一環としてデパートの衣服や雑貨、家具などの売り場を見学。それぞれの家庭で使っているものを見直したり、より快適に暮らしたりするための参考となることを期待しました。

デパート内の移動にはもっぱらエレベーターを

用いましたが、その際、他の一般客がエレベーター内にいることから、車いすの青年がエレベーターに乗れるまでに相当の時間を要したこと、そのことについて一般客が関心なさそうであることが印象的でした。一般客は自分が降りて車いすの利用者を優先させる義務はないとしても、結果的に車いすの利用者は外出しづらい社会環境となっていることが青年と担当者で実感されました。



写真：エレベーター内の掲示

(5) 調理（冷やしラーメン）

青年たちの要望を受けて「冷やしラーメン」の調理。これは、つけ麺でもなく、冷やし中華でもないという青年たちのイメージです。そのコンセプトが青年たちに共有され、調理の手順やできあがりのイメージについて見通しが持てたかどうか反省の余地があります。

全員で買い出しに行き、話し合いをしながら必要な食材を購入しました。担当者としては、おいしくて栄養のバランスがあるものを選び、予算の範囲内で適正な量を購入することを考えますが、このことはややもすると担当者主導になりがちで、青年たちの関心を引き出すことは難しいようでした。

液体スープを湯で希釈して氷で冷やしましたが、その過程で油が固体化してしまいました。

(6) 大地沢合宿に向けて話し合い、しおり作り

しおりの原案を担当者が作成し、それを青年たちが清書したり、挿絵を描いたりするなどをして作成しました。決められたスペースに必要な事項を漏れなく記載する必要がありますが、これも担当

者主導になりがちです。これを青年と担当者の良き協力関係と評価するのか、そもそも青年たちが参加しづらい活動素材なのかは一考の余地あるといえそうです。

青年たちのこれまでの人生の限られた生活経験を担当者が補い、広げていく臨機応変のサポートが大切であることが痛感されます。

また、学級生のひとりが文部科学大臣賞を受賞したわたぼうし音楽祭の動画を視聴しました。班活動のときには担当者が持ち込んだパソコンの画面で、帰りのつどいにはプロジェクターで投影して学級全体で見ました。

(7) 大地沢合宿

大地沢合宿の1日目、当初は相模川ふれあい科学館に行く予定にしていたのですが、天気予報が雨だったことから、出発日の前々日（木曜日の担当者会議）に、屋内で食事が出来る相模原市立博物館に変更しました。最初から雨天を想定した計画も必要と考えられます。

プラネタリウムを見学し、そこで食事にしました。下見の際に、昼食用のミキサー食を温めるための電子レンジの借用を訪問先に相談しましたが、応じてもらえませんでした。こうした個別の事情をどこまで公共施設に斟酌してもらうのが社会的に妥当なのか課題として残ります。

欠席は4人。それぞれのご家庭の事情などによりありますが、青年たちのニーズが多様化し障がい福祉サービスも整備されてきたことで、大地沢に泊まるということが以前ほど楽しい企画とは受け止められていない可能性があります。またマンネリ化している面がないか、担当者は意を払う必要があります。

身体介護が必要な青年の入浴は、そのことに担当者自身が慣れていないこともあって、予想外に時間を要しました。班ごとの入浴の順番や食事の時間との兼ね合いが次年度の課題として共有されました。

(8) 外出と成果発表会に向けての話し合い

合宿以降は、こころみ農園のしいたけ祭りの見学、芹ヶ谷公園の喫茶けやき、シバヒロでゲート

ボール体験、さるびあ図書館見学、ぼっぼ町田で大道芸見学、ダイエーで昼食弁当の買い物など外出を随時取り入れながら、話し合いの時間を増やしました。



写真：喫茶けやき



写真：さるびあ図書館



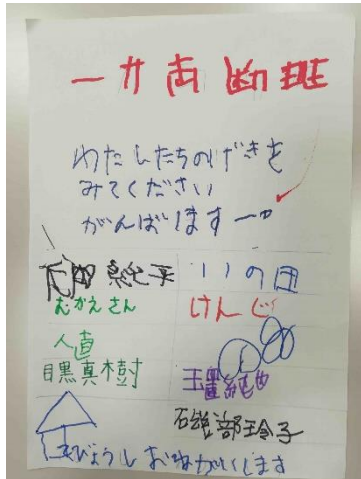
写真：こころみ農園（しいたけ祭り）

成果発表会に向けては、ゴミの分別収集やお小遣いの管理など、生活に密着した課題を抽出し、話し合いのテーマを設定しました。そこで出た青年たちの声を逐語的に収集し、シナリオの素材と

しました。そのシナリオの読み合わせをしながら、読みにくいところに手を加える作業を繰り返しながら、劇づくりを進めていきました。

(9) 成果発表会

発表会当日は、台本を人数分コピーし、各自が読む部分をラインマーカーでわかりやすくして、それを手に持って読み上げながら上演しました。小道具として、班活動で作製した分別収集用のゴミ箱やお金を使いました。また、台詞をパワーポイントで舞台ホリゾントに投影し、観客からも聴覚と視覚で劇の内容が分かるよう工夫しました。



写真：手分けして作成したプログラム

4. 担当者の役割

青年たちと一定年数の交流がある担当者が配置されており、日常的な声かけなどはスムーズに行うことができました。

また、身体介護が必要な青年は市障がい福祉課の施策による移動支援のサービス（月に18時間ガイドヘルパーさんをお願いできる）を利用しました。

他の学級でも身体介護を必要としている青年たちとどのように活動を組み立てていくかが課題となっていますが、ご家族の理解が得られるのならば、こうした公的なサービスを併用して青年学級に参加することもひとつの方向性と考えられます。青年学級を卒業した青年たちが中心となって発足した本人活動の場であるとびたつ会では、ガイドヘルパーとともに活動に参加することが普通になっていることも参考になります。

青年たちにどのような生活課題があるのか、平日にどのようなサービスを利用しているのか、それをどのように学級活動に取り込んでいくのが

把握しきれていないことも多く課題として遺棄されました。たとえばグループホームに入居している青年が増えていることを踏まえ、それぞれどのように生活しているかできるだけ本人から話を聞くようにしていますが、学級活動の場だけでは限界もあります。

学級全体にいえることですが、活動の企画がかなりの程度、定式化されていることで、担当者が青年たちと向き合って何をするかで悩むことは少なかったといえます。例えば隔年で取り組むことが慣例となっている合宿は大地沢に行く、また例えば成果発表会に向けての準備として「めぐり」と「プログラム」を各班で作成するなどの取組が定着しています。

このことのプラス面をみれば、長年の伝統に加えて担当者のチームワークや公民館での様々な配慮があいまって、見通しが持てる班活動になっていると評価できますし、やや心配な面を見れば、青年たちの自由な発想や偶発的な展開の余地が少なくなっているのではないかと考えられます。

要はバランスであり、いまは良い状態だと評価できますが、ただし担当者の意識のありようとしては、マンネリ化していないかという問題意識を持ち続ける必要があると考えられます。

5. 集団活動の素材としての生活

生活とは、ひと言でいえば衣食住のことですが、それに加えて、健康、仕事、公共交通機関の利用、調理や掃除洗濯などの家事、余暇、仲間や家族との人間関係などあらゆるものを“生活”と捉えることができます。学級での活動の幅も広がりますが、それだけにどこに焦点を当てるべきか、その方向性を模索しながら1年が過ぎました。

青年たちの主体的な参加意欲を引き出すことももちろん大事ですが、毎回青年たちのリクエストを取り入れて企画するだけでなく、「自立と生活と劇」という軸に沿って一貫性が求められるのだろうと考えられます。今年度は最終的に劇にまとめて成果発表会で演ずることができました。

劇は「自立」という抽象度の高いテーマとなったことから、身体の動きはほとんどなく、青年たちの会話中心になりました。次年度は、生活の場面ごとに（例えば買い物をする、みんなで食事す

る) 短めのシナリオを設定して練習することでリアリティが増すことも考えられます。場面ごとに必要な会話や振る舞いなどの社会生活のスキルを身につけることも同時に視野に入れる必要があります。

自立についても考え、深めていくことが求められます。同時に、障がいのある人の暮らしにくさが、本人側の能力の問題というよりも社会の側にある障壁に起因することも少なくないことにも気づかされました。特にデパート見学で痛感されたエレベーターの利用しづらさは、商業施設の物理的な構造、人びとの意識、社会全体の慣行が問題であるようにも思われます。青年たちはこのことをどのように受け止めているのか、また担当者はどのように支援していけばいいのか、引き続き検討していきます。

6. 今後の課題と展望

成果発表会の準備は手探りの連続であり、確かな見通しを持って取り組んだとはいえませんが、青年たちと担当者の共同作業になっていたということは評価ができます。

前述のとおり、シナリオは青年たちのナマの言葉が出発点にはなっていますが、担当者が側面から補い、練習しながら改訂を繰り返していきました。その過程で、どこまでが青年たちの本当の言葉で、どこからが脚色なのか区別しにくくなります。しかし、そうしたことも含めて、青年たちとの共同作業であり、担当者も含めた学級活動だといふことができます。

土曜学級 トレンディものづくり班

活動の流れ

6月10日	開級式、自己紹介
6月24日	係決め、班名決め、寄木
7月8日	コメント会館 20周年記念フェア訪問 短冊へ願いを込める
7月22日	そうめんづくり、合宿準備 土曜学級 20周年行事について話し合い
9月9日	合宿準備、フェスタまちだ
9月23日	合宿準備
10月14日	合宿1日目：多摩動物公園
10月15日	合宿2日目：木工、燻製
10月28日	亡くなった青年を偲ぶ会、合宿を振り返る
11月11日	シャロームの家 見学中止 秋を探しに芹ヶ谷公園と喫茶けやきへ
11月25日	クリスマス会の内容検討 木工 コマづくりなど
12月9日	食材買い物。パンケーキづくり。プレゼント交換
1月13日	年末年始の報告 浄運寺お参り 成果発表会に向けて話し合い 2018年度の秋行事について
1月27日	成果発表会準備
2月10日	成果発表会準備
3月3日	成果発表会準備 成果発表会 一年間振り返り

印象に残った場面

朝から外に出たくないほど暑い日です。

今日のお昼は予定通り「冷やしそうめん」に挑戦ですね。

材料は、みんなで家から持ち寄りました。

15人の活動ですが、集まったそうめん（乾麺）は40把（わ）。お盆に乗りません。

こんなに作ったら残っちゃうんじゃない？

すると、男性陣から「大丈夫だよ、俺お腹減ってるしお代わりするよ。だから残らないよ」

女性陣は「え〜？？？」「こんなだよ（手で山盛りの動作）」と言いながら、食べられるわけないとクスクスと笑っています。

調理室にある一番大きな鍋を使っても、鍋一つには入りきらなかったので、大鍋を二つ使ってそうめんを茹でました。

ヨイショっと、茹で上がったそうめんをザルに移しました。

40把の茹で上がったそうめんは、すごい量でした。

お店で頼むそうめん二人前くらいが、全員に配られました。

班長の掛け声で「いただきまーす」

そうめんの上に乗せる具も色々です。

実は今回の具、みんながいつも家で食べている味を披露することにしていました。

スライスしたハムとたまご焼きを乗せている人、キュウリを乗せている人、シーチキンを乗せる人などなど、いろいろな食べ方があるんですね。

暑い夏の日のお昼に、山盛りに作られたそうめんも、結局は完食でした。

1. 班の構成

青年 女性2名 男性8名

担当者 女性2名 男性3名

2. 集団の特徴

図工が好きな青年、外出をしたい青年、調理をしたい青年が集まりました。

班長を中心に話し合いが進みましたが、言葉でのコミュニケーションが難しい青年はホワイトボードに書かれたことを指さしで確認するなど、担当者のサポートで話し合いに参加していました。

3. 活動のねらい

- ・創作活動を通して、個々の表現活動を行う。
- ・活動は、お互いに意見を出し合い、異なる意見でも話し合いを通じて互いの合意を得て行う。

4. 活動の評価

（1）集団づくり

青年同士の関わり方には、どのように変化があったのか

開級式後の活動では、ある青年はトレンディーものづくり班へ参加し、係決めの話し合いでは班長へ立候補し班員の賛同を得ていましたが、活動が進行していく中でトーマスレインボースポーツ班へ移籍しました。この青年の行動に対して、班員からは無責任であるなど指摘が出てきました。この青年に対しては、何度も班を変えることがないように、しばらくトーマスレインボースポーツ班に参加して良く考えてから班を決めるように班員から念を押されてスポーツ班の活動に入りました。その後、継続してスポーツ班での活動が決まり、トレンディーものづくり班のメンバーが確定しました。

（2）生活づくり

生活と班活動がどのように結びついたか

①父母交流会と班長

父母交流会では、5名のお母さん方が参加していました。

家族との話し合いで印象的なのは、学級活動でできないことが多いのではないのか？周りに迷惑をかけていないのか、そういった不安の声でした。

大地沢合宿の準備では、一日目の多摩動物公園への外出から大地沢青少年センターへの行程を班長が調べることになりました。

その後日談ですが、母親からの話によると、これまでいろいろな活動や作業には参加してきたそうですが、責任をもって役割を担ったことはなかったそうです。

合宿一日目の行程を調べることを任された班長は、そのことがとても嬉しかったようで、合宿前の活動日には、生涯学習センターから多摩動物公園、そして大地沢青少年センターまでの行程を時間と料金をつけて班に報告していました。

②班の名前

開級式後の話し合いでは、次回の活動で班の名前を決めることにしていました。

そして迎えた二回目の活動では、二人の青年が沢山のアイデア発表していました。特に一方の青年は考えた班名をノートに書き留め、それを話し合いの場で披露していました。提案された班名の数から、かなりの時間をかけて考えてきたと思います。

③コンビニでプリント

中村さんから提案された今年度の活動に「写真を撮って、コンビニでプリントする」という活動があります。この時の様子を父母交流会に参加していた、ご家族へ報告しました。ご家族の話によると、コンビニの複合機を使ってカメラの写真をプリントできることは説明したことがないそうです。中村さんはコンビニに入った際、複合機を使って写真をプリントしている人の振る舞いを見て、その仕組みを理解し、自分でもできるようになったようです。

今回の中村さんの提案には、「僕が体験した面白さを青年学級の仲間にも教えたい、皆でやりましょうよ」というメッセージが込められていたと思います。

④勤め先

11月の活動では、班長の提案で「シャロームの家」へ見学に行く計画を立てました。

「シャロームの家」とは、パンや焼き菓子を作っているところで、班長が働く作業所でもあります。計画の元になったのは、班長が「皆さん、是非僕の職場を見てください」という提案です。「シャロームの家」訪問が決まると、活動予定日前からシャロームの職員と連絡を取りながら班の訪問準備を進め、職場に班の皆が来ることをとても楽しみにしていました。

シャロームの家を見学する話題から「Khさんが勤めるユニクロにも行きたいね」という話題に展開しました。しかし、当のKhさんは皆の提案を歓迎するのではなく、忙しいから来ないで欲しい旨の意見でした。Khさんも仕事のこと、職場のことを楽しそうに話す方です。みんなの見学を敬遠した理由を尋ねると、ユニクロで働くみんなは忙しくしている。そこへ、私たちが見学に行けば、

店長をはじめ、みんなが気を遣ってくれることが予想できる。だから、忙しいみんなに負担をかけたくない。ということでした。Khさんが職場を大切にしている思いが班のみんなにも伝わりました。

(3) 文化の創造

どのような素材を活動の中へ取り入れたか

①初めての寄木作り

担当者の趣味で作った寄木を開級式で紹介しました。

開級式の後、班のメンバーに寄木作りの経験を訪ねると誰も経験はありませんでした。

二回目の活動日、太さ5ミリほどの細い角材を使ってコースターを作ってみました。

作り方は、1~3センチの長さで不規則に切断した角材をパズルのように並べ、角材同士を木工ボンドでつなげていきます、そして10センチ四方ほどの四角いコースターができました。

木材の色の濃淡差、木目の流れ、小さな角材が一枚の個性豊かなコースターになっていく様子は、これまでにない創作でした。細い木の棒が、一枚の板になっていく様子は、皆が興味を持って取り組むことができました。

②ステップアップ

秋の大地沢合宿では、現地の丸太を使ってもう少し大きな木工に取り組みました。

電動工具を持ち込み、丸太の切断、研磨、穴あけをみんなで行って体験してみました。

この時は、直径5センチ程の丸太を使って挑戦しましたが、丸太をノコギリで切った木片を見た青年から、それに穴をあけて紐を通せばペンダントになりますねと提案があり、皆も賛同したのでペンダント作りに挑戦しました。

③燻製作り

ペンダントづくりと並行して、近くの石窯でのピザ作りを計画しましたが、市民向け行事の都合でピザ窯は使えず、代わりに燻製箱を借りて燻製作りに取り組みました。

燻製箱の中では、さくらチップをいぶしてチーズの燻製を作りました。出来上がった燻製チーズを青年が取り出し、あたり一面に燻製の香りが立ち込めました。この日の昼食でのデザートとして、クラッカーに燻製チーズ、そしてトマトやシーチキンを載せて楽しみました。

5. 課題と今後の展望

活動を計画するとき、活動のテーマや素材が重要ですが、それは青年からの要求の他にも、担当者からの提案提供も必要だと私たちは考えています。

そして各回の学級日当日の目標の捉え方や認識が担当者集団の中であってないと、青年の前に出すぎる場面があったり、その逆も発生してしまいます。

それは、待つ・助言する・きっかけを作る・発言や動作のサポートなどにも関係してきます。

メンバーのある青年と担当者とのやり取りの中に、支援のあり方について担当者の役割を考えさせられる視点があったので記します。

その青年は次のことを話していました「何でもできると思われて少ししか話をしてくれないことが寂しい」「もっと話をしたい」。

班を構成する青年の個性は様々です。活動中、私たちの青年に対する支援も様々になります。それは支援の度合い、取り分け言葉によるコミュニケーションの量という形が一番顕著に現れています。

例えば、今から班のみんなで何かをしようとするとき、『Aさんには細かく説明や支援が必要ですが、Bさんには少ない説明だけで活動に入れる。』そのような意識で支援の程度を判断することがあります。

しかし、担当者の考える必要な支援と青年が必要としている支援にはギャップがあることを、この青年の発言で改めて気づかされました。

多くの担当者がこの青年学級に参加したころは、すべてのメンバーに対して同じ度合いの関わり方をしていたと思いますが、活動を重ねるうちに段々とAさんとBさんのように、青年の個性によって支援の配分をするようになってきていると思います。

今回はこの青年から、直接思いを聞くことができたので、支援を受ける側の寂しさや辛さに気づくことができましたが、この青年と同じ思いの人は他にもいるだろうと思われるので、担当者として注意して活動を支えていきたいと思っています。

第2章 自治運営

1 班長会

(1) 班長会とは

班の代表者である班長、副班長が各班の意見をもち寄って、学級全体に関わることについて話し合う場です。20代から50代までの幅広い年齢層の青年が集まりました。今年度はイベント企画を担当する班が作られなかったため、合宿中の全体会で行うゲーム企画なども班長会で企画しました。

(2) 討議内容

- 6月24日 班名と班長の紹介、今年度も朝と帰りのつどいは各班で当番制にすることを決める
- 7月8日 つどいの進行の仕方、7階ホールの耐震工事によるつどい開催場所の変更について、20周年記念式典の歌決め
- 7月22日 合宿での各班の行程の報告、全体交流会の内容について、合宿の下見を中止して20周年記念式典の練習日にするについて
- 9月9日 合宿の全体交流会で各班対抗のゲーム大会を開催することの決定、合宿2日目の朝食について
- 9月23日 亡くなった青年をしのぶ会の開催について、全体交流会の集合時間などのスケジュールについて
- 10月15日 しのぶ会の開催日、時間について
- 10月28日 ホール工事による冬の全体イベントの中止について、つどいの集合時間や歌う歌について
- 11月11日 成果発表会までにやることと、作成するもの確認
- 11月25日 来年度の秋のイベントについて、開催の可否、何を行うかについて
- 12月9日 成果発表会の招待状の内容について
- 1月13日 来年度の秋のイベント開催決定と内容について、招待状の作成
- 1月27日 成果発表会で行う班の発表の順番決め、他にやること、つくること

の確認

- 2月10日 成果発表会の司会などの役割と歌う歌を決める
- 3月3日 成果発表会の反省と1年間の振り返り

(3) 取り組みと評価・今後の展望

①大地沢合宿

昨年、一昨年とイベント企画を担当する班があったので、班長会ではイベント内容を企画することから遠ざかっていました。合宿の目玉である1日目夜の全体交流会を開催するにあたって、久しぶりに班長会で一からイベントを企画しました。

何回かの話し合いから、全体交流会では班対抗のゲーム大会を行うことに決まりました。種目やルールを決めていくうちに、各班の人数の違いをどう解決するかの話になりました。一番青年が多い班は12名、少ない班は5人と倍以上人数の違いがあります。その時多かった意見が人数の多い班の青年が人数の少ない班に入るといった案でした。

一旦は多数決でその案を採用しましたが、次の班長会で出席していた担当者から、「自分の班から他の班に入る人を誰にするのか、どうやって決めるのか」という質問がありました。班長たちの多くは「自分は班長だから自分以外の青年に移動してもらおうと思っていた」と言いました。では副班長に移動してもらおうかどうか聞いたところ、副班長からは自分の班でゲーム大会に参加したいという意見が多く出ました。そのことから、みんなが自分の班でゲーム大会に参加したいということがわかりました。再度ルールを話し合った結果、別の班への移動は行わずに、人数の少ない班の青年がゲームに複数回参加して調整することになりました。

全員が自分の班で参加したゲーム大会は大いに盛り上がりました。

②亡くなった青年をしのぶ会

9月の初め、土曜学級に参加していた青年が亡くなりました。親しかった青年たちから「しのぶ会」を行いたいと班長会に提案があり、開催を決定しました。

次の学級日が宿泊合宿だったため、全体交流会の中でしのぶ会を行うか、別の学級日で行うかを話し合いました。既に全体交流会のスケジュール

が決まっていること、合宿に参加できない青年も多い事から、合宿の次の学級日でしのぶ会を行う事になりました。

学級日の日の朝のつどいの後に、班長会のメンバーが司会を行い、黙とうやみんなで思い出を話したり、亡くなった青年の言葉が入っている歌を歌ったりすることで亡くなった青年をしのびました。

③つどいについて

朝と帰りのつどいについての話は、班長会で多く出てきます。今年度は主に2つの意見と提案がありました。

1つ目は当番ではない班の青年が、つどいの進行に口を挟むことが多いという意見です。これについて班長会では、当番の班の青年だけが進行を行う事、もし別の班の青年が口を挟むような事があったら、その青年と同じ班の班長が注意する事などを決めました。

2つ目は、つどいの開始時間についてです。朝のつどいは10時から、帰りのつどいは3時30分からと決まっていますが、10時になってからホールに入ってくる人、3時30分に活動部屋から移動し始める班がいたりするため、開始時間がずれることが多いのは困るという意見です。これについても班長会で話し合い、10時と3時30分はつどいを開始する時間であることを徹底し、その時間にはホールで着席しているように活動部屋の退出時間を調整するようにと各班に周知しました。

④今後の展望

今年度はイベント企画班が編成されなかったため、班長会で合宿のイベント内容を企画する必要があったり、8月に開催した20周年記念イベントの話し合いもあつたりと、班長会にとってとても忙しい1年でした。そのため、各イベントの際に必要なことをピックアップして早めに決めておくよう皆で心がけ班長会を進めました。

また、②、③で挙げた事例のように学級全体に関わるような場合はその場で無理に解決しようとせず、班長会に意見を上げて話し合ったうえで対応を決めるという、青年→班長→班長会→班長→青年との流れが青年達に理解されたうえで、班長会が皆の意見をまとめる機関として機能しました。

班長会は青年学級が目的とする自治運営の要であるため、今後も班長一人ひとりが班の代表であることの自覚を持って参加していけるよう、担当者、職員もともに関わり続けることが必要です。

第3章 考察

1 土曜学級の概要

97年度より、第2・第4土曜日に町田第二小学校の開放教室を利用して土曜学級がスタートしました。

土曜学級は開級当初 30 名という規模の集団でスタートしましたが、30 名で1つの集団として活動するには、自治活動の視点から見て規模が大き過ぎ、活動が行いにくいという点から3グループに分けることにしました。

また、新たな学級ということで、活動に対する要求をお互いに出し合うことから活動が始まり、そこからひとつの活動をつくっていきました。

素材を定めたコース制の良いところは、同じ要求を持った青年での集団が作りやすい点です。公民館学級、ひかり学級に続く3番目となる土曜学級では、新たな取り組みとしてコース制ではなく、あらかじめ素材を定めなくて活動の中で出される青年の様々な要求を取り上げていく班活動の形態を取り入れました。

4年目の01年度には青年が47人となり班ごとの人数が多くなってきたため、3班から4班に再編成することになりました。また02年度からはアンケートから抽出した活動の要素を開級式に提示し、希望の活動ごとに班を構成するというように、コース制に近いグループづくりに取り組んでいます。青年の人数も05年度には60名となり、この人数では4班体制で活動しにくい規模になったために、5班体制にして活動を行うこととなりました。規模の拡大に伴い、使用施設を町田第二小学校から、部屋数の多い生涯学習センター（まちだ中央公民館）に03年度から変更しています。

しかし、ここ数年は担当者会に出席できる担当者の減少が続き、15年度からは4班体制での活動に戻りました。

今年度は学級生 51 人で活動が始まり、昨年度に引き続き4班体制で活動を行いました。活動は6月の開級式から2月の成果発表会まで（8月は除く）、毎月原則第2・第4土曜日に行われました。タイムテーブルは、以下のとおりです。

午前	9時20分～会場準備、担当者打ち合わせ、送迎
	10時00分～朝のつどい
	10時30分～班活動 (昼食)
午後	3時30分～帰りのつどい
	4時00分～班長会

主な班活動は、プレイルーム、音楽室、美術工芸室、調理実習室、ホール、学習室を使用して行いました。

2 今年度行われた行事について

(1) 合宿

土曜学級では秋のイベントとして、合宿と日帰り旅行を行っています。毎年、どちらにするかは前年度中にアンケートや話し合いで決めており、今年度は10月14日（土）と10月15日（日）で合宿を行いました。

04年度まで都内にいくつかあった「青年の家」を使って合宿を行っていましたが全て閉鎖してしまったため、05年度からは公民館学級、ひかり学級と同じく町田市の大地沢青少年センターを利用しています。

合宿を行う事自体は前年度中に決めていたため、班編成が出来た時点で各班、班長会ともに合宿に向けて動き出しました。話し合いの結果、1日目は各班個別に出発して夕方ごろ大地沢青少年センターで合流して夕食とり、その後全体会を行い就寝。2日目は4班合同で朝食を作り、昼食は各班が個別に調理活動を行い、片付け後に貸し切りバスで大地沢青少年センターから生涯学習センターに戻ることに決まりました。

10月14日（土）は残念ながら雨という悪天候で合宿がスタートしました。横浜見物や相模原市立博物館や多摩動物園、八王子市のいちようホールでのミニコンサート見学など、各班様々な場所に行って活動を行い、大地沢青少年センターに集

まりました。夕食後の全体会では班長会が企画した班対抗ゲーム大会で競い合い盛り上がりしました。

10月15日（日）も雨は降り続けました。全員で朝食を取った後、各班に分かれて学級活動や昼食の調理活動を行いました。雨のため屋外調理場で活動した班も屋根の中で過ごすことに。片付け後に予定通り貸し切りバスを使って生涯学習センターに帰りました。

（２）成果発表会

一年間の成果の発表の場として成果発表会があります。午前中はリハーサルを行い、午後からホールで発表会が行われ、各班20分の発表をしました。

最初に発表したのはトーマスレインボースポーツ班でした。まずは一年間の活動をスクリーンに写真を映して振り返りました。次に今年度取り組んだスポーツの発表です。舞台上でのペットボトルボーリングや、舞台から降りてみんなの目の前で「ごろ卓球」を披露しました。

2番手は 트렌디のものづくり班です。ものづくり班らしく、とても大きなカレンダーを作って年間の活動を説明しました。また調理活動で作ったそうめんやケーキを工作物で再現、それらを使い、青年たちがそれぞれ台詞を言う芝居形式で発表を行いました。

3番目の発表はハワイと虹班。「北風小僧の寒太郎」の歌からスタート。ザルを三度笠に見立てて衣装を再現しました。次にリンボーダンスやフォークダンス、フラダンスを続けて踊り、最後に班で作ったオリジナルソング「ハワイと虹」をウクレレ伴奏付きで披露しました。

ラストを飾るのは一刀両断班。今年初めて出来た自立について話し合う班です。しっかり台本を作った劇での発表でした。内容は自立に関ってくるお金について。班の青年たちがどんな仕事で給料を稼いでいるか、どんな使い方をしているか話し合ったときの事を題材にしています。

一年間行ってきた活動内容を舞台上で発表して多くの人に見てもらうことで、満足感や達成感を味わうことができる成果発表会になりました。

（３）土曜学級20周年記念式典

8月26日（土）に土曜学級の20周年を記念し

た式典を開催しました。

準備がスタートしたのは16年度の7月ごろです。16年度が土曜学級20年目の活動だったため、以前に行った10周年記念イベントのようなことを20年目も行うかどうか、班長会から各班へ提案したところ全員一致で開催が決まりました。10年目の06年度の時は、その年の成果発表会の後にイベントを行い、学級終了に記念パーティーも開きました。

今回はどうするのか。その後も話し合いは続き、既にスケジュールが決まっている16年度ではなく17年度中で学級日の無い8月の土曜日に開催する事までは決まりました。しかしイベント内容や開催場所など班長会だけでは決めることが難しくなってきたため、有志の方を集めた実行委員会をつくることになりました。班長以外の青年や引退した担当者、父母の方など青年学級以外の方たちに声をかけ、16年1月7日（土）に第1回実行委員会が行われました。

その後も何回かの実行委員会、班長会の話し合いでイベントの詳細を決めていき、17年8月26日（土）の15時、生涯学習センター7階ホールで記念式典を開催しました。土曜学級で作られたオリジナルソングや過去の活動の写真、この日のために青年たちが書いた絵やメッセージを紹介しました。式典終了後はホテルラポール千寿閣で記念パーティーも開きました。過去に土曜学級に関わった方々も参加して、みんなで楽しい時間を過ごしました。

3 担当者の役割

（１）青年への電話かけを行います

学級日前の木曜日に各班で電話かけを行い、出欠席の確認を行います。また、言葉で自分の意思を表現するのが難しい青年については、家族に自宅での様子や休み期間中（正月、夏休み）の様子などの確認を行います。青年のトイレ・食事介助方法や服薬状況、体調などを確認することができ、保護者と担当で情報の共有を行える貴重な時間です。

（２）外出で行く場所の下見について

青年学級の活動では外出することがあり、活動

日に外出する前に下見をする必要があります。エレベーターやトイレの場所の確認、電車の乗継の時間・移動時間の確認、昼食場所の確認などが挙げられます。当日と同じような時間帯ルートで下見を行うことで、担当者が頭の中で当日の流れをイメージすることができ、予測されるトラブルなどを予防することやスムーズに活動を行うことができます。

毎年、秋のイベントに備えて学級日の無い8月に下見を行いますが、今年度は20周年記念イベントが控えていたため班長会の話し合いで下見を中止して、イベントの練習日に充てました。

(3) 青年に寄りそう

活動中、青年がどんな表情で参加をしていたか、どんな発言をしていたか、どんな様子だったのか、など青年に寄り添い、しっかりと見て聴いて感じる必要があります。言葉でのコミュニケーションが難しい青年も多いなか、青年の思いを知り、どのようにしたらその思いを皆へ伝えることができるか、どのようにしたら学級の活動などにつながるかを一緒に考えなければいけません。

青年学級は青年が主体です。活動の準備などで青年が携われることは一緒に行い、活動を一緒に作り上げていくことが大事です。

(4) 担当者同士で情報の共有

担当者会で活動日の様子や青年の様子、次回の活動がスムーズに行えるよう準備や情報の共有をします。

(5) 当日担当者との情報の共有

当日担当者は木曜日の担当者会に参加せず、当日の活動日のみ参加します。

どのような活動を行うか、タイムテーブルなど事前にメールや電話などで伝え、班の担当者が同じ方向を向き、活動を行うことが必要です。また、活動後に当日の青年の様子などを担当者間で話し合い、共有することも必要になります。

(6) ニュースづくり

ニュースは、当日の活動の内容を青年と振り返るとともに、家族にも活動の様子を伝えるものです。また、特定の担当者が書くのではなく、班の担当者が持ち回りで書くことや編集作業などニュースづくりは協力して行うことが必要です。ニュースを作ることで、青年のことをよりしっかりと

見る力、考える力などが付きます。

4 課題と展望

(1) 班長会の役割と活用について

各班の代表が集まり学級の運営にかかわる班長会は、青年学級の「自治」のうえで欠かせない大きな役割を持っています。今年度はイベント企画の班が無かったため、数年ぶりに班長会で合宿の班対抗ゲーム大会を企画したり、昨年度から話し合いが続いていた20周年記念イベントについてなどに時間が割かれ、昨年度行っていた「反省会」などに十分な時間を取る事が出来ませんでした。班長会は、別の班の青年同士が活動の情報を共有できる場です。時間配分などを検討し、より良く活用していく必要があります。

また、ここ数年班長になる青年が固定化しています。これについては経験が豊かになり会が進めやすいメリットとともに、意見や活動が固定化し易くなるデメリットも生じます。今まで本人の希望制で決めていた班長についても、班長の役割や求めるものを再度確認したうえで決め方について検討していく必要があると思われまます。

(2) 担当者と青年とのかかわり方

トレンディものづくり班の報告にありましたが、ある青年から担当者に対してもっとかかわって欲しいと言われたことがありました。その青年は長年土曜学級で過ごしており、班長などの経験もあり皆が頼りにしていました。

担当者は学級活動中に青年ごと必要に応じ支援を行っています。経験を重ねるうちに必要な支援をより効率的に行えるようになっていきますが、その結果、青年ごとの支援の割合が固定化してしまいました。支援量の差はコミュニケーション量の差にもなります。今回は青年からの発言でわかりましたが、同じ思いをしている青年が他にもいると思われまます。今後の支援の在り方やコミュニケーションの取り方については一層の注意が必要であることを感じました。

第5部 地域への広がり

第1章 サークル活動

1 おなべの会

(1) おなべの会の歩み

おなべの会は、1980年度の青年学級の成人班で調理を経験したメンバーからの「青年学級以外でも調理をしたい」「調理を続けたい」という思いがきっかけになって1981年にはじまった料理サークルです。ほぼ月に一回のペースで青年学級のない日曜日を中心に調理実習室で活動しています。

(2) 活動の流れ

午前中の活動を例にとると、9時30分に集まり受付で利用料（午前中は1750円、午後2000円）を支払い、鍵を受け取り調理実習室に向かいます。部屋に入るとまず、メンバーの一人が当日の会費300円を集めます。別のメンバーが「これからおなべの会を始めます」とあいさつ。そして、ホワイトボードにその日のメニュー、そして必要な食材や調味料をみんなで確認しながら書き出していきます。メンバーの一人がボードを見ながら熱心に手帳にメモを取ります。

次に買い物に行く人と残って食器や調理用具の準備やご飯を炊く人に分かれます。

買い物は、公民館隣のデパート地下のスーパーへ、10時の開店にあわせて出かけています。

店ではあらかじめ必要なものをメモした青年が買ったものを一つひとつ丹念にチェックしていきます。予算オーバーしないように「こっこのほうが安い」などの言葉が飛び交うこともあります。レジで会計を済ませると、手分けして食材を運びます。買い物帰りには東急1階のガルディアコーヒー試飲コーナーで一息つくのが楽しみになっています。

調理実習室に戻るとまず食材の「洗う」「切る」を手分けして行っていきます。ごはんが炊き上がるまでの間など作業が一段落した際には、再びホワイトボードに向かって、今後の活動日の確認と、作りたいものを出し合い、書き出していきます。メニューを提案した人は、なぜこのメニューを作

りたいか他のメンバーに説明したりします。最終的なメニューの決定は挙手による多数決で行っています。

(3) 2017年度の活動

4月2日（日）AM とんかつ、おすまし

5月6日（土）AM やきそば

6月17日（土）AM ちらし寿司

7月30日（日）AM 冷やし中華

8月26日（土）PM ひかりセンターまつり出店
ジャガイモのバター焼き

9月18日（月・祝）PM シフォンケーキ



ケーキの生地をじっくりかき混ぜます



シフォンケーキの前で記念撮影

10月29日（日）AM パスタミートソース

11月18日（土）PM カップケーキ

12月23日（土）AM やきそば（ソース、塩）

1月7日（日）PM オムレツ、スープ、サラダ

2月3日（土）AM ハンバーグ

3月25日（日）公民館まつり

ホットケーキ コーヒー 紅茶

(4) 行事への参加

行事は、8月後半のセンターまつり（ひかり療育園まつり）、10月後半の生涯学習センター祭り（公民館）での模擬店出店を継続しています。

ひかり療育園のお祭りは、1990年ごろから参加していますが、地元忠生中央町内会や福祉団体などいくつかの団体も出店しており、それぞれの団体が、ほぼ決まったメニューを出しているため、それらと重ならないことや調理のしやすさから、毎回「じゃがバター」をメニューに参加して好評を得ています。

生涯学習センターまつりについては、旧公民館の時代1985年ごろから30年ほど参加しています。ホットケーキ、コーヒーをメニューに参加しています。今回のまつりでは、同じ調理実習室で震災ボランティア団体NPO「たまりば」による震災食メニューのほか、在宅系ケアをもっとよくする市民の会の介護食の試食メニューが提供され、3団体のコラボという形で、当日は交流しながらの活動となりました。

今回さすがに3団体となると会場が手狭になったり、有料と試食の無料メニューが同室で混在することで戸惑われた方もいたとの話がセンターまつりの反省会で出ていました。

（５）活動予定のはがき送付

2004年1月の活動からし、活動日前に案内はがきをメンバー一人ひとりに送っています。郵送料は、サークルでたくわえたお金をあてていますが、案内はがきが送られることで前もって予定が確認できるので、その日の活動に見通しを持って参加できるようになりました。

現在、26通を発送していますが、はがき代が、1回に1500円あまりかかることから、2、3か月の予定をまとめてお知らせして手間と経費節減を図っています。

（６）会場の確保と日程

このところ日曜日の公民館学級とひかり学級が別々の予定になることがあり、日曜日だけの活動では、学級日と重なってしまったり、部屋取りの抽選に外れてしまい、月1回の活動が確保できないことがあり、今は土曜日も含め活動日としています。

また、活動場所を変えると、行き先がわからなくなってしまうたり、送迎が必要になる人もいる

ことから基本的に公民館調理実習室が確保できる日を活動日としています。

（７）メンバーの入れ替わり

現在メンバー26名、スタッフが8名ですが、うちメンバーが12～15名、スタッフが4名前後で、毎回の活動は15～20名で行っています。

メンバー構成については、「青年学級」か「とびたつ会」に入っているメンバーが大半を占め、20年以上参加している人が中心です。

最近青年学級に入り、介助者と参加している方、また青年学級への入級が抽選で外れた方など新たに加わっています。

一方、グループホームでの生活を始める人も増え、なかには、そこでの行事や人とのつながりができることから、おなべの会を実質卒業していく人もいます。

ほかにスタッフでは青年学級元担当者5名のほかそのつながりで加わった3名がいます。

このように毎年新たなメンバーが加わっていることから、一人ひとりのネームプレートを作って、活動中、お互いに名前がわかるように活用しています。

（８）活動の経費の確保

メンバーが参加しやすいよう37年前のサークル発足当初より参加費（材料費）300円を維持してきましたが、実際にはメニューによって材料費をまかないきれない場合があります。

またさらに、はがき代のほか、7年前から公民館施設利用が有料化され、さらに昨年はその値上げもあって毎回少なくとも2000円の施設利用料がかかることになり、その分が新たな赤字に加わっています。

こうした問題に対して、スタッフのカンパやメンバーのご家族からの支援で補ってききましたが、長続きする対策が必要でした。

そのようななか、昨年暮れに、おなべの会の活動の内容から社会福祉協議会からの補助が受けられる可能性があるとの情報が得られ、補助手続きを取ったところ現在支給決定を受けるところまで来ています。

2 とびたつ会

とびたつ会は、2004年にはじまった本人活動の会です。当時、青年学級の体制と規模の問題で、新人学級生が入れなかったことから、青年学級に入ることを希望する若い人が青年学級に入れるように青年学級を卒業することと、その頃各地で出来はじめていた本人活動を町田でもはじめようということで、有志が集まりつくった会です。

(1) 参加者の推移

04年度 8人(女 2・男 6)
05年度 12人(女 3・男 9)
06年度 15人(女 5・男 10) 学級外 2
07年度 24人(女 8・男 16) 学級外 7
08年度 25人(女 8・男 17) 学級外 7
09年度 31人(女 12・男 19) 学級外 11
10年度 32人(女 12・男 20) 学級外 11
11年度 33人(女 12・男 17) 学級外 11
12年度 29人(女 12・男 17) 学級生 11 新 2人
13年度 30人(女 11・男 19) 学級外 13 新 2人
14年度 27人(女 9・男 18) 学級外 10 新 1人
15年度 23人(女 8・男 15) 学級外 9 新 1人
16年度 24人(女 8・男 16) 学級外 9 新 1人
17年度 24人(女 8・男 16) 学級外 9

(2) 活動日

毎月第2、第4日曜日 午前10時～16時
会場は、主にコメット会館5階を有料で借用しています。

(3) 運営の体制

- ① 運営会議を毎週木曜日 夜6時～9時 生涯学習センターの学習室で開催し、青年学級と活動内容を共有しています。
- ② 支援者は女性6人(内2人は青年学級担当者) 男性5人です。活動によっては青年学級の担当者に支援をお願いして取り組みました。

(4) 2017年度のおもな活動一覧

- ① 第18回若葉とそよ風のハーモニー(5/27)
- ② 調理＝スパゲティ(7/23) 手羽元カレー(9/10)
- ③ 学習会「だれもが『生きていてよかった』と思

う社会をつくる」池上洋通氏(8/6)

- ④ 社会教育研究全国集会・相模女子大(8/27)
- ⑤ 生活創造空間にしフェスティバル(10/7)
- ⑥ 聖心女子大学グローバル共生研究所オープニングアクト(10/14)
- ⑦ 町田母親大会オープニングアクト(10/28)
- ⑧ 映画「あん」鑑賞(11/26)
- ⑨ 学習会「ハンセン病について」稲村七郎氏(12/10)
- ⑩ 多磨全生園・ハンセン病資料館見学(1/14)
- ⑪ 資料集作成のための執筆活動(2/12)
- ⑫ 公民館まつり(3/25)

(5) 活動の特徴

① メンバーについて

2016年度から変化はありませんでした。車イスを利用するメンバーがヘルパーさんと参加することが、常となってきました。

② 発表の場

2017年度も、前年度に引き続き、発表の回数に恵まれた年となりました。5月の第18回若葉とそよ風のハーモニー(5/27)を皮切りに、④社会教育研究全国集会・相模女子大(8/27)、⑤生活創造空間にしフェスティバル(10/7)、⑥聖心女子大学グローバル共生研究所オープニングアクト(10/14、若葉とそよ風のハーモニーを観た大橋正明教授からお招きいただいた)、⑦町田母親大会オープニングアクト(10/28)とつづきました。



社会教育研究全国集会

③ 学習会

2016年7月26日津久井やまゆり園でおきた凄惨な事件をきっかけに、学習会に取り組んできましたが、8月6日には『生きたかったー相模原障害者殺傷事件が問いかけるものー』(大月書店)の

編・執筆者の池上洋通氏を講師に学習会「だれもが『生きていてよかった』と思う社会をつくる」を開催した。8月27日に開催されて社会教育研究全国集会・分科会「障害をもつ人の生涯にわたる学習保障」では、とびたつ会の一連の活動を歌とともに発表しました。

④歌

歌は「クラップ・クラップ」と「あっぱれな人生」の2曲を新曲としてつくりました。

「クラップ・クラップ」は、生活創造空間にしを構成する作業所NClapにちなんで、ホームページの言葉をもとに歌詞をつくりました。

「あっぱれな人生」は、映画「あん」を観て、多磨全生園・ハンセン病資料館を見学した後に書いた感想文や、映画「あん」の原作者ドリアン助川氏のインタビュー記事の言葉、主演の「徳江」さんの言葉をもとに、歌詞をつくりました。以下は稲村さんの作文です。

一行きのタクシーの運転手さんが「昔乗せたお客さんに「鰻食べに行くから付き合っよ」って言われて、時々一緒にご飯食べたよ。最近連絡ないけどどうしたかなあ」という話を聞かせてくれました。帰りのタクシーの運転手さんに「自然が多くて良い所ですね」と言ったら、「昔は病気がうつると思って引っ越してくる人がいなかったからね」と話してくれました。

資料館で見た物とタクシーの運転手さんの話

帰りの運転手さんの話からは病気になってしまった人達がどんな思いでくらししてきたのかという事を考えさせられ、行ききの運転手さんの話からは長い長い時間をかけて周囲の意識が変わってきたのだという事を感じる事が出来ました。行ききの運転手さんの話は「ご飯食べに行くから付き合っよ」と声をかけたお客さんに、「外に出る」という出来て当たり前と思っていた事が出来てない時があったこと、運転手さんを誘った事に少し切なさも感じましたが、一緒にご飯を食べに行った運転手さんをステキ人だと思いましたし「今ごろはどうしてるかな～」

の言葉に、ただのお客さんと運転手さんをこえて、昔の友達を懐かしむような言葉と優しい瞳に、聞いている私の気持ちも暖かくなりました。

今日いろんな人の話を聞いて見て、いろんな物を見てみて何が人間らしく幸せなのかという事の正解は難しいけれど、どんな人に対してもきちんとした理解と知識をつけ接する事が大切なのだなと思いました。—

ドリアン助川氏にこの作文と共に「うたってもいいですか？」とメッセージを送ったところ「タクシーの運転手さんの話、いいですね。鰻の話はかえって切実だなあ。歌、自由に歌われていいと思いますよ。どうもありがどう。」とお返事をいただきました。差別の中でも、人権を勝ち取るために闘い続け、芸術活動に没頭し、生きる希望を見出してきた人々の思いを理解し、その思いを広げることができればとつくった歌です。

(6) 今後の展望

優生保護法のもとでの強制的な不妊手術に関する国家賠償責任訴訟が2018年1月に提訴されました。津久井やまゆり園の根底にある優生思想が法律として存在し、らい予防法と同じく1996年まで続き、合法的に人が人を差別し、隔離し傷つけてきた事実があります。私たちはこの事実をどのように受け止め、考え、今後の私たちの社会をイメージし、生きていくのでしょうか。主権者として生きるために、学びながら、社会に向かって発信し続けることが、とびたつ会や青年学級という当事者集団のなすべきことと考えます。



聖心女子大学グローバル共生センターオープニングアクト

とびたつ会活動経過(2017年4月～2018年3月)

	月日	内容	参加人数	場所
1	4月8日	わかそよに向けての合宿	20人	あゆみ荘
2	4月9日	わかそよに向けての合宿	20人	あゆみ荘
3	4月16日	第18回若葉とそよ風のハーモニー 結団式	24人	公民館
4	4月23日	わかそよ全体練習①	21人	町田福祉園
5	4月30日	わかそよ全体練習②	23人	町田福祉園
6	5月14日	わかそよ全体練習③	22人	町田福祉園
7	5月21日	わかそよ全体練習④	24人	公民館
8	5月27日	第18回若葉とそよ風のハーモニー 本番	24人	市民ホール
9	6月11日	わかそよのビデオを観る。感想を話しあう。	18人	コメット会館
10	6月25日	今後の活動について話しあう。歌「クラブ・クラブ」	18人	コメット会館
11	7月9日	次回調理活動について、今後の活動について	19人	コメット会館
12	7月23日	調理実習「スパゲティづくり」	20人	公民館調理実習室
13	8月6日	池上洋通さん学習会「だれもが『生きていてよかった』と 思う社会をつくる」～人権と平和と憲法と～そして主権者である私たち～	16人	コメット会館
14	8月27日	社会教育研究全国集会(神奈川集会)分科会参加	17人	相模女子大学
15	9月10日	調理実習「手羽元カレー」10月の発表練習	18人	市民フォーラム
16	9月24日	10月にある3つのイベントのための発表練習	17人	公民館
17	10月7日	生活創造空間にしフェスティバル参加 発表	15人	生活創造空間にし
18	10月14日	聖心女子大学グローバル共生研究所オープニングアクト	22人	聖心女子大学
19	10月28日	町田母親大会参加 オープニングアクト出演	18人	市民フォーラム
20	11月12日	3つのイベントの振りかえり・今後の活動について	18人	コメット会館
21	11月26日	ビデオ「ハンセン病を知っていますか」・映画鑑賞「あん」	13人	コメット会館
22	12月10日	午後:学習会「ハンセン病について」お話:稲村七郎さん	15人	コメット会館
23	12月24日	2017年の振りかえり 望年会	19人	コメット会館
24	1月14日	外出活動＝多磨全生園・ハンセン病資料館	19人	多磨全生園
25	1月28日	外出活動の振りかえり、今後の活動について	18人	コメット会館
26	2月12日	作文「私ととびたつ会」、歌づくり「あっぱれな人生」	16人	コメット会館
27	2月25日	1年の振りかえり。歌「あっぱれな人生」練習。公民館まつり準備	18人	コメット会館
28	3月11日	公民館まつり発表の練習。午後公民館学級成果発表会	17人	コメット会館
29	3月25日	午前公民館まつり発表。午後コメット会館で、1年間の振りかえり	19人	公民館、コメット会館
		合計	461人	

クラップ クラップ

2017年7月とびたつ会
N-Clapの皆さんへ

あっぱれな人生

映画「あん」の soundtrack

とびたつ会 2018年2月
編曲 宏美ほか

C Am F
 うこの まよに なるから いて いて
 この まよに なるから いて いて
 C G C
 C G C
 C G C
 F Dm G C7 G7
 イスに ぼんやり する ぼんやり
 たたく ぼんやり する ぼんやり
 C G C7 G7
 ナナ ぼんやり する ぼんやり
 ナナ ぼんやり する ぼんやり
 F Dm G C7 G7
 地味な 宇宙 知 知
 地味な 宇宙 知 知
 C G C7
 しんきやな ひと ひと
 しんきやな ひと ひと

あっぱれな人生

F G C C7
 つや さらさら さらさら さらさら
 つや さらさら さらさら さらさら
 F G C
 あっぱれな 人生
 あっぱれな 人生
 F G C
 ここの こと こと こと
 ここの こと こと こと
 F G C
 わたし たまたま 出会った
 わたし たまたま 出会った
 F G C G
 に 対して 希望 あり
 に 対して 希望 あり

3. スケッチ・ルーム

(1) 会の成り立ちとメンバー構成

2012年4月から活動を始めました。当初から参加のS sさんの提案で会をスケッチ・ルームと名付けました。

現在の参加者は、S sさんの他、H hさん父子、とびたつ会のH jさん母子、他5人の10人の少人数で活動しています。

(2) 活動の様子

土日祝日の午前か午後の半日、文学館か生涯学習センターを利用しています。それぞれ好きな絵を描いていましたが、後半は透明水彩画家を講師に迎えました。講師の熱意に応え、皆、集中して描いていました。会の終わりに喫茶室よりコーヒーなど出前してもらい、一息ついています。

- ・2017年度の創作活動は24回のべ123人の参加でした。

- ・展示①

期間 2月12日～17日

場所 銀座のギャラリー工房

出品 S sさん、H hさん、他4名

- ・展示②

期間 3月23日～25日

場所 生涯学習センターまつり

出品 9名展示

- ・H hさんは、銀座のギャラリーや生涯学習センターまつりに展示されるのを楽しみにして、作業所の仲間、職員にアピールした結果、職員が見に来てくれ、記念写真を撮っていました。

- ・S sさんは、妹を連れて銀座のギャラリーに来ましたが、学生の妹にランチをご馳走したと話していました。

(3) 会の運営

会場費として1人/回、100円を徴収していません。

今年度は、町田市の助成金がもらえたので、設備の整っている生涯学習センターを利用しようと思ったのですが、部屋を確保できませんでした。

(4) 課題と展望

- ・部屋を決まった日程で確保するのが難しい。そのため、長期的な予定を立てにくく、仲間を増やすのも難しい状態が続いています。
- ・青年学級の他にも居場所を作りたいと始めたスケッチ・ルームですが、今年度は新たな学級生の参加者はありませんでした。学級生は、すでに学級で充実した時間を過ごしているのだからでしょう。
- ・たまたま学級でうまくいかず辞めてしまったS sさんが参加していますが、S sさんは「昭和生まれの人には分からないだろうけど」と言いながらも皆にゲームの話などしています。

第6部 学級を支える体制

第1章 担当者会・調整会・学習会

1 担当者会議の概要

町田市障がい者青年学級では、学級活動に参加し支援する人を「担当者」と呼んでいます。2017年度は公民館学級20名、ひかり学級24名、土曜学級18名、合わせて62名、そこに生涯学習センター職員4名が加わり、合計66名が「担当者」として学級活動に参加しました。担当者は（8月と年末年始を除く）毎週木曜日の夜に生涯学習センターに集まり、学級ごとに「担当者会」と呼ばれる会議を行っています。

担当者会では青年の活動を支援し、学級活動を充実したものにするために話し合いが行われています。学級日前の担当者会では、活動内容やそれに向けて準備すべき点などを確認し、学級日後の担当者会では、活動全体や青年一人ひとりの様子を振り返ります。学級日に外出する際には、担当者が事前に下見を行い、車いす用トイレやエレベーターの有無、昼食場所の確認なども行っています。

また、青年がどのようなことを求めているか、その要求の実現に向けてどのような取り組みをしていけば良いか、学級での経験を本人の生活に即したものにしていくにはどうしたら良いかということも話し合っています。活動におけるコースや班での話し合いをいかに支援していくかということも担当者会で度々話されている議題のひとつで、自分の言葉で表現することが難しい青年の思いを活動に生かしていくために、家族とコミュニケーションを取り合うことも担当者の重要な役割となっています。そういった学級活動以外の場面での取り組みについても、その内容を担当者会で共有し、「全体で取り組む体制」をつくっています。

(1) 公民館学級

今年度の公民館学級は、担当者20名（うち当日担当者5名）という支援体制でした。昨年度と比較すると、学生の担当者が就職等を機に6名抜け、支援体制としては厳しい状況となりました。

担当者会に毎回参加できる担当者は5~6名で、人数的にコースごとに学級日の振り返りや打ち合わせを行うことができなかったため、普段の学級活動の様子については各コースの代表者が担当者会で報告し、合宿やクリスマス会などのイベントの計画、青年の様子など気付いたことは全体で話し合ってきました。

担当者会に出席できない担当者が多いことから、昨年度に引き続きメッセージアプリで情報の共有を行いました。担当者会の議事録、次回の学級日の送迎担当者、学級生の出欠確認、学級当日の緊

急連絡など、多岐に渡り担当者間で相互的に活用することができました。

また、今年度担当者会では、活動日の報告媒体として作成している学級ニュースについて、作成の運用変更を行いました。これまでは、学級日を終えた週の担当者会で各コースのニュース作成者を決め、その約4日後に原稿の締め切りを設定していました。しかし、締め切りまでの期間が短いため作成担当者に負担が生じていたり、作成者が結局のところ担当者会に出席している担当者に偏ってしまうなどの問題がありました。そのため、今年度は、学級日の前の担当者会であらかじめ作成する担当者を決めることとしました。こうすることで、作成担当になった担当者が原稿を作成する時間が十分に確保できるようになっただけではなく、作成担当者はニュース掲載用に活動の写真を撮影したり、学級生の発言の記録をとるなど、活動報告媒体として充実した内容になるよう意識を持って学級活動に臨むことができました。今後は、担当者会に出席できていない担当者や当日担当者を含め、担当者全員がニュースの作成担当として活躍できるよう、働きかけていきたいです。

来年度も支援体制としては依然厳しい状況が続きますが、人数が少ないからこそ、今一度担当者会で情報の共有体制をしっかりと確保していくこと、そして担当者一人ひとりの力を最大限に活用できるよう役割分担を行っていくことが必要です。

(2) ひかり学級

最初の活動日は、職員2名、担当者と他学級等の応援で、全体で20名以上で活動が始まりましたが、応援職員の割合が多く、昨年と同じ4コース制をしくことになりました。

職員の担当者募集の地道な努力が実って、女子美術大学の学生の参加がはじめとなり、他大学の学生の担当者も増えて、各コース複数人で担当者会議を開くことが出来るようになりました。年度終わりには、職員、応援等を除き18名の担当者体制でおこなうことが出来ました。後半は、学生から新鮮な意見や提案があり、活気あるものになっていきました。学生は、担当者会にも積極的に参加しています。

担当者会では、主に各コースの活動の思い起こしや次回の活動予定を全体で確認することを中心に話し合いをします。思い起こしでは、各コースの一日の流れや当日の青年の様子や発言、気づいたことなどを全体で共有しました。全体で共有することで青年の様子を知ることができ、また、問題点の解決策を話し合ったりして、コース活動での参考として学んだり、より良い活動をつくっていくための担当者間の大切な情報共有の場となりました。次回の活動の予定では、当日の担当者体制や、部屋割り、用意する備品、送迎などを詳

細に確認していきました。この確認によって当日はスムーズに活動に入ることが出来ました。そして、職員からの連絡事項やニュース作業について、全体で確認、共有していきました。

各コースの担当は、社会人と学生が担当するコースと、学生のみが担当するコースがありました。

担当者会に参加できない当日担当者も多く、担当者会だけでは十分な振り返りができないので、その日の活動の後、振り返りを行いました。活動終了後の集まりは、経験豊富な当日担当者から、貴重な意見を聞くことができ、コミュニケーションも取りあえる大切な時間になっています。しかし、ひかり療育園の退室時間の制約もあり、十分な話し合いは出来ていない状況です。担当者会で話された内容や次回の予定などを、当日担当者と情報共有することができませんでした。

担当者会は、19時からほぼ閉館までですが、実質話し合いは、20時ごろから始める状況でした。特に遠方から参加している担当者は、帰宅時間が夜遅くなります。安全の面からも、なるべく早く終われるように、担当者会の進行、内容面での工夫が必要ではないかと思われま

(3) 土曜学級

今年度の土曜学級は担当者 18 名（うち当日担当者 9 名）という厳しい状況が続いています。そのため昨年度に引き続き 4 班体制を継続しました。他学級の担当者の応援もあり成果発表会まで活動することができましたが、担当者ひとりひとりの負担が増しています。

活動直前の担当者会では出欠確認や活動内容、持ち物の連絡のため青年への電話かけを行います。この電話かけは、活動中に言葉で自分の意思を表現するのが難しい青年の自宅での様子や、長期の休み期間（正月、夏休み）の様子などを確認することができ、また家族や青年と信頼関係を築くために重要なものだと考えています。

そのほか学級日前の担当者会では、次回の活動内容を班ごとに発表して送迎や部屋割り、応援者についてなど学級日当日の詳細を決めます。それ以外には生涯学習センターからの報告、青年の様子、連絡事項について全体で話し合いました。

学級日後の担当者会では、学級日当日の活動の振り返り、班長会やつどい委員会の様子を話しました。担当者会の中では、さまざまな話をしていきました。内容によっては一度の担当者会では決まらない時もありますが、その時は次週の担当者会に持ち越しをして継続して話し合いました。

昨年度とは担当者の入れ替わりがなく、経験の多いベテラン担当者が中心となり班活動を行いました。年間を通して新しい担当者が入ってこなかったため、担当者の募集が急務になっています。

担当者会では事務的な確認のほかにも青年との

関わり方や学級活動の意義といった活動を行ううえで重要なことが話し合われ、担当者同士の経験を伝える重要な場所です。しかし夜間に行う担当者会への参加が難しい当日担当者と、いかに情報共有を行うかが課題になっています。開級式直前や合宿直前、成果発表会直前など、情報共有や話し合いが特に重要になる会議には当日担当者にも出席していただけるように呼びかけを行っています。今後、さらに情報共有と担当者の方向性を合わせることを目的として、学級日当日に振り返りの時間を設ける、夜間に出席が難しい人のため学習会を日中に開催する、また担当者会での議論の内容をニュースに記載し、当日担当者にも知ってもらうといったことを検討し、より充実した学級活動が行えるように努めていきたいと思

2 学習会

(1) 開催実績

① 講演会

「相模原殺傷事件」から自らを見つめる

日時：11月16日（木）19～21時

場所：生涯学習センター 学習室1・2

講師：國學院大學教授 柴田 保之氏

特徴：社会福祉法人ウイズ町田から青年学級と共に学ぶ場を作りたいという企画があり、まちされん（町田作業所連絡会）と青年学級の合同学習会として、実施することができました。

② 講演会・父母交流会

医療・介護・福祉コミュニティ（グランハート町田）を中心とした地域共生社会～障がい者の高齢化に向けて～

日時：3月5日（月）11時～13時30分

場所：グランハート町田内

レンタルルーム トマト

講師：社会福祉法人

悠々会理事長 陶山 慎治氏

特徴：父母の学ぶ場としての学習会ですが、今年はそれだけにとどまらず、交流も目的に加えて、企画されました。講演会の後に、食事をとりながら交流を図ることで、親交が深まりました。

③ 事例発表・グループワークによる学習会

日時：3月22日（木）19時～20時30分

場所：生涯学習センター ホール

特徴：調整会の中で話し合われた新人担当者の定着化や早期育成を目標に、3学級の担当者が学級活動での経験や思いを話し合う場として企画されました。

求められます。

(2) 課題と展望

今年度は学習会委員主催の学習会を開催することができませんでした。調整会という学級全体の課題について話し合われる場の中で、今どのような学習会が必要かを話し合い、実施にまでつなげることができました。

このことは、近年、学習会委員が組織的に活動できていない中、社会教育の場として、担当者は青年に対する支援者であると同時に主体的な学習者でもあることを示す、ひとつの成果と言えます。

しかしながら、担当者間、そして職員と学習会の意義の再確認と、安定的な学習会を開催する仕組み作りが必要となっています。

3 調整会

調整会は職員3名と担当者会の代表の学級主事(各学級2名)とで構成され、青年学級を実施するにあたり、全体的な条件整備や調整を行い、担当者会に提示していく役割を持っています。学級全体のことや、これからのことを考える会議でもあります。今年の特徴としては、前段で述べられているとおり、学習会についても話し合いが行われました。

今年度は、6月15日、9月7日、12月7日、2月1日、3月1日の5回開催しました。

初回は年度当初のため、各学級の職員と主事の紹介、各学級の人数やコース、今年度の予定について報告を行いました。2回目は各学級の近況報告と、高額な商品(ビデオカメラとポッチャ)の購入の可否について、話し合いを行いました。3回目は3学級全体で参加する生涯学習センターまつりについての話し合いの他、学習会について意見を出し合いました。4回目は、総括日程や新人担当者がどのような学習会があると参加しやすく、より定着化ができるのかについて話し合いました。5回目は生涯学習センターまつりの最終調整の他に、成果発表会について話し合いました。

しかし、30分～1時間程度の時間では議論を深めることは難しく、目の前の行事について調整することだけで精一杯でした。

現在、学級生の高齢化や担当者不足や入級希望者の抽選による入級制限など、青年学級には様々な問題があります。現在休止中の障がい者青年学級将来検討委員会を再開するなど、父母会等と一緒に青年学級の中長期的な問題を早急に考えていく必要があります。そのパイプ役を調整会が担っていくことができれば、解決の糸口が見えてくると思われれます。

今後の青年学級をより良いものとするため、調整会の役割、運営の仕方、議論していく内容について職員とともに深く考え、検討していくことが

第2章 送迎検討委員会

1 これまでの経過

青年学級では学級開設以来、一人で学級に通ってくるのが難しい青年の通級をどう保障するかについて、大きな問題となっています。送迎の必要な青年の通級は、現在特定の青年への自主通級へ向けての援助を除いて、ほとんど家族の送迎に頼っているのが現状です。

担当者会では1981年度に、公的な送迎保障を求めて町田市長への要望書や市議会請願書（本会議で否決）を提出し、この問題をアピールしてきました。1992年度からは「青年の生活における送迎の意味や、今、青年学級でできることは何かを考え送迎保障をめざす」ことをねらいとして、『送迎検討委員会』を組織し、担当者会メンバーに父母会の役員も加わって検討を始めました。何回かの話し合いと青年及び家族への計2回の調査を経て、1995年度より一時送迎を実施することになりました。

この一時送迎をはじめると、ねらいを「送迎する家族の事情で学級を休むことにならないよう」、しかもそれは「送迎を必要とする青年や家族と担当者個人との関係で送迎を行なうのではなく、『青年学級全体の取り組み』として送迎を行なう」とし、確認しました。

2 現在取り組んでいる一時送迎の内容

- ① 一時送迎が必要な人は原則として、学級日前の担当者会のある木曜日までに公民館へ連絡し、担当者会で送迎を行なう担当者を調整する。（当日の送迎の要請にもできるだけ対応していく。）
- ② 送迎方法については、自家用車では事故があった場合の保障が十分でないため、できるだけ公共の交通機関を利用する。
- ③ 送迎に要した費用のうち電車代・バス代については、青年本人の交通費は全額本人負担、送迎を行なう担当者の要したバス代、電車代は送迎運営費から支出する。タクシーを利用した場合は、かかった費用の2割（端数は四捨五入し、100円単位で支払う）を青年が負担し、残りを送迎運営費から支出する。自家用車を利用した場合は、送迎運営費より送迎を行なった担当者に片道200円を支払う。
- ④ 担当者と父母で一人年間300円を負担し、これを送迎運営費とする。
- ⑤ 送迎中に事故があった場合の保障として、町田市の「全市民加入型 ボランティア活動災害補償保険」を活用する。

3 現在行なわれている送迎の状況

青年学級で行なわれている送迎には一時送迎も含め以下のようなものがあります。

(1) 自主通級を目指して行なう送迎

自主通級する力はあるのですが、道順をなかなか覚えることができなかつたり、ちょっとしたことで混乱してしまつたり、安全に通級することが難しいといった青年に対して、将来的に自主通級できるようになることを目指し、援助をしています。

家まで迎えに行く、通級途中で待ち合わせるなど青年の状況に応じて行なっています。

(2) 家族の都合で送迎ができなくなった場合の「一時送迎」

家族の体調不良などの利用により、いつも送迎をしている家族が送迎できない場合に一時的に担当者が送迎しています。その他に慶弔や、送迎を行なう車の故障、施設の一時利用のため等の理由があります。

一時送迎の制度が広まってきたことにより、送迎者の都合などで、学級に参加できないということが減っています。

しかし、親の高齢化や本人の施設やグループホームへの入居により、継続的な送迎保障がないと学級に参加できないという青年が年々増え、実態として「一時送迎」にとどまらない現実も出ています。

(3) 普段とは違う場所で活動が行なわれる場合の送迎

ひかり学級の成果発表会は、いつもの活動場所であるひかり療育園ではなく、町田市生涯学習センターで行なっています。

このように活動場所が変わる場合、「行ったことがない」「普段行き慣れないところで不安」などの理由で、直接その会場へ行けない青年が多くいます。そこで一旦通り慣れた場所（町田市生涯学習センター・ひかり療育園）に集まってから会場に向かうといった送迎体制をとっています。普段は送迎を必要としない青年にとっても、送迎は共通する問題であると言えます。

4 今年度の検討内容

今年度の送迎検討委員会は、2014年度に開催して以来、時間的な都合で担当者が集まることができず、開催することができませんでした。そのた

め、各学級の送迎の実態や送迎費用の確認ができない状況となってしまいました。また、定期的開催していた父母会との意見交換の場も持つことができませんでした。

5 今後の課題

(1) 担当者の費用負担軽減

送迎に対応した担当者は費用を立て替え、後日送迎検討委員会で精算をするのですが、担当者や送迎委員が会えない日が続くと時に数千円の立て替えの累積が発生し、担当者の経済的負担にもなります。担当者の負担を軽減する意味でも、迅速に費用精算できる仕組みの検討が必要です。また、学級によっては、送迎の記録がしっかり記載できていない状況もあり、送迎検討委員会の立て直しが急務となっています。

(2) 送迎についての情報共有

ここ数年は当日のみの担当者が送迎を行うことが多くなってきましたが、当日送迎する担当者が担当者会に出席していない等の理由で、送迎の話をする機会をあまりつくりだしていないのが現状です。

「なぜ一時送迎を行っているのか」といった送迎についての意義や、送迎検討委員会が組織されるまでの経緯等について担当者間で共有していくとともに、比較的経験年数の少ない担当者や担当者会に出席していない担当者についても、送迎運営費を集める理由や送迎検討委員会の存在意義を伝えていく必要があります。

(3) 一時送迎の周知

今後、青年の高齢化・家庭環境の変化により、グループホームや施設等に生活の場を移す青年が増え、送迎の必要性も高まってくるのが考えられます。

その一方で、一時送迎のことを知らない家族や、送迎を遠慮している家族もいるようなので、「送迎のしおり」を作成したり、父母交流会やニュース等を通じて送迎委員会の活動を伝えることが求められています。

(4) 制度の活用

最近ではガイドヘルパー制度を利用して学級に参加する青年も増えてきました。ガイドヘルパー制度も「障害者自立支援法（現「障害者総合支援法」）の施行以降、大きく変わってきており、今後ガイドヘルパー制度の利用について、その制度の内容や利用方法等を確認するとともに、一時送迎とガイドヘルパー制度の利用について、その利用の可能性を探っていくことも課題として挙げられています。

第3章 父母会

父母会長

私が町田市障がい者青年学級父母会の会長を引き受けて1年が経とうとしています。

この間、例年通りの行事をなんとかこなしてきましたが、父母会とは何なのかを改めて考えさせられました。

青年たちの学級活動が円滑に進められるように陰から支える役とは言っても、役員を選出に困難をきたしているのは事実。役員サイドに会員の住所・電話番号のデータがないことがネックになっていました。今年度はそれを改善したく、会員に情報提供をお願いしました。うっかり返事を忘れていた方もおられるでしょうが、明確に拒否されたのは2名のみだったので、今後は電話での呼びかけや依頼をすることができます。

また、今年度の学習会は、施設見学と会食を交えた講演会という形をとりました。場所の都合で人数制限をしたことは申し訳なかったのですが、おおむね好評でした。3学級の父母が一堂に会する機会はめったになく、食事しながら歓談できたことは交流会としても有意義だったと思います。講師のみならず、送迎バスの手配やら会議室の無償貸与を図ってくださった陶山様には、本当に感謝しております。

今年半ば、学級生が突然亡くなられ、それに伴って副会長が不在となってしまいましたが、これからは、我々もいつ何時不具合が生じるか分かりません。若い方々にうまくバトンを引き継いでいけるよう頑張りたいと思います。

第7部 青年学級によせて

◇新人担当者として関わって

公民館学級

柴崎 智啓

町田市障がい者青年学級は、かなり前の学生時代にお邪魔させていただいたことがありますが、私にとっては実は近くて遠い存在でした。

10年以上のかなりの時間が経ちましたが、私も福祉分野の専門家として資格を持って働いている日々の中、既に長く青年学級の担当者をしている大学の先輩に誘われて、久しぶりに活動に参加し、この度担当者として参加させていただきました。

その昔お邪魔させていただいた時は、お役に立てないと思っていたことがありました。

今回参加させていただくようになり、何人かの方から「次も会えるよね」「また来てね」との声をいただけることがありました。元々の性格的には多くの人がいる集団の中で、活動するタイプではない私も、そんな言葉から継続して関わっていきたいと思ったことを強く覚えています。

学級活動の中では、思いや考えが形になった「学級ソング」をみんなで作る、歌うことを楽しみにしている方が多く、歌っている集団が一体となっているあの瞬間は、活動の醍醐味と思えます。歌が苦手な私は一歩引いて参加していますが、思いが形になっているすごさを感じています。「歌」だけでなく、日々考えていることや将来に対する思いなどが多く語られ、一人一人の声を大切にしなければならぬと思うことが多くあります。また青年たちの思いを多くの人に知ってもらうために形にするという意味でも大切な活動だとも感じています。それを知っている人間として、少しでも長く学級に関われたらと思っています。

微力ながらも皆様の活動のお役に立てたらと思います。今後ともよろしく願いいたします。

丹羽 秀次

初めて青年学級の皆様とお会いしたのは、町田市のスポーツ大会でした。私は、卓球の試合のお手伝いをしていました。そこでは皆が試合に勝つことより心より楽しんでいる様に見えました。で

も決勝戦はさすがに素晴らしい試合でした。

そこには変な小細工等は無くて、力と力のぶつかり合いでした。我々のシニアの試合ではとても考えられません。

しばらくしてクリスマス会に参加しました。印象に残ったのは、青年の方が周知の者の様に私の名前を呼んでくれて、話し込んでくれることでした。その後の「成果発表会」では一人の青年と一日御一緒することになりました。その方の気持ちと同じ方向に行動することがとても楽しかったです。最後にお父さんと、お母さんと笑顔でエレベーターに乗って帰られました。「良かったな。」と思う気持ちが全てでした。

ひかり学級

樋田 五気

私は2017年6月よりひかり学級に参加しました。きっかけは、その担当職員である親戚に勧められたからです。

障がいのある人とは、小学校の頃、特別学級の児童と数えるほどしか交流した経験がなく、密接に関わることがなかったのでどうしても緊張は隠せませんでした。

しかし、実際に活動が始まると、青年の皆さんは私をこころよく受け入れてくれました。青年はとても元気で明るく、こちらの緊張も吹き飛ばすほどでした。

学級活動で調理、工作、話し合いなどを重ねるごとに青年たちとも仲良くなりました。彼らの長所、短所、個性が分かるほどに、青年は「少し特別な個性をもった普通の人」と感じるようになりました。

ただ、私の青年への接し方では今一つ彼らの要望に応えられない時がありました。それを先輩の担当者に相談したところ、青年を介助するのではなく「添う」ことを意識するというアドバイスをいただきました。それを聞き、それまでの私は、青年と同じ目線になれておらず、どこか上から目線で接していたのかもしれないと自分と恥じました。

ひかり学級を通じて、私の人生的観点が少な

らず変化したと感じています。まだまだ経験は浅いですが、今後も青年たちが楽しく活動できるよう頑張りますのでよろしくをお願いします。

松尾 彩音

私は障がい者青年学級のことは大学に入学してから初めて知りました。また、このような活動が市を母体に行われていることを今まで知りませんでした。活動内容については大学に貼ってあった募集のポスターしか見たことがなかったので、学級での詳しい活動やボランティアスタッフの仕事については参加してから知りました。

何の予備知識もない、障がい者の方ともちゃんと接したことのなかった私は、参加してから驚いたことがいくつかあります。

まず一つ目は学級の雰囲気です。参加前まではもっと淡々とした暗い活動なのではないかと勝手に思っていたのですが全く逆でした。ひかり学級には学級日を楽しみにしている方がとても多く、朝のつどいでの歌声、そして帰りのつどいでの歌声はその日の楽しかった気持ちを語るような元気な歌声です。聞いている私も毎回パワーをもらいました。また、青年たちにとって初めて会う人はストレスに感じてしまわないか、受け入れてくれるだろうか、参加する前まで余計なことをたくさん考えていましたが、全く心配いりませんでした。青年、先輩担当者、職員のみなさんは新参者の私をあたたく迎え入れてくださいました。

二つ目は青年たちの障がいについてです。知的障がいというものについての思いにいくつも勘違いがあったこと、また障がいについてひとくくりにしていたところがあったと知りました。私は青年に出会うまで、障がい者に対して「気に入らないと暴力に走る」「怒りやすい」などの偏見が少なからずありました。一人もいないとはいいいませんが、全員がそうと決めつけていたのは大きな間違いでした。障がい者ないし知的障がいについて他人事とし、自分の身近な出来事として考えたことがなかった何よりの証拠です。私は青年から聞く自分の話がとても好きで、青年とお昼休憩中に話をして笑いあう時間や、その中で青年の新しい一面を知る瞬間が楽しみでした。こういった楽しさ

は人との出会いの産物であると改めて感じます。青年学級では自分が出会ったことのない人物との出会いを多くもたらしてくれる貴重な場所だと思います。

やっと慣れ親しんだコースも解体し、新しくなった学級で活動していくことは少し不安ですが、このひかり青年学級での体験が大学生活の一部として、またこれからの将来にとって実りあるものになるよう一生懸命過ごしていきたいと思っています。

資料

年 表

町田市障がい者青年学級の歩み

1973年
(S. 48)

- 親の要求 → 障がい者のための青年学級
 ～非行に走らないように～
 ＊育成会 ＊福祉事務所ケースワーカー
 ＊社会教育課長 ＊精薄指導員
 ＊社会教育主事

- 準備期間 (社会教育主事)
 ◇ゆたか作業所 (名古屋) 訪
 ◇宮津青年学級 (京 都) 問

町田市障がい者青年学級準備会

- * 青年心理研究者 (1名)
- * 人形劇研究者 (1名)
- * 社会教育主事 (2名)
- * 社会教育関係者 (1名)

- ◇参加者募集
- ◇説明会
- ◇要領作成
- ◇映画上映
- ◇スタッフ募集

ねらい
 障がい者青年が豊かな生活を築くため、仲間たちと話し合ったり、学習したり、思いきり遊ぶなかで、生きる力や働く力を獲得することをめざす。

1974年
(S. 49. 11)

20名

一
年
目

時 間 割		
<各自の課題>	<人形劇作り>	<話し合い>
各自が学校卒業後の生活の中で「学びたいこと」	集団芸術活動を通しての集団化	青年自身のものとして、生きる力、働く力、自立心
数 学 国 語 技術工作 美 術 音 楽 手 芸	ねらい ①仲間づくり ②創造する喜びを集団で ③生活の見つめ直しと表現力育成	

- <担 当 者>
 ＊市内の教師 (5名)
 ＊福祉施設作業職員・児童学園職員 (3名)
 <行政職員>
 ＊ケースワーカー (2名)
 ＊社会教育主事 (1名)
 計11名

父母会誕生

月2回の青年学級予算が決まる

1975年
(S. 50)

32名

二
年
目

時 間 割		
<各自の課題>	<人形劇作り>	<話し合い>
数 学 国 語 技術工作 美 術 音 楽 手 芸	ねらい 思いきり体を動かす。	ねらい 自分の思っている事をはっきり言う。
☆ 小集団編成	生活班	
☆ 全員が役割	「よくばりこぐま」上演	
☆ 運営委員会		

- <担 当 者>
 ＊学生・市民 (12名)
 <行政職員>
 ＊社会教育主事 (1名)
 ＊社会教育職員 (1名)
 ＊ケースワーカー (2名)
 計16名
 ・健全者青年学級演劇コースに初めて2名参加
 (障がい者青年学級・健全者青年学級に両方参加)
 ・障がい者に対する差別観念のたたかい
 ・K・Yさんの家出
 ・テレビ出演問題 (76年2月)
 ↓
 ・文集づくり→ 文集委員 ↓

障がい
の多様化代

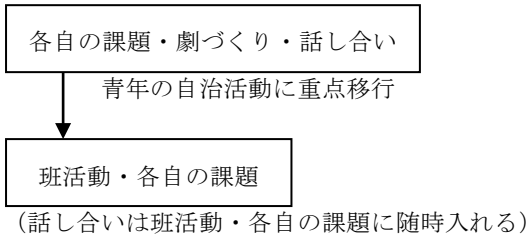
1976年 (S. 51) 37名	時 間 割			<ul style="list-style-type: none"> ・「通級可能な者」をとりはずす ・二学級制検討 <ul style="list-style-type: none"> ①数的増大 ②要求多様化 ③担当者の能力限界 父母との話し合い、青年の要求をふまえて
	三 年 目	<各自の課題> 数 学 美 術 国 語 技術工作 サイクリング 音 楽 手 芸 ↓ 手芸サークル化 (あみもの)	<人形劇作り> ねらい どうやって青年 を劇づくりの主 役にするか。 ☆要求別劇班 ①人間劇班 一言いたい事を読み合った ②オペレッタ班 一へっこき嫁さん→体を動かす ③かげえ班 一あわて床屋	
	☆ 運営委員会 (土曜午後) ☆ 実行委員会 (フェスティバル・クリスマス)			<ul style="list-style-type: none"> ・フェスティバル→学級として参加 ・生きがいコース・料理コースの検討
1977年 (S. 52) 42名	二 学 級 生 実 施			<担 当 者> *学生・市民 (15名) *地域青年 (2名) *人形劇団員 (1名) <行 政 職 員> *社会教育主事 (1名) *社会教育職員 (1名) *ケースワーカー (3名) 計23名
	☆ ねらいはくずさず、二学級別々に運営する。 ☆ 午後 (文化活動・話し合い) →生活班 四つの基礎集団 (一学級二班)			
	時 間 割			
四 年 目	<各自の課題> ① 手 芸 班 →サークル ② 手 芸 班 ① } 学 習 班 ② } ① } スポーツ班 ② } 音 楽 班	<人形劇作り> ねらい 集団としての自 治の高まり	<話 し 合 い>	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者の移行 <ul style="list-style-type: none"> ①任務分担 <ul style="list-style-type: none"> ・文化活動担当 ・条件整備担当 ・生活担当 ②かかわり方の明確化 ③学級主事 代表者会 } 設置
	改 築 の た め ↓ 町 田 第 一 中 学 校 へ	☆ 生活班としての劇づくり ①かしの木班「泣いた赤鬼」 — 友情 — 「人形劇」 ②ラーメン屋班「むぎひとつぶ」 — 青年の気持ちをひきだす — ③くりご班「ももたろう」 — 重たい人をどうまきこむか — ④ごろね班 — 感想をつづらせる — ○素材として劇は妥当かどうか		
青 年 の 多 様 化 (年 齢 障 害)	☆運営委員会 (やりたいもの学級運営にたずさわる) ☆実行委員会 (クリスマス会) 劇会ベース (担当者) では自治活動が積みあげられない。			

1978年
(S. 53)
49名

五年目

町田第一中学校
↓
公民館へ

3つに分かれた時間割りを2つに減らす



- ①集团的文化活動 劇づくり→行事を節に
- ②班→四つの基礎集団 (一学級二班)
- ③運営委員会 劇会→ 班長会・実行委員会へ

時間割

＜班活動＞午前	＜各自の課題＞午後
前半—キャンプ 後半—班ごとの活動 ①ペンペン草班 ・楽しみ仲間を意識し話し合いを成立させる ・お料理 ②デン助班 ・仲間を意識し、班活動を青年の手ですすめる ③トマト班 ・援助し合い、自治活動を高めよう ・ソフトボール ④ひゃっか店班 ・班員を知り、青年の手ですすめ、青年間で助け合う ・ソフトボール	手芸班 工作班 美術班 スポーツ班 国語班 算数班 音楽班 A・B学級の枠を超えて編成 養護学校生は、各自の課題のみ参加(疲れ、家族との関係の為) →午前・午後と集団の質の違い
☆ 班長の役割の不明確、青年の手で →担当者の援助方法・班のみの行動	

- ☆青年たちの要求
- ・自分たちの力でやりたい
 - ・ゆったりとした学級をやりたい
 - ・学習時間を長くしてほしい

積極的に受けとめ、ゆったりとした学級へ

- 担当者 → 学生増
(新旧交代)
代表者会 → 調整委員会へ
(担当者会で話しきれないもの)

- ＜担当者＞
- *在宅訪問事業 (2名)
 - *地域青年 (2名)
 - *人形劇団員 (1名)
 - *学生・市民 (14名)
- ＜行政職員＞
- *社会教育主事 (1名)
 - *社会教育職員 (1名)
 - *ケースワーカー (3名)
- 計24名
- 地域へ
- ・キャンプ →ゴボーの会
 - ・フェスティバル→日曜実行委員会
 - ・クリスマス会 →実行委員会
 - ・ソフトボール →健康者青年学級ゴボーの会
 - ・スケート →希望者
 - ・料理教室
- 送迎問題 → 運動方針出す
- 学級卒業 → 夜間中学へ1名

1979年
(S. 54)
54名

六年目

- ☆ A・B学級でまとまろう
- ☆ 青年の手による自主的な運営をめざす

時間割

＜班活動＞午前	＜各自の課題＞午後
○A学級 { フレンド班 バラ班 ○B学級 { ピンクレディ班 たんぼぼ班	・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 ・美術班 ・スポーツ班
<前期> ・キャンプを通して仲間意識、班意識、学級意識を高める ・キャンプの準備 (班内係・メニュー決め・調理実習)	

- ＜担当者＞
- *地域の専門家 (2名)
 - *訪問事業担当者 (2名)
 - *青年心理研究者 (1名)
 - *学生 (14名)
- ＜行政職員＞
- *ケースワーカー (2名)
 - *社会教育主事 (1名)
 - *社会教育職員 (1名)
- 計23名
- 地域の専門家に広がる

	<p><後期> 学級単位の活動 A タコづくり B レク・料理等班長会主導 ↓ 各班単位へ ・ピンクレディ班 — 野外活動・ゲーム ・たんぼぼ班 — 劇づくり ☆ 自治活動をすすめる上での共通体験、生活の広がりが必要 ☆ 重度の青年の発達過程をどう保障するか ☆ 成人（30代以上）にとっての課題は何か</p>	<p>○地域への広がり→クリスマス会 日曜学級、地域のサークル、金曜教室、 「交流会の意義を考える」 ○送迎問題→運動の視点から考える</p>				
<p>1980年 (S. 55) 50名</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">七 年 目</p>	<p>☆ ゆとりある活動の中で、生活経験を広げ、その上で自主的に活動する力を獲得する ☆ 重度の青年、成人たちへの課題を考え、独自のグループをつくる</p> <p style="text-align: center;">時 間 割</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;"><班 活 動>午前</th> <th style="width: 50%; text-align: center;"><各自の課題>午後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p><前期> A学級 コスモス班 成人班 B学級 ハ班 ニ班 喫茶店学習・ウォークラリー・薬師池ハイキング ・映画 9月合宿</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 ・美術班 ・スポーツ班</p> </td> </tr> </tbody> </table> <p style="margin-left: 20px;"> 生活と共にし、ゆったりした中で生活を語り合う 重度の青年と共に活動する </p> <p><後期> ☆ 重度の青年をどうするか、青年たちの投げかけ、その結論より、自主的な活動を展開していく ○ 重度の青年と共に活動していくか ↓ 「いっしょにやっぺいこう！」(全班一致) ※ 重度者グループの解体 活動内容 コスモス班 — 劇 ハ班 — はり絵 ニ班 — 劇とはり絵 ※ 成人班は独自の活動を行なう ・重度の青年に対する班、独自の課題での取り組みにおいて、課題が不明確だった ・班で中心となる青年の位置づけと、担当者の援助の問題 ・成人、重度者グループ編成の際、メンバー選定の問題</p>	<班 活 動>午前	<各自の課題>午後	<p><前期> A学級 コスモス班 成人班 B学級 ハ班 ニ班 喫茶店学習・ウォークラリー・薬師池ハイキング ・映画 9月合宿</p>	<p>・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 ・美術班 ・スポーツ班</p>	<p><担 当 者> *地域の専門家 (3名) *学生 (16名) <行政職員> *ケースワーカー(2名) *社会教育主事(1名) *社会教育職員(1名) *ひかり療育園指導員(1名) 計24名</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">父母会 (学習会)</p> <p>福祉事務所ケースワーカー近藤氏を招いての講演「障がい者の足の保障」</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">クリスマス会</p> <p>公民館事業からクリスマス会実行委員会主催に移行</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">文集づくり</p> <p>文集委員会が中心 文集の表題に「障害者青年学級」を入れることにより問題が起こった</p>
<班 活 動>午前	<各自の課題>午後					
<p><前期> A学級 コスモス班 成人班 B学級 ハ班 ニ班 喫茶店学習・ウォークラリー・薬師池ハイキング ・映画 9月合宿</p>	<p>・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 ・美術班 ・スポーツ班</p>					
<p>1981年 (S. 56) 54人</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">八 年 目</p>	<p>☆ 生活の見つめ直し(1年目) ☆ 表現活動(劇活動)への取り組み</p> <p style="text-align: center;">時 間 割</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;"><班 活 動>午前</th> <th style="width: 50%; text-align: center;"><各自の課題>午後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>A学級(班替え) ・ひまわり班 ・シクラメン班 ※成人班の解体</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班</p> </td> </tr> </tbody> </table>	<班 活 動>午前	<各自の課題>午後	<p>A学級(班替え) ・ひまわり班 ・シクラメン班 ※成人班の解体</p>	<p>・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班</p>	<p><担 当 者> *教育心理学の専門家(1名) *学生 (16名) *市民 (5名) <行政職員> *公民館職員(2名) *ケースワーカー(2名) *ひかり療育園職員(1名) 計27名</p>
<班 活 動>午前	<各自の課題>午後					
<p>A学級(班替え) ・ひまわり班 ・シクラメン班 ※成人班の解体</p>	<p>・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班</p>					

<p>B学級（班替えなし）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハ班 ・二班 <p><前期></p> <p>話し合い 仕事の悩み 家族の様子等</p> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観劇 ・プール <p><後期></p> <p>↓</p> <p>劇づくり 台本委員 (自主的な劇づくり)</p> <p>○ 生活上の抱えている問題を出し合う ○ 否定的側面が強調されすぎた ↓ 広く生活をとらえ直すことの必要性</p> <p>(注1) のびのび班—障がいの重い青年に必要な課題を特に設定したグループ。これは前年度班活動の中で取り組まれた重度者（からだほぐし）グループが発展的に解消されたもの。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・美術班 ・スポーツ班 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">重度者グループ</div> <p>→</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のびのび班（注1） <p>班長会</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・学級日 ・第4日曜日 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">地域へ</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい広場クリスマス会へ参加 ・自主的な学習サークル「すぎの子」誕生 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">送迎問題</div> <p>送迎委員会の再建</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいの公民館利用を考える ・公民館利用者懇談会参加 <p>「送迎を考える会」誕生</p>
---	--	--

<p>1982年 (S. 57) 52名</p>	<p>☆ 生活の見つめ直し（2年目）</p> <p>☆ 表現活動への取り組み</p> <p style="text-align: right;">※ 班替えなし（班名の変更）</p>	<p><担当者></p> <ul style="list-style-type: none"> *教育心理学の専門家（1名） *学生（11名） *市民（4名） <p><行政職員></p> <ul style="list-style-type: none"> *公民館職員（2名） *ケースワーカー（2名） *ひかり療育園職員（1名） <p style="text-align: right;">計21名</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">九 年 目</div>	<p>時 間 割</p>	
	<p><班 活 動>午前</p>	<p><各自の課題>午後</p>
	<p>A学級</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すみれ班 「～できる」という心 劇づくり（すみれヶ丘） ・さくら班 生活を広い領域でとらえ カードを文章化していく ことで、生活の自覚化・ 共有化をはかる <p>B学級</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハ班 「夢」を通して生活を見 つめる 劇づくり（ハ班の夢） ・スイートピー班 生活場面を表現する 劇づくり（13名の同窓会） <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・プール ・合宿 ・狛江との交流 </div> <p style="margin-top: 10px;">・班長会、実行委員会の役割が不明確</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 ・美術班 ・スポーツ班 ・のびのび班 <p>・班長会</p> <p>・実行委員会 (合宿、狛江との交流)</p>

十 年 目	1983年 (S. 58) 53名 ☆ 生活の見つめ直し(3年目) ☆ 青年の手による自主的な運営をめざす ☆ 新しい班で仲間を知り合う ☆ 表現活動への取り組み	<担当者> *教育心理学の専門家(1名) *学生(9名) *市民(8名) <行政職員> *公民館職員(3名) *ケースワーカー(2名) *ひかり療育園職員(1名) 計24名 <サークル活動> ・さなえサークル ・モンチッチ ・おなべの会 ・土曜学級 <送迎問題> 学級活動の一環としてとりくむ 担当者間で位置づけにバラつきがあった
	時 間 割	
	<班活動>午前 (班替え)	<各自の課題>午後
<前期> ↓ 話し合い [お互いに知り合う 仕事のこと 生活の悩み など] ↓ ・狛江との交流 ↓ ・プール <後期> ↓ ・合宿 ↓ ・もちつき大会 <表現活動> ↓ ・ガチャガチャ班(15名) — 人形劇づくり — 人形をとおして、自分を語り 自分の想いをアピールする ・チューリップ班(13名) — 歌づくり — 歌によって自分の意見や、思 いを表現する ・レモン班(13名) — 劇づくり — 自分たちの職場を紹介しあい お互いの理解を深める ・考える班(12名) — 劇づくり — 職場の実態や生活、そして 「仲間とは何か」を考える	・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 ・美術班 ・スポーツ班 ・のびのび班 <班長会> ・各班活動の情報交換 ・学級全体のことについて 話し合う ・行事の企画運営を行なう <実行委員会> ・狛江との交流会 ・合宿 ・もちつき大会	
十 一 年 目	1984年 (S. 59) 63名 ☆ 青年の自主的運営 ☆ 2年目の班で活動内容を深める ☆ 10周年行事、「とびたとう」発行を中心活動とする	<担当者> *教育心理学の専門家(1名) *学生(10名) *市民(6名) <行政職員> *公民館職員(2名) *ケースワーカー(2名) *ひかり療育園職員(1名) 計22名 <サークル活動> ・さなえサークル ・モンチッチ ・おなべの会
	時 間 割	
	<班活動>午前	<各自の課題>午後
<前期> ↓ ・2年目の班としての活動 ・狛江との交流 ・合宿 ・プール ↓ <後期> ↓ ・10周年記念行事 パーティー ・クリスマス会 ・もちつき大会 ↓ ・とびたとう ↓ ・ガチャガチャ班(17名) ガチャガチャ新聞	・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 ・美術班 ・スポーツ班 ・のびのび班 ・サイクリング班 <班長会> ・実行委員会と合同で行事の 進行をする	

	<ul style="list-style-type: none"> ・チューリップ班（14名） うた作り、絵 ・レモン班（14名） 文集「レモンの友だち」 ・考える班 自己表現—思ったことを を大声でいう 	<p><実行委員会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・狛江との交流会 ・合宿 ・10周年 ・クリスマス会 ・とびたとう 	<p><送迎問題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動の一環とする ・ハンディキャブの利用はじまる
<p>1985年 (S. 60) 57名</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">十二年目</div>	<p>☆ 生活づくり (コース制 1年目)</p> <p><コース別活動>全日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽コース ・文化芸術コース ・体づくりコース ・ものづくりコース ・生活コース ・自然コース <ul style="list-style-type: none"> ・班長会 ・狛江交流実行委員会 <p>(行事)</p> <p>プール 狛江との交流会 合宿 (水元青年の家) 公民館まつり</p>	<p><担当者></p> <ul style="list-style-type: none"> *教育心理学の専門家 (1名) *学生 (15名) *市民 (6名) <p><行政職員></p> <ul style="list-style-type: none"> *公民館職員 (2名) *ケースワーカー (2名) *ひかり療育園職員 (1名) <p style="text-align: right;">計27名</p> <p><サークル活動 ~地域へ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・さなえサークル ・モンチッチ ・おなべの会 ・ふれあいクリスマス会参加 ・公民館まつり 	
<p>1986年 (S. 61) 64名</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">十三年目</div>	<p>☆ 生活づくり・文化創造 (コース制 2年目)</p> <p><コース別活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽Aコース ・音楽Bコース ・文化・芸術コース ・健康・体づくりコース ・ものづくりコース ・生活コース ・自然コース <p><班長会></p> <p>実行委員会と同時進行</p> <p><実行委員会></p> <p>狛江との交流会 クリスマス会 とびたとう</p> <p><行事></p> <p>スポーツ大会 狛江交流会 合宿 (山中湖) 公民館まつり クリスマス会</p>	<p><担当者></p> <ul style="list-style-type: none"> *教育心理学の専門家 (1名) *学生 (15名) *市民 (6名) <p><行政職員></p> <ul style="list-style-type: none"> *公民館職員 (2名) *ケースワーカー (2名) *ひかり療育園職員 (1名) <p style="text-align: right;">計27名</p> <p><サークル活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・さなえサークル ・おなべの会 ・らくだバンド <p><地域へ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館まつり参加 ・ひまわり号参加 	
<p>1987年 (S. 62) 77名</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">十四年目</div>	<p>☆ 生活づくり・文化創造 (コース制 3年目)</p> <p><コース別活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽コース ・劇ミュージカルコース ・ものづくりコース ・健康・体づくりコース ・生活コース ・自然コース 	<p><担当者></p> <ul style="list-style-type: none"> *教育心理学の専門家 (1名) *学生 (16名) *市民 (3名) <p><行政職員></p> <ul style="list-style-type: none"> *公民館職員 (2名) *ケースワーカー (1名) *ひかり療育園職員 (1名) <p style="text-align: right;">計24名</p>	

	<p><班長会> 実行委員会と並行</p> <p><実行委員会> 狛江交流会（クリスマス会）</p> <p><行事> 合宿（山中湖）、公民館まつり 狛江交流会（クリスマス会） ※若葉とそよ風のハーモニーコンサート（町田）</p>	<p><地域へ> ・公民館まつり参加 ・ひまわり号参加</p> <p>※きらきら笑顔のメッセージコンサート参加（国立） ※若葉とそよ風のハーモニーコンサート参加（町田）</p>
<p>1988年 (S. 63) 83名</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 十五年目 </div>	<p>☆ 生活づくり・文化創造（コース制 4年目）</p> <p><コース別活動> ・音楽コース ・劇ミュージカルコース ・ものづくりコース ・健康からだづくりコース ・生活コース ・自然コース</p> <p><班長会> <新聞委員会> <狛江実行委員会></p> <p>（行事） 合宿（府中青年の家） 公民館まつり 狛江市青年学級との交流会 ※若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加</p>	<p><担当者> *教育心理学の専門家（1名） *作業所指導員（7名） *学生（9名） *市民（3名）</p> <p><行政職員> *公民館職員（2名） *ケースワーカー（1名） *ひかり療育園職員（1名） 計24名</p> <p><地域へ> ・公民館まつり参加 ・ひまわり号参加 ※若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加</p>
<p>1989年 (H. 1) 91名</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 十六年目 </div>	<p>☆ 生活づくり・文化創造（コース制 5年目）</p> <p><コース別活動> ・音楽①コース ・音楽②コース ・劇ミュージカルコース ・ものづくりコース ・健康からだづくりコース ・自然コース ※各コースで生活について考えていく</p> <p><班長会> クリスマス会実行委員会と並行</p> <p><新聞委員会> <とびたとう編集委員会></p> <p><行事> 合宿（府中青年の家） 公民館まつり ※若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加</p>	<p><担当者> *教育心理学の専門家（1名） *作業所指導員（10名） *学生（9名） *市民（2名）</p> <p><行政職員> *公民館職員（2名） *ケースワーカー（1名） *ひかり療育園指導員（1名） 計26名</p> <p><地域へ> 公民館まつり参加 ※若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加</p> <p><サークル活動> ・さなえサークル ・おなべの会</p>

1990年
(H. 2)
99名

十七
年
目

☆ 生活づくり・文化創造 (コース制 6年目)

<コース別活動>

- ・音楽①コース
- ・音楽②コース
- ・劇ミュージカルコース
- ・ものづくりコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<班長会>

<クリスマス会実行委員会>

<新聞委員会>

<行事>

合宿 (水元青年の家)

公民館まつり

※若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加

<担当者>

- *教育心理学の専門家 (1名)
- *作業所指導員 (9名)
- *学生 (7名)
- *市民 (5名)

<行政職員>

- *公民館職員 (3名)
 - *ケースワーカー (1名)
 - *ひかり療育園職員 (1名)
- 計27名

<地域へ>

公民館まつり参加

※若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<会場>

1～3月、公民館改修工事のため、町田第2小学校で通常学級活動を、成果発表会を地域センター (成瀬) でおこなう

1991年
(H. 3)
105名

十八
年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 二学級制 (公民館学級・ひかり学級)

*公民館学級 (コース制7年目)

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

合宿 (大地沢青少年センター)
公民館まつり

<班長会>

*ひかり学級

<班別活動>

- ・コスモス班
- ・ハチ公班
- ・コンドル班
- ・JR班

<行事>

合宿 (府中青年の家)
公民館まつり

<班長会>

<行事委員会>

<合同実行委員会>

- ・クリスマス会実行委員会
- ・とびたとう編集委員会

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<担当者>

- *教育心理学の専門家 (1名)
- *作業所指導員 (9名)
- *学生 (15名)
- *市民 (6名)

<行政職員>

- *公民館職員 (3名)
- *ひかり療育園指導員 (1名)

計35名

1992年

(H. 4)
118名

十九
年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 二学級制 (公民館学級・ひかり学級)

*公民館学級 (コース制8年目)

<コース別活動>	<行事>	<班長会>
・音楽コース	合宿 (山中湖)	
・劇ミュージカルコース	公民館まつり	
・健康からだづくりコース		
・自然コース		
・生活コース		

*ひかり学級 (コース制1年目)

<コース別活動>	<行事>	<班長会>
・音楽コース	合宿 (山中湖)	
・健康からだづくりコース	公民館まつり	
・自然コース		
・生活コース		

<合同実行委員会>	<担当者>
・クリスマス会実行委員会 ・とびたとう編集委員会	*教育心理学の専門家 (1名)
	*作業所指導員 (9名)
<サークル活動>	*学生 (18名)
・さなえサークル ・おなべの会 ・音楽サークル	*市民 (6名)
	<行政職員>
<地域へ>	*公民館職員 (3名)
※共作連全国大会「うたごえ東京」(ペイNKホール)に参加	*ひかり療育園指導員 (1名)
※若葉とそよ風のハーモニー合唱団「芸術祭 おまつり広場」(都庁ホール)に参加	計38名

1993年

(H. 5)
131名

二十
年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 二学級制 (公民館学級・ひかり学級)

*公民館学級 (コース制9年目)

<コース別活動>	<行事>	<班長会>
・音楽コース	合宿 (長野県川上村)	<新聞委員会>
・劇ミュージカルコース	公民館まつり	
・健康からだづくりコース	クリスマス会	
・自然コース		
・生活コース		

*ひかり学級 (コース制2年目)

<コース別活動>	<行事>	<班長会>
・音楽コース	合宿 (長野県川上村)	<新聞委員会>
・劇ミュージカルコース	公民館まつり	
・健康からだづくりコース	クリスマス会	
・自然コース		
・ものづくりコース		

<サークル活動>	<担当者>
・さなえサークル	*教育心理学の専門家 (1名)
・おなべの会	*作業所指導員 (9名)
	*学生 (14名)
<地域へ>	*市民 (23名)
※第5回若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加	<行政職員>
	*公民館職員 (3名)
	*ひかり療育園指導員 (1名)
	計51名

1994年
(H. 6)
141名

二十一年目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 二学級制 (公民館学級・ひかり学級)

*公民館学級 (コース制10年目)

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

- 合宿 (水元青年の家)
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>

*ひかり学級 (コース制3年目)

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活ものづくりコース

<行事>

- 合宿 (水元青年の家)
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>

<喫茶のぞみ>

20周年記念行事 (昼) 健康福祉会館…20周年記念行事実行委員会
20周年記念パーティ (夜) ホテル・ザ・エルシー…20周年記念パーティ実行委員会

<担当者>

- *教育心理学の専門家 (1名)
- *作業所指導員 (9名)
- *大学院生 (1名)
- *学生 (12名)
- *市民 (24名)
- <行政職員>
- *公民館職員 (3名)
- *公民館嘱託職員 (1名)
- 計51名

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<地域へ>

※第6回若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加

1995年
(H. 7)
152名

二十二年目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 二学級制 (公民館学級・ひかり学級)

*公民館学級 (コース制11年目)

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

- 合宿 (大地沢青少年センター)
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>

*ひかり学級 (コース制4年目)

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

- 合宿 (大地沢青少年センター)
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>

<喫茶のぞみ>

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<地域へ>

※第7回若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加

<担当者>

- *教育心理学の専門家 (1名)
- *施設職員 (8名)
- *学生 (18名)
- *市民 (27名)
- <行政職員>
- *公民館職員 (4名)
- 計58名

1996年
(H. 8)
162名

二十三年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 二学級制 (公民館学級・ひかり学級)

*公民館学級 (コース制12年目)

<コース別活動>

- ・音楽ハッピーコース
- ・音楽トマトバナナコース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース
- ・新聞づくりコース

<行事>

- 合宿 (大地沢青少年センター)
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

*ひかり学級 (コース制5年目)

<コース別活動>

- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース
- ・人形劇づくりコース

<行事>

- 合宿 (大地沢青少年センター)
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

- <新聞委員会>
- <喫茶のぞみ>

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<担当者>

- *教育心理学の専門家 (1名)
- *施設職員 (8名)
- *学生 (14名)
- *市民 (39名)
- <行政職員>
- *公民館職員 (4名)

計66名

1997年
(H. 9)
169名

二十四年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

*公民館学級 (コース制13年目)

<コース別活動>

- ・うさぎミュージカルコース
- ・チャンピオンバンドコース
- ・抱きしめたいコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

- 合宿 (大地沢青少年センター)
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

<つどい委員会>

*ひかり学級 (コース制6年目)

<コース別活動>

- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース
- ・人形劇づくりコース

<行事>

- 合宿 (大地沢青少年センター)
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

- <新聞委員会>
- <喫茶のぞみ>

*土曜学級 (班制1年目)

<班別活動>

- ・あじさい班
- ・コスモス班
- ・スピッツ班

<行事>

- 合宿 (青梅青年の家)
- 公民館まつり
- 新年会

<班長会>

<新年会実行委員会>

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<地域へ>

※第8回若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加

<担 当 者>
 *教育心理学の専門家 (1名)
 *社会教育職員 (1名)
 *施設職員 (8名)
 *学生 (20名)
 *市民 (38名)
 <行 政 職 員>
 *公民館職員 (4名)
 計72名

1998年
 (H. 10)
 182名

二
 十
 五
 年
 目

☆ 生活づくり・文化創造
 ☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)
 *公民館学級 (コース制14年目)
 <コース別活動> <行事> <班長会>
 ・ものづくりコース 合宿 (大地沢青少年
 ・Jバンドコース センター)
 ・ブロード・スマイルコース 公民館まつり
 ・健康からだづくりコース クリスマス会
 ・自然コース
 ・生活コース
 *ひかり学級 (コース制7年目)
 <コース別活動> <行事> <班長会>
 ・劇ミュージカルコース 合宿 (大地沢青少年
 ・健からオールスターズコース センター)
 ・さんぽでけんからコース 公民館まつり
 ・生活コース クリスマス会
 ・自然コース
 *土曜学級 (班制2年目)
 <班別活動> <行事> <班長会>
 ・ひまわり班 合宿 (青梅青年の家)
 ・トマト班 公民館まつり
 ・トトロ班 新年会
 <サークル活動> <担 当 者>
 ・さなえサークル *教育心理学の専門家 (1名)
 ・おなべの会 *施設職員 (14名)
 *学生 (21名)
 *市民 (38名)
 <地域へ> <行 政 職 員>
 ※第9回若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加 *公民館職員 (4名)
 計78名

1999年
 (H. 11)
 192名

二
 十
 六
 年
 目

☆ 生活づくり・文化創造
 ☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)
 *公民館学級 (コース制15年目)
 <コース別活動> <行事> <班長会>
 ・パフィーコース 合宿 (大地沢青少年
 ・ミッキーコース センター)
 ・ラビッツコース (バンド) 公民館まつり
 ・ひまわりコース クリスマス会
 ・自然オレンジーズコース
 ・生活コース

*ひかり学級（コース制8年目）

<コース別活動>

- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・ものづくりコース
- ・生活コース
- ・自然コース

<行事>

- 合宿（大地沢青少年センター）
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

- <新聞委員会>
- <喫茶のぞみ>
- <とびたとう編集委員会>
- <行事委員会>

*土曜学級（班制3年目）

<班別活動>

- ・スイートピー班
- ・スマップ班
- ・ミッキーコースター班

<行事>

- 合宿（青梅青年の家）
- 公民館まつり
- 新年会

<班長会>

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<担当者>

- *教育心理学の専門家（1名）
- *施設職員（14名）
- *学生（21名）
- *市民（30名）
- <行政職員>
- *公民館職員（4名）

計70名

2000年

(H. 12)

188名

二
十
七
年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

*公民館学級（コース制16年目）

<コース別活動>

- ・ストロベリーコース
- ・健康からだづくりコース
- ・キッカーズコース（バンド）
- ・ものづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

- 合宿（大地沢青少年センター）
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

- <つどい委員会>

*ひかり学級（コース制9年目）

<コース別活動>

- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・ものづくりコース
- ・生活コース
- ・自然コース

<行事>

- 合宿（大地沢青少年センター）
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

- <新聞委員会>
- <喫茶のぞみ>
- <とびたとう編集委員会>
- <行事委員会>

*土曜学級（班制4年目）

<班別活動>

- ・ひまわり班
- ・のぞみ班
- ・すずらん班
- ・さくらんぼ班

<行事>

- 合宿（狭山青年の家）
- 公民館まつり
- 年忘れ大運動会&
- クリスマス会

<班長会>

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<担当者>

- *教育心理学の専門家（1名）
- *施設職員（14名）
- *学生（21名）
- *市民（28名）
- <行政職員>
- *公民館職員（4名）

計68名

2001年
(H. 13)
185名

二十八年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

*公民館学級 (コース制17年目)

<コース別活動>	<行事>	<班長会>
・はいくキングコース	合宿 (大地沢青少年センター)	<つどい委員会>
・健康からだづくりコース		
・うたダンスミュージカルコース	公民館まつり	
・ものづくりコース	クリスマス会	
・町田たんけんコース		
・生活コース		

*ひかり学級 (コース制10年目)

<コース別活動>	<行事>	<班長会>
・劇ミュージカルコース	合宿 (大地沢青少年センター)	<新聞委員会>
・健康からだづくりコース		<喫茶のぞみ>
・ものづくりコース	公民館まつり	<行事委員会>
・生活コース	クリスマス会	
・自然コース		

*土曜学級 (班制5年目)

<班別活動>	<行事>	<班長会>
・うたとゆめ班	合宿 (狭山青年の家)	<つどい委員会>
・つばさ班	公民館まつり	
・あさぎり班	新年会	
・うさぎ班		

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<担当者>

- *学生・市民 (60名)
- <行政職員>
- *公民館職員 (4名)

計64名

2002年
(H. 14)
183名

二十九年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

*公民館学級 (コース制18年目)

<コース別活動>	<行事>	<班長会>
・健康からだづくりコース	合宿 (大地沢青少年センター)	<つどい委員会>
・あさがおコース		
・ももコース	公民館まつり	
・ものづくりコース	クリスマス会	
・自然コース		
・生活コース		

*ひかり学級 (コース制11年目)

<コース別活動>	<行事>	<班長会>
・劇ミュージカルコース	合宿 (大地沢青少年センター)	<新聞委員会>
・健康からだづくりコース		<喫茶のぞみ>
・ものづくりコース	公民館まつり	<行事委員会>
・生活コース	クリスマス会	
・自然コース		

*土曜学級 (班制6年目)

- <班別活動>
- ・あるき班
 - ・らくだものづくり班
 - ・ブギウギ班
 - ・ブルースカイ班

- <行事>
- 合宿（狭山青年の家）
 - 公民館まつり
 - 新年会

- <班長会>
- <つどい委員会>

- <サークル活動>
- ・さなえサークル
 - ・おなべの会

- <担当者>
- *学生・市民 (61名)
- <行政職員>
- *公民館職員 (4名)
- 計65名

2003年
(H. 15)
181名

三十
年
目

- ☆ 生活づくり・文化創造
- ☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

*公民館学級（コース制19年目）

<コース別活動>

- ・健康からだづくりコース
- ・トマバナミュージカルコース
- ・ニコニコバンドコース
- ・ものづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

- 合宿（大地沢青少年センター）
- 公民館まつり
- クリスマス会

- <班長会>
- <つどい委員会>

*ひかり学級（コース制12年目）

<コース別活動>

- ・劇・ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・企画づくりコース
- ・生活コース
- ・自然コース

<行事>

- 日帰りハイキング（府中郷土の森）
- 公民館まつり
- クリスマス会

- <班長会>
- <新聞委員会>
- <つどい>

*土曜学級（班制7年目）

<班別活動>

- ・ストロベリージャンプ班
- ・にじ班
- ・生活をつくる班
- ・ひまわり班

<行事>

- 合宿（水元青年の家）
- 公民館まつり
- 冬のイベント

- <班長会>
- <つどい委員会>

<サークル活動>

- ・おなべの会
- ・（仮称）共同学習識字の会

- <担当者>
- *学生・市民 (61名)
- <行政職員>
- *公民館職員 (4名)
- 計65名

2004年
(H. 16)
193名

三十
一
年
目

- ☆ 生活づくり・文化創造
- ☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

*公民館学級（コース制20年目）

<コース別活動>

- ・健康からだづくりコース
- ・スマイルコース
- ・ジャニーズコース
- ・ピンクガーデンコース
- ・ものづくりコース
- ・コスモス人生コース

<行事>

- 公民館まつり
- クリスマス会

- <班長会>
- <つどい委員会>

*ひかり学級（コース制13年目）

<コース別活動>

<行事>

- <班長会>

- ・スポーツ&ハイキングコース 合宿（大地沢青少年センター） <新聞委員会>
- ・ハイキングするコース 公民館まつり <つどい委員会>
- ・企画づくりコース クリスマス会
- ・音舞団
- ・さつまいも南アルプスハイジコース

*土曜学級（班制8年目）

- | | | |
|-----------------|------------|----------|
| <班別活動> | <行事> | <班長会> |
| ・そら班 | 合宿（水元青年の家） | <つどい委員会> |
| ・ズームイン班 | 公民館まつり | |
| ・ハートおんぷ班 | 新年会 | |
| ・Shooting Star班 | | |

- | | |
|----------------|--------------|
| <サークル活動> | <担当者> |
| ・おなべの会 | *学生・市民 (60名) |
| ・(仮称) 共同学習識字の会 | <行政職員> |
| ・とびたつ会 | *公民館職員 (4名) |
| | 計64名 |

2005年

(H.17)

☆ 生活づくり・文化創造

196名

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

三
十
二
年
目

◇全体行事

- ・東京都障がい者スポーツ大会
- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・公民館まつり
- ・秋合宿（大地沢青少年センター）

◇学級別活動

*公民館学級（コース制21年目）

- | | | |
|--------------------|-----------|---------|
| <コース別活動> | <学級内代表活動> | <行事> |
| ・イルカさかなコース | ・班長会 | ・クリスマス会 |
| ・ものコース | ・新聞委員会 | ・忘年会 |
| ・やりたいことと暮らしを考えるコース | | |
| ・ジャーニーオレンジコース | | |
| ・さくらコース | | |
| ・すまいるミュージカルコース | | |

*ひかり学級（コース制14年目）

- | | | |
|----------------|-----------|---------|
| <コース別活動> | <学級内代表活動> | <行事> |
| ・おいしいたべものコース | ・班長会 | ・クリスマス会 |
| ・みんなでGO!!コース | ・つどい委員会 | |
| ・ダンス&ミュージックコース | | |
| ・歩くんです。コース | | |
| ・ザ・家庭と暮らしコース | | |

*土曜学級（班制9年目）

- | | | |
|------------|-----------|------|
| <班別活動> | <学級内代表活動> | <行事> |
| ・ハッスル班 | ・班長会 | ・忘年会 |
| ・キネマゴーゴー班 | ・つどい委員会 | ・新年会 |
| ・のりものでゴー！班 | | |

- ・ F 班
- ・ ちっちゃいお店班

◇学級外のサークル活動

- ・ おなべの会
- ・ とびたつ会

担当者	63名
公民館職員	4名

2006年

(H. 18)

☆ 生活づくり・文化創造

188名

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

三十三年目

◇全体行事

- ・ 東京都障がい者スポーツ大会
- ・ 町田市障がい者スポーツ大会
- ・ 公民館まつり
- ・ 秋合宿 (大地沢青少年センター)

◇学級別活動

*公民館学級 (コース制22年目)

<コース別活動>

- ・ イルカキラキラソナタミュージカルコース
- ・ ものぷーさんコース
- ・ やりたいことと暮らしを考えるコース
- ・ 自然まんきつコース
- ・ みんなでGOコース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ クリスマス会

*ひかり学級 (コース制15年目)

<コース別活動>

- ・ ライブクリップコース
- ・ みんなのものづくり隊コース
- ・ 自分で自分コース
- ・ レッツゴーハイキングコース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ 新年会

*土曜学級 (班制10年目)

<班別活動>

- ・ ねこバス班
- ・ ドレミ班
- ・ グルメハイキング班
- ・ 夢新聞班
- ・ イルカ班

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ 新年会

◇学級外のサークル活動

- ・ おなべの会
- ・ とびたつ会

担当者	63名
公民館職員	4名

2007年

(H. 19)

☆ 生活づくり・文化創造

176名

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

◇全体行事

- ・東京都障がい者スポーツ大会
- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・公民館まつり
- ・秋合宿（大地沢青少年センター）
- ・バスハイク（こどもの国）

◇学級別活動

*公民館学級（コース制23年目）

- <コース別活動>
 生活とやりたいことを考えるコース
 ポンタコース
 劇団キャッツアイ
 みんなでチャレンジコース
 つばめコース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・クリスマス会

*ひかり学級（コース制16年目）

- <コース別活動>
 GO!GO!チャレンジコース
 富士山コース
 ひまわり・コスモスコース
 ミュージックコース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・クリスマス会

*土曜学級（班制11年目）

- <班別活動>
 ハッピー班
 空色美術班
 ホットなごみ班
 キラキラ班
 レインボー班

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・新年会

◇学級外のサークル活動

- ・おなべの会
- ・とびたつ会

担当者	63名
（学級日当日担当者）	13名）
公民館職員	4名

※ 学級日当日担当者の制度を
新設しました

2008年

(H. 20)

☆ 生活づくり・文化創造

173名

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

◇全体行事

- ・東京都障がい者スポーツ大会
- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・公民館まつり
- ・秋合宿（大地沢青少年センター）

◇学級別活動

*公民館学級（コース制24年目）

- <コース別活動>
 生活とやりたいことを考えるコース

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・クリスマス会

パンダコース
ブルースコース
フレンズドリームコース
ものピカソコース

・つどい委員会

*ひかり学級（コース制17年目）

<コース別活動>

スポガイGO!GO!コース
にじいろ・たいようコース
GO!GO!ハイキングコース
音楽&とびたとうコース
ひまわりコース

<学級内代表活動>

・班長会
・つどい委員会

<行事>

・クリスマス会

*土曜学級（班制12年目）

<班別活動>

ドンドン班
アドベンチャー班
アリス班
ほしとひまわり班
うんどうすぼ一つ班

<学級内代表活動>

・班長会
・つどい委員会

<行事>

・新年会

◇学級外のサークル活動

・おなべの会
・とびたつ会

担当者	67名
(学級日当日担当者)	19名
公民館職員	3名

2009年

(H. 21) ☆ 生活づくり・文化創造

169名 ☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

三十六年目

◇全体行事

・東京都障がい者スポーツ大会
・公民館まつり
・秋合宿（大地沢青少年センター）

◇学級別活動

*公民館学級（コース制25年目）

<コース別活動>

ROBOTコース
作品づくりコース
ドリームレインボーコース
生活とやりたいことを考えるコース
ルーキーズコース

<学級内代表活動>

・班長会
・つどい委員会

<行事>

・クリスマス会

*ひかり学級（コース制18年目）

<コース別活動>

みんなの手コース
元気あいじょうコース
ステージJコース
フラワー・ヤッホーコース
企画チャレンジコース

<学級内代表活動>

・班長会
・つどい委員会

<行事>

・クリスマス会

*土曜学級（班制13年目）

<班別活動>

- ラッキー班
- あるくものづくり班
- ピッピスポーツ班
- チャレンジ班
- キラキラげんき班

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・新年会

担当者	81名
(学級日当日担当者)	13名
公民館職員	3名

◇学級外のサークル活動

- ・おなべの会
- ・とびたつ会

2010年

(H. 22)

☆ 生活づくり・文化創造

178名

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

三十七年目

◇全体行事

- ・ 東京都障がい者スポーツ大会
- ・ 町田市障がい者スポーツ大会
- ・ 公民館まつり
- ・ 秋合宿（大地沢青少年センター）

◇学級別活動

* 公民館学級（コース制26年目）

<コース別活動>

- ・ スターウォーズコース
- ・ ひまわりコース
- ・ オールスターコース
- ・ ゆめをみようコース
- ・ ミュージカルインストルメンツコース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ クリスマス会

* ひかり学級（コース制19年目）

<コース別活動>

- ・ スポーツドリームコース
- ・ 冒険散歩コース
- ・ 星のつばさコース
- ・ ラベンダーのかなたへコース
- ・ あじさいコース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会

<行事>

- ・ 20周年記念イベント

* 土曜学級（班制14年目）

<班別活動>

- ・ ビクトリー班
- ・ ステップでどん班
- ・ ニコニコお祭り班
- ・ ぞうさんのあくび班

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ 新年会

◇学級外のサークル活動

- ・ とびたつ会
- ・ おなべの会

担当者	73名
(学級日当日担当者)	21名
公民館職員	3名

2011年

(H. 23)

186名

三十八年目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

◇全体行事

- ・ 町田市障がい者スポーツ大会
- ・ 公民館まつり
- ・ 秋合宿 (大地沢青少年センター)

◇学級別活動

* 公民館学級 (コース制27年目)

<コース別活動>

- ・ ハピネスクローバー コース
- ・ ダンシングミュージカル コース
- ・ 銀河鉄道999 コース
- ・ みんなのあかり コース
- ・ きずな コース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ クリスマス会

* ひかり学級 (コース制20年目)

<コース別活動>

- ・ 探検ハト コース
- ・ 健康スポーツ コース
- ・ レッドビッキーズ
- ・ パンダ コース
- ・ パフォーマンスアカデミー コース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会

<行事>

- ・ クリスマス会

* 土曜学級 (班制15年目)

<班別活動>

- ・ ひまわり 班
- ・ げきだんランランロック 班
- ・ ハッピーミュージック 班
- ・ ワクワク体験 班
- ・ お陽さまごつつんこ 班

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ 新年会

◇学級外のサークル活動

- ・ とびたつ会
- ・ おなべの会

担当者	82名
(学級日当日担当者)	23名)
公民館職員	3名

2012年

(H. 24)

183名

三十九年目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

◇ 全体行事

- ・ 東京都障がい者スポーツ大会
- ・ 町田市障がい者スポーツ大会
- ・ 生涯学習センターまつり
- ・ 秋合宿 (大地沢青少年センター)

◇ 学級別活動

* 公民館学級（コース制28年目）

<コース別活動>

- ・ コンサート♪ コース
- ・ みんなのあかり コース
- ・ 健康・体力づくり コース
- ・ 劇団 宇宙のかがやき コース
- ・ ギブア・ハピネススクローバー・トゥ・ビーナス コース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ クリスマス会

* ひかり学級（コース制活動21年目）

<コース別活動>

- ・ 笑顔&ミュージカル コース
- ・ スマイル コース
- ・ ひまわりものづくり コース
- ・ 愛情料理 コース
- ・ さんぼ コース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会

<行事>

- ・ クリスマス会

* 土曜学級（班制16年目）

<班別活動>

- ・ はくちょうで野球しようぜ 班
- ・ ラビットグルメ 班
- ・ なんでもチャレンジ 班
- ・ やったねストライク 班
- ・ ムーンランド♥ドラエモンバンド 班

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ 新年会

◇ 学級外のサークル活動

- ・ とびたつ会
- ・ おなべの会
- ・ スケッチ・ルーム

担当者	77名
(学級日当日担当者)	32名)
生涯学習センター職員	3名

2013年
(H.25)
183名

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

◇全体行事

- ・ 東京都障害者スポーツ大会（フットベースボール）
- ・ 町田市障がい者スポーツ大会
- ・ 生涯学習センターまつり（展示・舞台）

◇学級別活動

※ 公民館学級（コース制29年目）

<コース別活動>

- ・ みんなのゆめ コース
- ・ みんなのあかりコース 2013
- ・ ヘルス・パワーアップ コース
- ・ 夢よびたい コース
- ・ ものづくり コース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ 合宿
(大地沢青少年センター)
- ・ クリスマス会

※ ひかり学級（コース制活動22年目）

<コース別活動>

- ・ みんなのいのち コース
- ・ ハッピースポーツ探検さんぼ コース
- ・ メニーハンズ コース
- ・ うさぎのダンス コース
- ・ ふれあいのぞみ コース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会

<行事>

- ・ バスハイク
(こどもの国)
- ・ クリスマス会

※ 土曜学級（班制17年目）

<班制活動>

- ・みどりのはっぱとたんぼぼ 班
- ・じぇじぇじぇ！あじさいだー 班
- ・ラビット・ミッフィー・ドルフィン 班
- ・ひまわり 班
- ・住・行（考） 班

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・合宿
（大地沢青少年センター）
- ・新年会

◇ 学級外のサークル活動

- ・ とびたつ会
- ・ おなべの会
- ・ スケッチ・ルーム

担当者	73名
（うち学級日当日担当者	26名）
生涯学習センター職員	4名

2014年

(H.26)
182名

四十一年目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

◇全体行事

- ・東京都障害者スポーツ大会（フットベースボール）
- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・生涯学習センターまつり（展示・舞台）
- ・青年学級40周年記念式典

◇学級別活動

※ 公民館学級（コース制30年目）

<コース別活動>

- ・こころ夢 コース
- ・はれの日 コース
- ・わたしたちのみらい コース
- ・スマイルヘルスアップ コース
- ・カリビアン コース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・合宿
（大地沢青少年センター）
- ・クリスマス会

※ ひかり学級（コース制23年目）

<コース別活動>

- ・世界にひとつだけの花 コース
- ・江ノ島かまがわ水族館 コース
- ・元気はつらつ夏椿 コース
- ・トトロミュージック コース
- ・イベント・ドリーム コース

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・バスハイク
（よこはま動物園ズーラシア）
- ・新年会

※ 土曜学級（班制18年目）

<班制活動>

- ・青空クローバー 班
- ・ギターとラップと夢とともだち 班
- ・健康グルメ 班
- ・あまちゃん 班
- ・生活まじめ 班

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・日帰り旅行
（江ノ島）
- ・新年会

◇ 学級外のサークル活動

- ・ とびたつ会
- ・ おなべの会
- ・ スケッチ・ルーム

担当者	71名
（うち学級日当日担当者	22名）
生涯学習センター職員	4名

2015年

☆ 生活づくり・文化創造

(H. 27)

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

174名

四十二年目

◇全体行事

- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・生涯学習センターまつり (展示・舞台)

◇学級別活動

※ 公民館学級 (コース制31年目)

<コース別活動>

- ・楽器大好き コース
- ・ものづくり コース
- ・わたしたちのみらい コース
- ・ケンカラ コース
- ・劇・ミュージカル コース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・合宿 (大地沢青少年センター)
- ・クリスマス会

※ ひかり学級 (コース制24年目)

<コース別活動>

- ・にじスマイル コース
- ・強くて負けないスーパー電車 スポーツコース1・2・3
- ・小さなしあわせ すみれ コース
- ・ミュージカル・ダンス コース
- ・おでかけ料理 コース

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・日帰り旅行 (江ノ島)
- ・新年会

※ 土曜学級 (班制19年目)

<班制活動>

- ・ハッピーブルー 班
- ・みんな元気スポーツ 班
- ・楽しいイベント 班
- ・あじさいものづくり48 班

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・合宿 (大地沢青少年センター)
- ・新年会

◇ 学級外のサークル活動

- ・とびたつ会
- ・おなべの会
- ・スケッチ・ルーム

担当者	71名
(うち学級日当日担当者)	22名)
生涯学習センター職員	5名

2016年

☆ 生活づくり・文化創造

(H. 28)

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

171名

四十三年目

◇全体行事

- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・生涯学習センターまつり (展示・舞台)

◇学級別活動

※ 公民館学級 (コース制32年目)

<コース別活動>

- ・抱きしめたい心 コース
- ・ものづくり コース
- ・生活とくらしを考える コース
- ・炎のファイト! 健康からだづくり コース
- ・あおのなかま コース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・合宿 (大地沢青少年センター)
- ・クリスマス会

※ ひかり学級 (コース制25年目)

<コース別活動>

- ・ふれあいをつくっていく コース

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・日帰り旅行

- ・無敵最強スポーツ コース
- ・ひまわり味彩大作戦 コース
- ・コスマリッパ劇ダンス コース

(藤野芸術の家)
・クリスマス会

※ 土曜学級 (班制20年目)

<班制活動>

- ・ハッピーブルー 班
- ・みんな元気スポーツ 班
- ・楽しいイベント 班
- ・あじさいものづくり48 班

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・日帰り旅行
(みなとみらい)
- ・新年会

◇ 学級外のサークル活動

- ・とびたつ会
- ・おなべの会
- ・スケッチ・ルーム

担当者	64名
(うち学級日当日担当者)	26名)
生涯学習センター職員	6名

2017年

(H. 29)

171名

四
十
四
年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

◇全体行事

- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・生涯学習センターまつり (展示・舞台)

◇学級別活動

※ 公民館学級 (コース制33年目)

<コース別活動>

- ・なでしこ コース
- ・たんぽぽ コース
- ・よりみち コース
- ・エビカニクス コース
- ・自由カンガルー コース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・合宿
(大地沢青少年センター)
- ・クリスマス会

※ ひかり学級 (コース制26年目)

<コース別活動>

- ・花 コース
- ・虹ドリームアンド創作 コース
- ・何でも最強スポーツ コース
- ・お出かけ料理 コース

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・日帰り旅行
(みなとみらい)
- ・クリスマス会

※ 土曜学級 (班制21年目)

<班制活動>

- ・ハワイと虹 班
- ・トーマスレインボースポーツ 班
- ・一刀両断 班
- ・トレンドィものづくり 班

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・日帰り旅行
(みなとみらい)
- ・新年会
- ・20周年記念式典

◇ 学級外のサークル活動

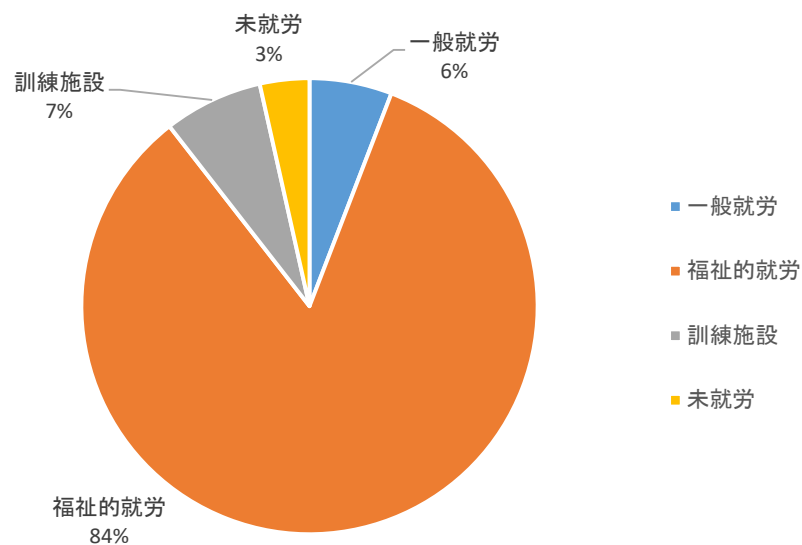
- ・とびたつ会
- ・おなべの会
- ・スケッチ・ルーム

担当者	64名
(うち学級日当日担当者)	27名)
生涯学習センター職員	4名

☆学級生の就労状況

未就労	6	福祉的就労	町田おかしの家	1	
		アールフィールド	3	町田かたつむりの家	5
一般就労		赤い屋根	3	町田リス園	2
特例子会社	2	大賀藕絲館	19	メイクⅡ	1
リネンサプライ	1	かがやき	19	森工房	1
菓子工場	1	喫茶けやき	2	ゆめ工房	1
木・紙製品製造	1	共働学舎	6	ラ・まの	6
理容・美容	1	くず葉学園	1	ワークステーション立川	1
園芸	1	こころみ農園	2	訓練施設	
設計事務所	2	サポートセンター町田とも	5	島田療育センター	1
衣料販売	1	シャロームの家	4	ひかり療育園	2
		スワン・ベーカリー	3	プラスアルファ	1
		地の星	6	町田生活実習所	4
		つるかわ学園	5	町田福祉園	2
		つるかわ学園職業準備支援センター	1	わさびだ療育園	2
		なないろ	14		
		ニースセンター花の家	13		
		白峰会	1		
		花の郷	6		
		美術工芸館	5		
		プラスアルファ	6		
		ボア・アルモニー	1		

就労・通所状況



☆学級生の持っている手帳

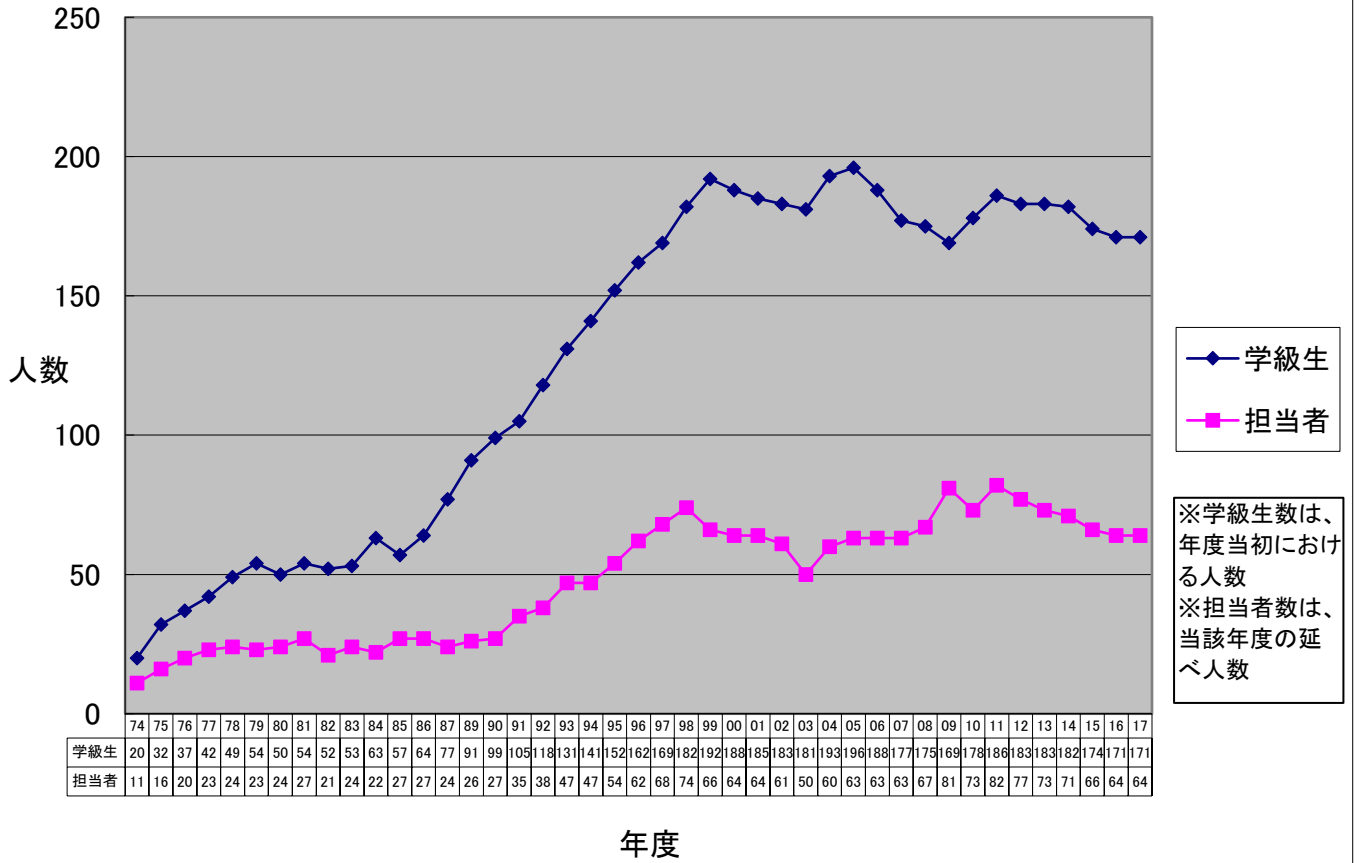
愛の手帳(療育手帳)

		1度	2度	3度	4度	計
公民館学級	男		19	15	6	40
	女		9	11	3	23
ひかり学級	男	0	12	18	2	32
	女	1	12	10	1	24
土曜学級	男	2	17	18	3	40
	女	0	6	4	1	11
計	男	2	48	51	11	112
	女	1	27	25	5	58
総計		3	75	76	16	170

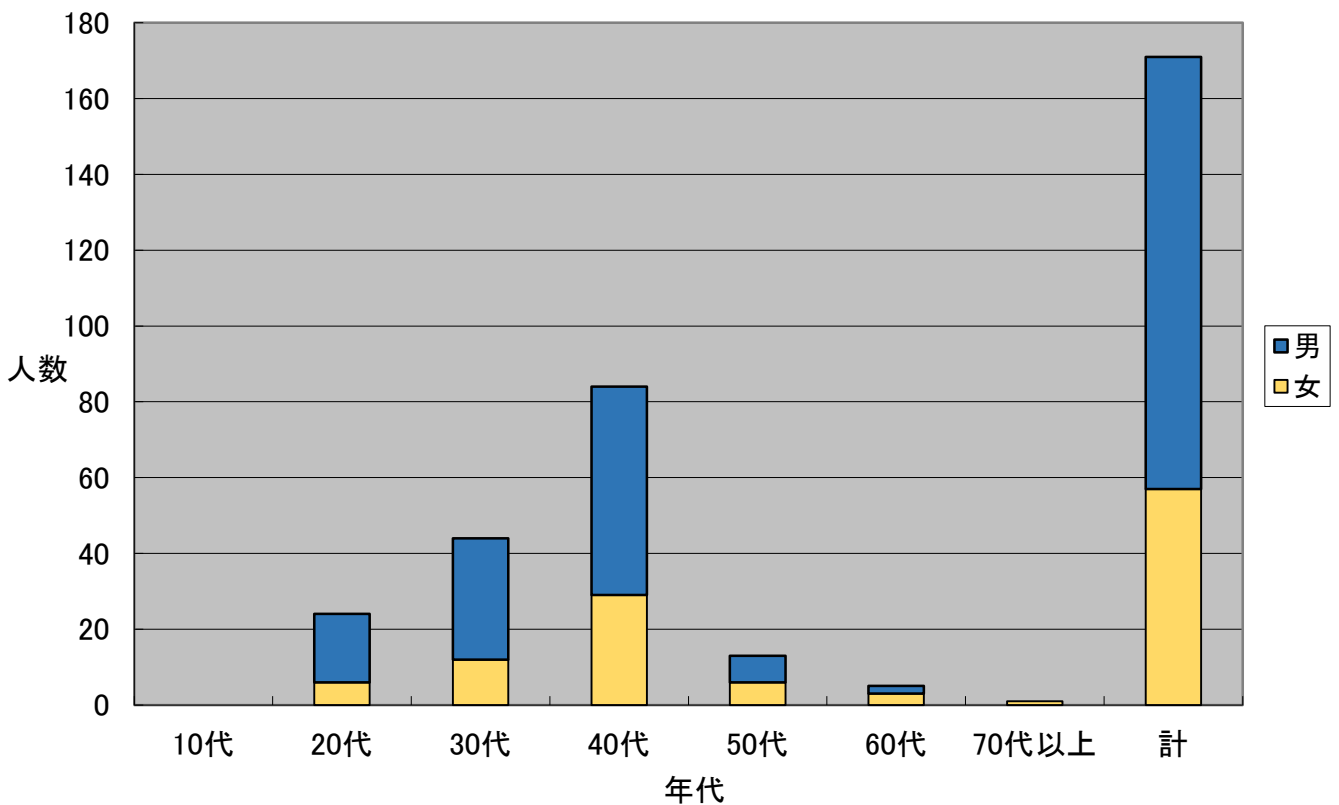
身体障害者手帳

		1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
公民館学級	男	5	2	1	1	1		10
	女	2	2		1			5
ひかり学級	男	1	1	0	0	0	1	3
	女	7	6	0	0	1	1	15
土曜学級	男	3	2	0	1	0	0	6
	女	1	1	0	1	0	0	3
計	男	9	5	1	2	1	1	19
	女	10	9	0	2	1	1	23
総計		19	14	1	4	2	2	42

学級生数とボランティア担当者数の推移



学級生の年代・男女別構成比



担当者・当日スタッフ紹介（2017年4月～2018年3月）

☆：担当者 ★：当日スタッフ

公民館学級（23名）

☆ 石上 美津子
☆ 内田 桃香
☆ 木元 祥平
☆ 櫻井 明美
☆ 柴崎 智啓
☆ 柴田 保之
☆ 関水 末子
☆ 高井 大輔
☆ 高田 正臣
☆ 滝本 克芳
☆ 丹羽 秀次
☆ 能登 あやな
☆ 原子 昌平
☆ 牧野 恵里香
☆ 山之内 敦郎
☆ 和田 創
★ 伊藤 美紀子
★ 今泉 晴世
★ 佐藤 歌恋
★ 鈴木 邦子
★ 富永 節子
★ 松本 萌恵子
★ 的野 賢太

ひかり学級（24名）

☆ 朝比奈 康太
☆ 五十嵐 瑞記
☆ 小林 逸雄
☆ 駒井 祐樹
☆ 酒匂 健太
☆ 佐藤 優香
☆ 舘井 菖
☆ 田中 駿佑
☆ 播本 啓子
☆ 山本 佳奈
☆ 松尾 彩音
☆ 恩田 吉郎
★ 金成 克樹
★ 石井 紗希
★ 伊藤 美保子
★ 落合 理奈
★ 高取 静香
★ 中村 千津子
★ 八木 いさを
★ 芝 佳菜子
★ 芝 明菜
★ 樋田 五気
★ 児玉 佳那姫
★ 村松 由理

土曜学級（17名）

☆ 伊藤 直光
☆ 梅原 光輝
☆ 片岡 千栄子
☆ 小山 京子
☆ 富沢 タツ子
☆ 彦根 睦
☆ 宮城 幸生
☆ 渡辺 祐美子
★ 石橋 堯弥
★ 大貫 徳三
★ 岡村 綾子
★ 小野寺 浩文
★ 河井 収穂
★ 朽方 光代
★ 小山 寿美子
★ 西村 鎮男
★ 難波 誠

行政職員

（生涯学習センター）

☆ 今村 耕一（13～）
☆ 岩田 武（16～）
☆ 菊島 登志子（17～）
☆ 矢嶋 良史（15～）